

# **柳川市地域公共交通網形成計画**

**平成 30 年 3 月**

**柳川市**

# 目 次

---

<b>1. 計画の概要</b>	1
1-1 計画の背景と目的	2
1-2 計画の位置づけ	4
1-3 計画の対象区域と計画期間	5
1-4 計画のマネジメント方針	6
1-5 計画の構成	7
<b>2. 柳川市の地域特性と公共交通の現状</b>	9
2-1 地域特性	10
2-2 公共交通の現状把握	21
<b>3. 市の将来像に対する地域公共交通の役割</b>	43
3-1 柳川市の将来像	44
3-2 公共交通に求められる役割	48
<b>4. 各種調査結果</b>	51
4-1 市民アンケート調査結果	53
4-2 コミュニティバス利用者アンケート調査	64
4-3 福祉バスに関するアンケート調査	69
4-4 柳川駅利用者聞き取り調査	72
4-5 交通事業者ヒアリング調査	78
<b>5. 柳川市の公共交通の問題点・課題</b>	82
5-1 柳川市の公共交通の問題点・課題の考え方	83
5-2 まちづくりとの整合の観点からみた課題	84
5-3 市民等の移動ニーズへの対応の観点からみた課題	87
5-3 持続可能性の確保の観点からみた課題	91
5-4 柳川市における地域公共交通の問題点・課題の整理	97
<b>6. 公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針</b>	98
6-1 柳川市における公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針	99
6-3 計画の目標及び数値指標	106
<b>7. 目標達成に向けた施策展開</b>	115
7-1 取り組みの方向性	116
7-2 目標達成に向けた施策展開	117
<b>8. 評価・検証と改善の考え方</b>	130
8-1 PDCAサイクルの構築	131
8-2 評価の実施方法	132

## 1. 計画の概要

## 1-1 計画の背景と目的

### (1) 計画の背景

本市では、平成 29 年 6 月に「第 2 次柳川市総合計画」を策定し、「水と人とまちが輝く柳川」をまちの将来像に設定、平成 28 年 12 月に策定した「柳川市都市計画マスター プラン」では、公共交通についての基本的な考え方として、「日常生活を支える公共交通ネットワークの実現」と「観光を支える公共交通ネットワークの実現」を掲げ、その実現に向けて公共交通機関の整備による利便性の高いまちづくりの推進を目指しています。

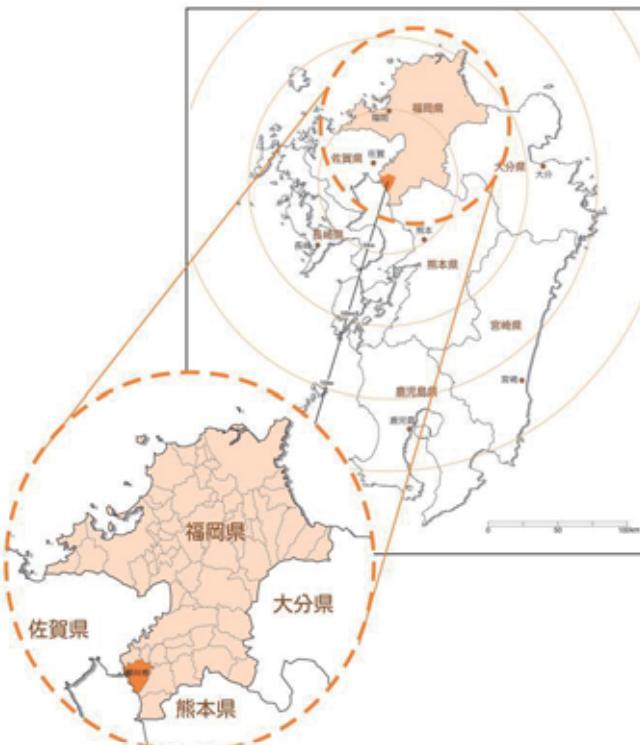
公共交通に関しては、平成 22 年度に「柳川市地域公共交通総合連携計画」を策定し、「コミュニティ交通で高齢者の日常生活における移動を可能とするネットワークを形成」を基本方針に、福祉巡回バス等の既存ストックを活かして、有機的に連携されたネットワークを構築すべく、三橋・大和地域にコミュニティバスを導入し、市民の生活の足の確保に努めてきました。

一方、全国的な少子高齢化が進む中、本市においても高齢者数の増加が見込まれており、今後も都市の活力を維持していくために、高齢者等交通弱者の外出を支える公共交通サービスの一層の充実が求められています。

また、「柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 27 年度)では、移住・定住の促進が戦略に位置付けられており、移住・定住の促進に向けて福岡市や久留米市等への公共交通でのアクセスの強化が重要になっていきます。

さらに、本市の活力の維持・向上に重要な役割を果たす観光振興においては、観光客の市内周遊性を高める交通手段の充実が求められています。

このように市民の豊かな生活の維持及び観光振興を図り、本市が今後も都市の活力を維持・向上していくために、本市における地域公共交通の役割は益々大きくなっています。



出典：柳川市総合計画

## (2)計画の目的

このような背景を踏まえて、本市の地域特性や公共交通の現状、市民ニーズを基に地域公共交通の問題点・課題を把握し、今後のまちづくりを踏まえた本市にとって望ましい地域公共交通のあり方を検討し、市民・来訪者にとって利用しやすく、将来にわたり持続可能な公共交通体系を構築することを目的に、「柳川市地域公共交通網形成計画」を策定しました。

本計画は、「交通政策基本法」及び「改正地域公共交通活性化再生法」に則し、柳川市における望ましい地域公共交通体系とその実現に向けた取り組みを示す地域公共交通のマスタープランとなるものです。

## 1-2 計画の位置づけ

柳川市地域公共交通網形成計画は、まちづくりの最上位計画である「第2次柳川市総合計画」に基づき、市の将来都市構造を示す「柳川市都市計画マスタープラン」や観光振興、保健福祉、教育などの各種計画と連携を図りながら、まちの将来像の実現に向けた「公共交通に関するマスタープラン」を示すものです。

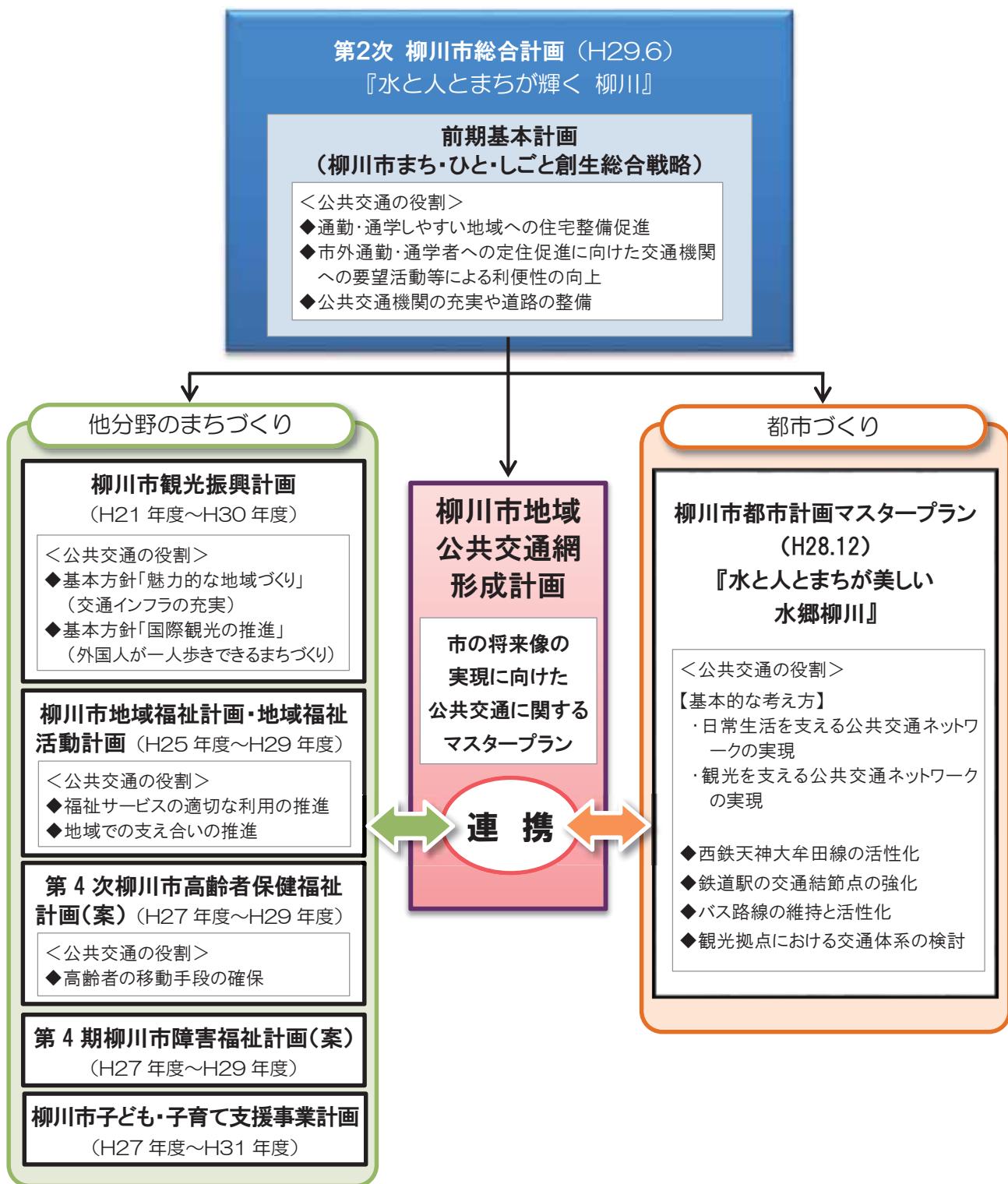


図 柳川市地域公共交通網形成計画の位置づけ

## **1-3 計画の対象区域と計画期間**

---

### **(1) 計画の区域**

本計画は、柳川市全域を対象とします。

ただし、複数市町にまたがる路線等を考慮し、場合により近隣市町も対象とします。

### **(2) 計画期間**

本計画の計画期間は、平成 30 年 4 月から平成 35 年 3 月までの 5 か年とします。

なお、期間内においても必要に応じて計画の見直し・修正を行います。

## 1-4 計画のマネジメント方針

### (1) 実施主体

本計画を進めるにあたっては、「行政」「交通事業者」「住民」が連携し、一体となって、計画目標の達成に向けて取り組む必要があります。それぞれの役割分担を明確にしてよりよい交通体系を構築していきます。

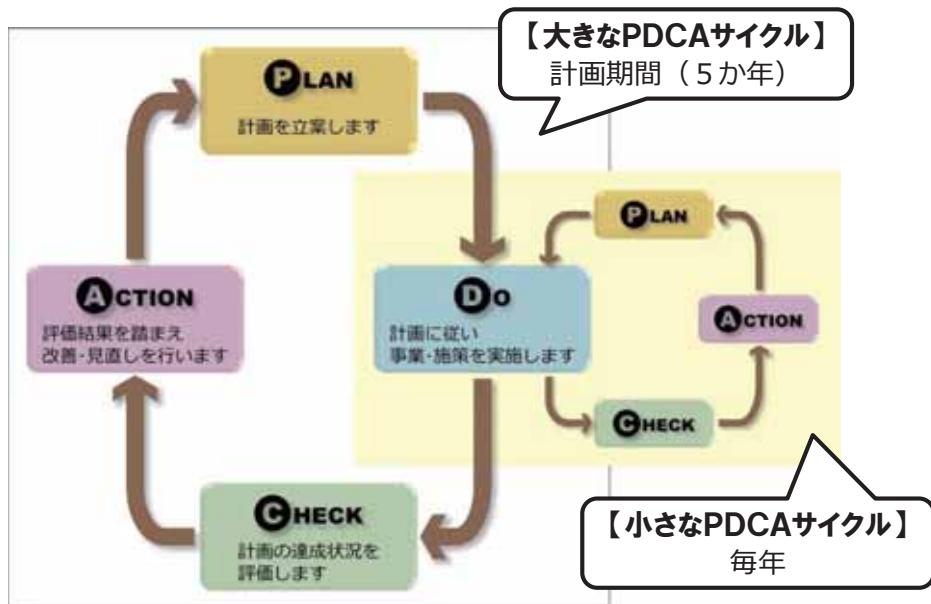
	役 割	具体的な対応イメージ
行政	全体調整及び、最低限の交通サービスの保障	<ul style="list-style-type: none"><li>・路線の再編計画策定</li><li>・バス利用環境の整備</li><li>・利用促進ツールの作成 など</li></ul>
交通事業者	各公共交通機関の運行を担い、市民の移動を確保する	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通網の運営面からの支援</li><li>・利用促進に関する取り組み など</li></ul>
住民	サービスを受けるだけでなく、公共交通の役割を考える、支える、主体的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通網に対する提案、協力</li><li>・バスを利用するなどの直接的な支援 など</li></ul>

### (2) PDCAサイクルの構築

5か年の計画期間全体を対象とした「大きなPDCAサイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCAサイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

▼ PDCAサイクルによる継続的な改善

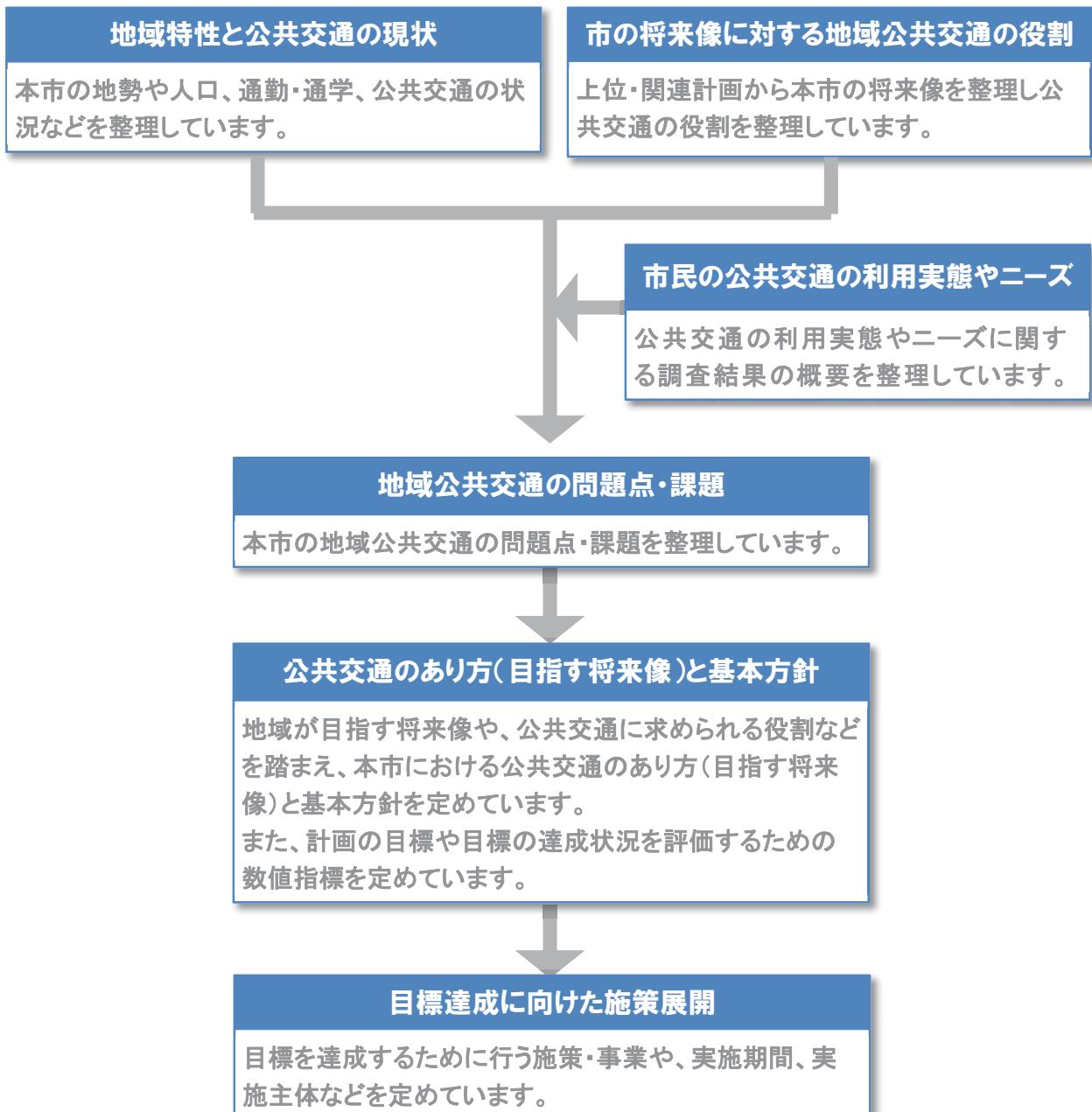
	対象期間	概 要
大きな PDCAサイクル	計画期間 (5か年)	○対象期間全体を通した事業の実施状況や数値目標の達成状況、事業の実施による効果、残された課題などを整理・分析し、次期計画に反映
小さな PDCAサイクル	毎 年	○事業の実施状況などを整理するとともに、利用状況などを継続的にモニタリングし、事業内容の修正やスケジュールの見直しなどを実施



▲ PDCAサイクルの構築イメージ

## 1-5 計画の構成

柳川市地域公共交通網形成計画は、以下の項目で構成しています。





## **2. 柳川市の地域特性と公共交通の現状**

## 2-1 地域特性

### (1) 地勢・沿革

○本市は、福岡県南部、筑後平野の西南端に位置し、東西 11km、南北 12km であり、北

は大川市、大木町、筑後市、東はみやま市に接し、南は有明海に面しています。

○本市の大部分は、古くから開拓・干拓された大小規模の干拓地が魚鱗状に広がる海面干  
拓地帯であり、標高は 0~3.5m の平坦な低地で、0°から 3°の緩やかな傾斜で有明海に  
向かって広がっています。

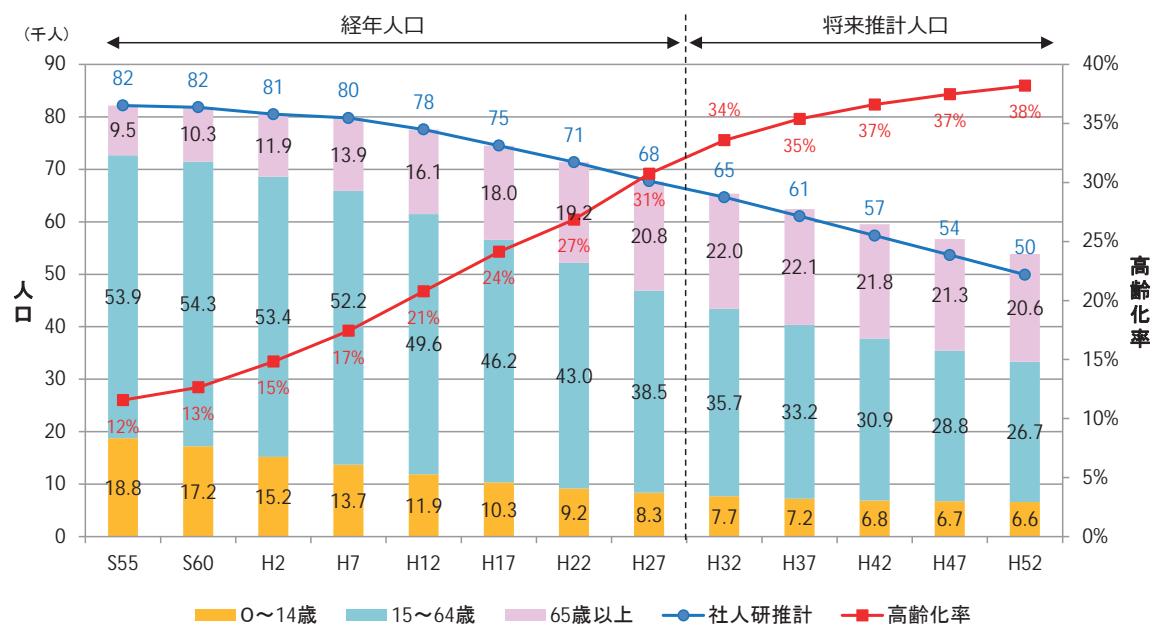
○本市は、県庁所在地の福岡市まで約 50km、久留米市まで約 20km、大牟田市まで約 15km  
の距離にあり、西鉄天神大牟田線などを利用した通勤・通学圏にあります。



図 柳川市の位置

## (2)人口

- 柳川市の人口は減少傾向にあり、平成 27 年度時点で約 6 万 7800 人となっています。
- 柳川市人口ビジョンでは、柳川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けた各種取り組みを実施し、人口減少を緩やかにすることとしています。
- しかしながら、そうした取り組みを実施しても、今後の人口減少と高齢化率の上昇は避けられず、平成 32 年度には高齢化率が 34%まで上昇すると見込まれています。
- 地域別にみても、各地域ともに人口は減少傾向、高齢化率は増加傾向にあります。



※S55～H27 年：経年人口、H32～H52 年：将来推計人口（将来推計人口は H22 値ベース）

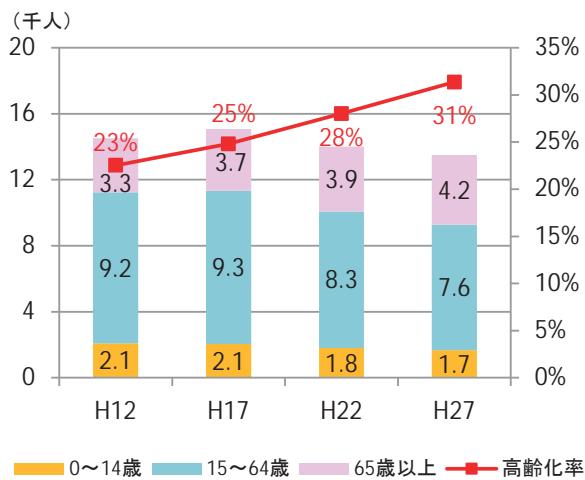
出典：経年人口／S55～H27：国勢調査、将来推計人口／柳川市人口ビジョン

図 柳川市の人口推移と将来推計人口

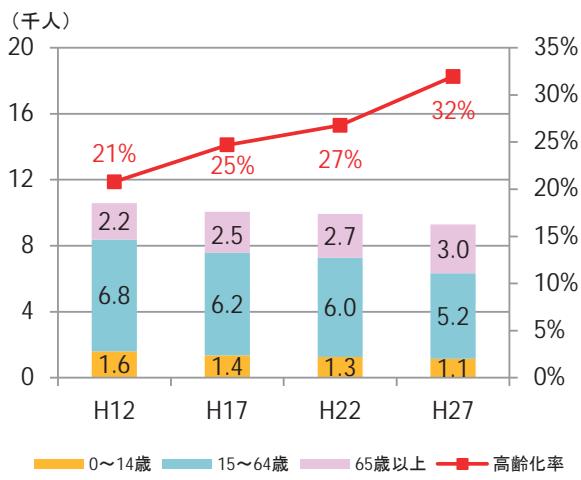


図 各地域の位置

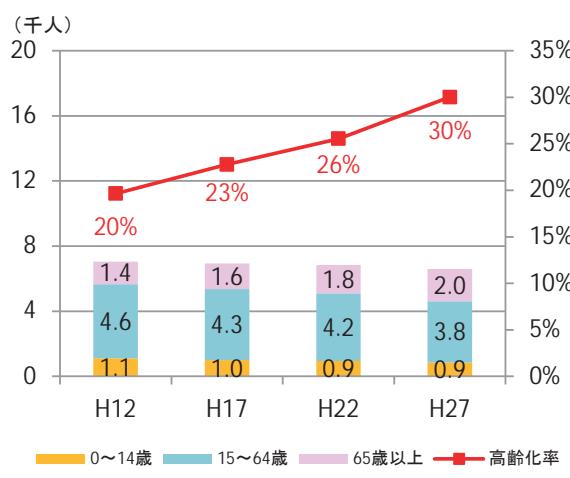
### 《柳城地域》



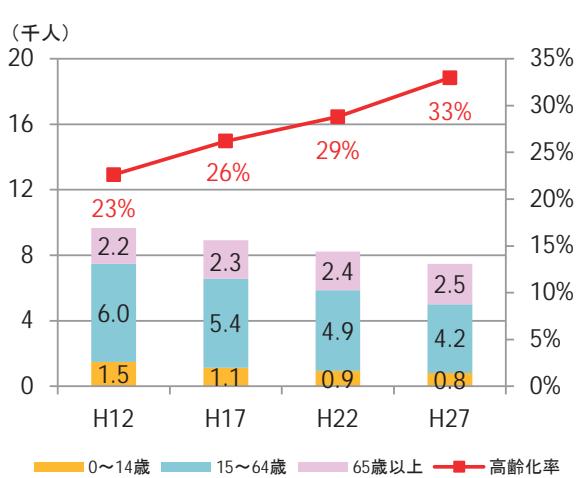
### 《昭代地域》



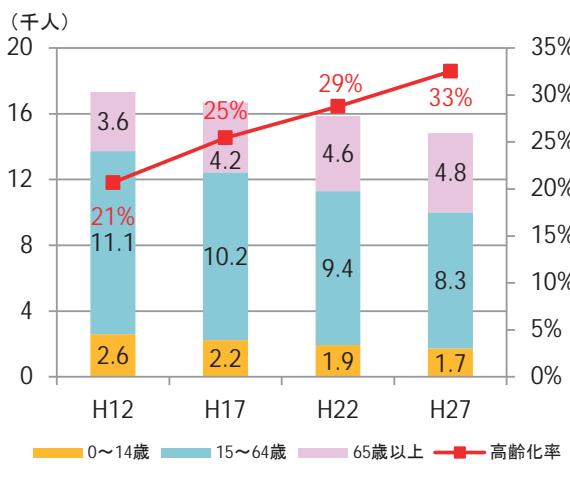
### 《蒲池地域》



### 《柳南地域》



### 《大和地域》



### 《三橋地域》

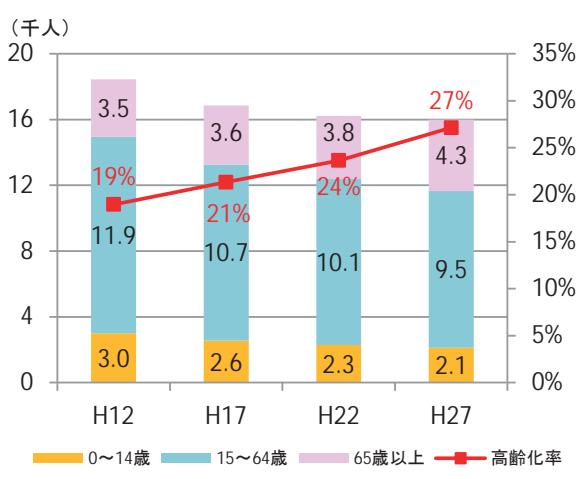
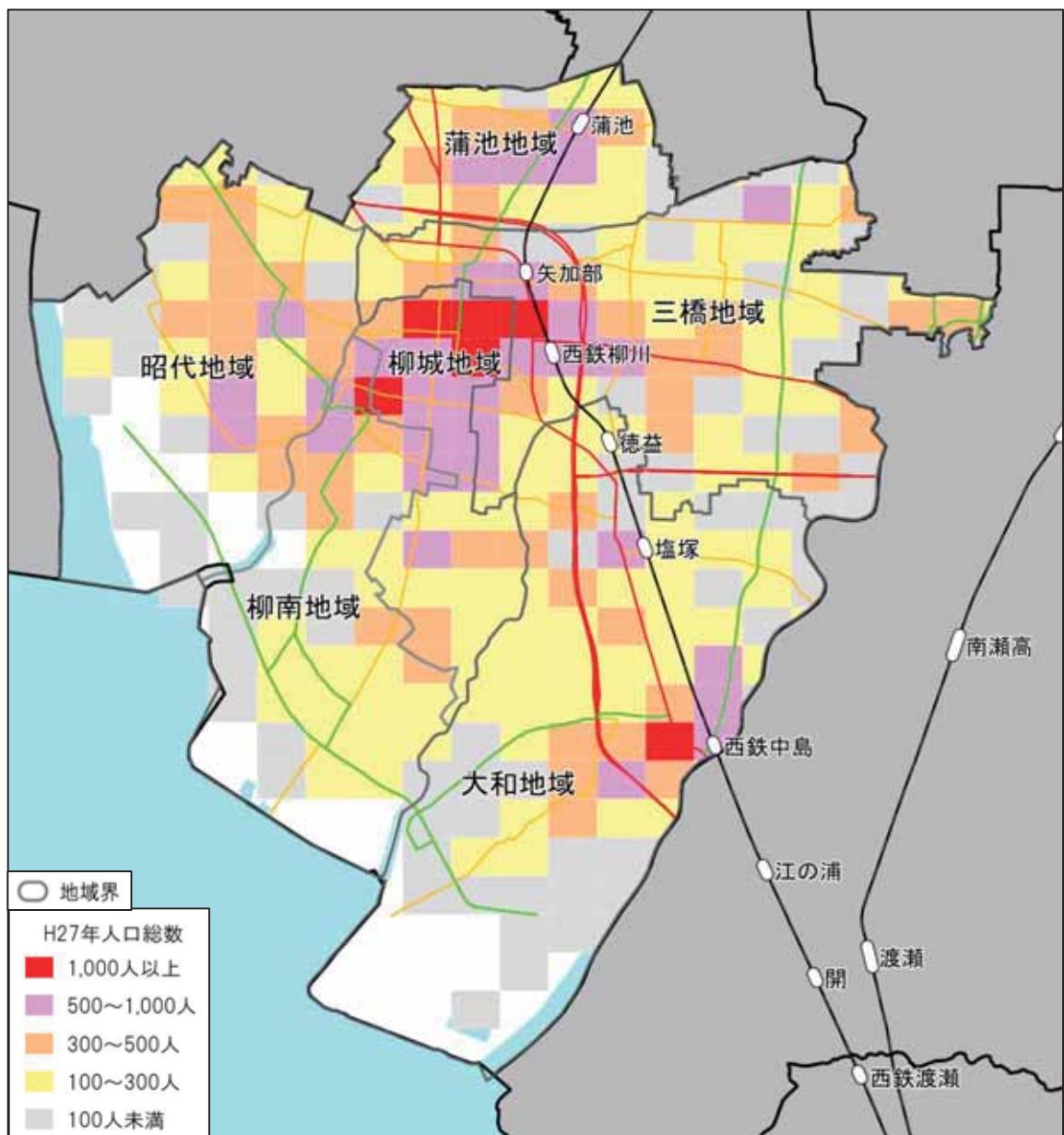


図 地域別の人口推移

出典：国勢調査

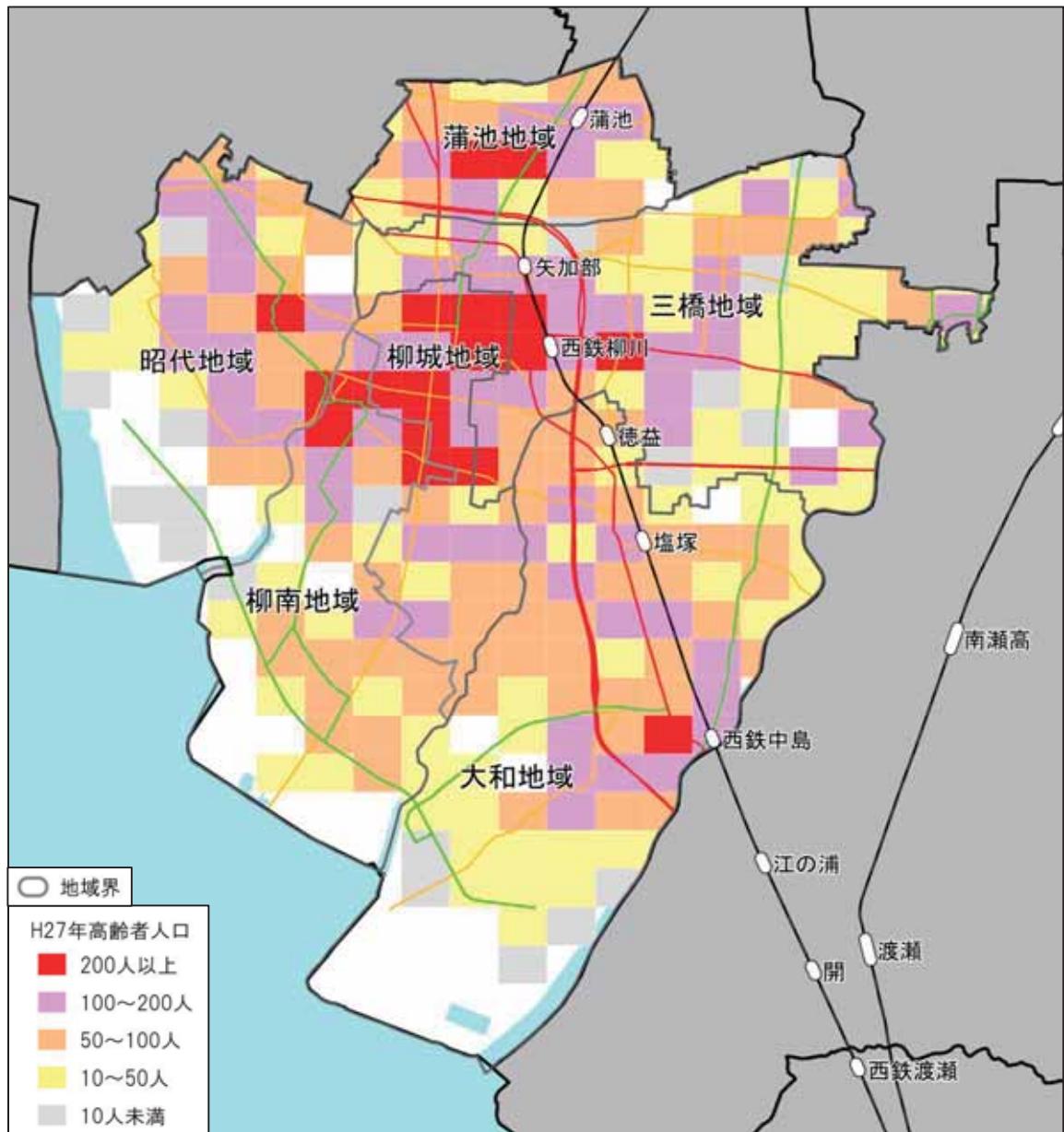
○人口を面的にみると、本市の中心である柳城地域に人口が集積するほか、西鉄中島駅周辺にも集積がみられます。



出典：平成 27 国勢調査

図 柳川市の500mメッシュ総人口 (H27)

○高齢者の人口分布も概ね同様の傾向を示していますが、蒲池地域や昭代地域に集積が高い地域がみられます。



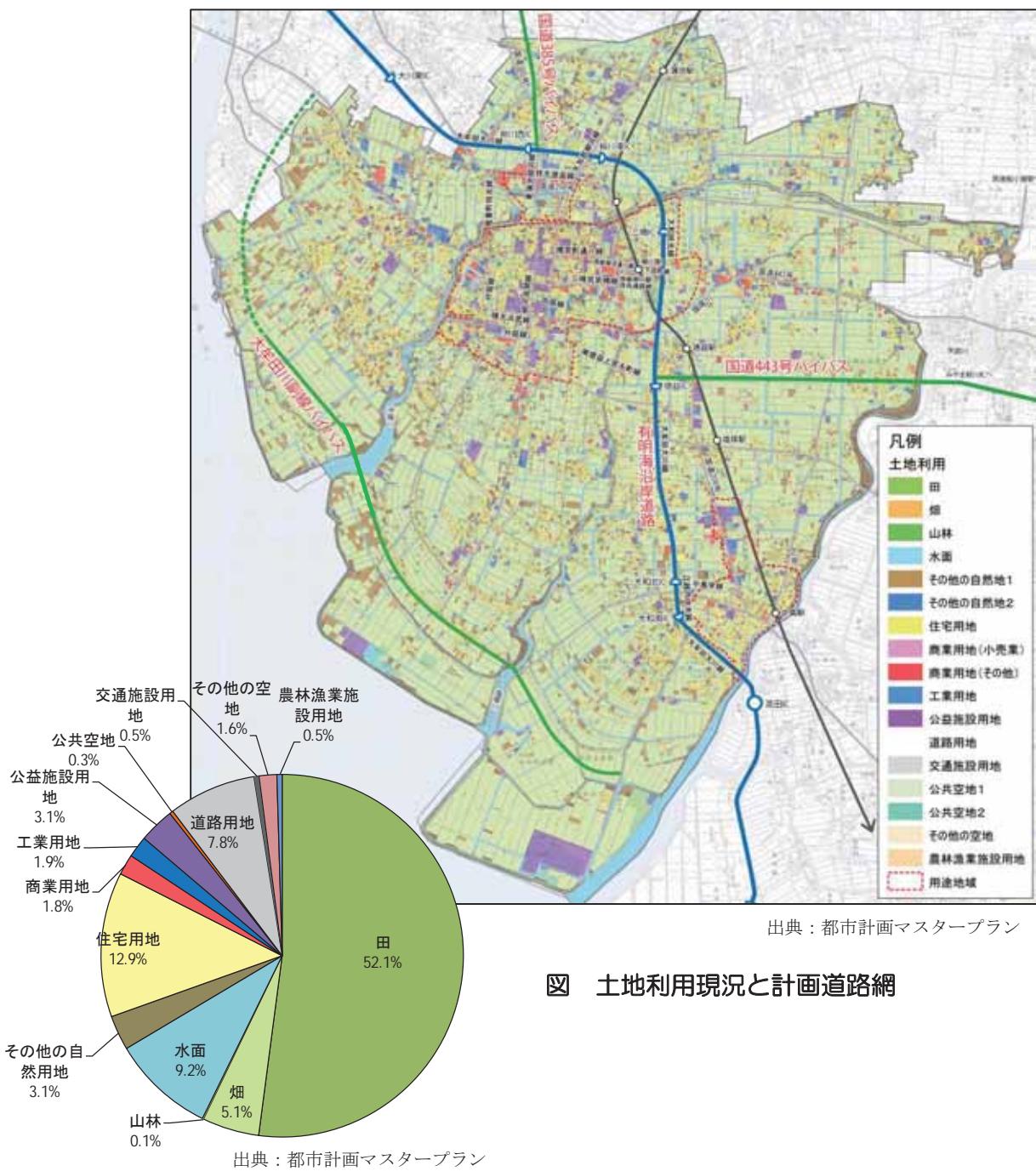
出典：平成 27 国勢調査

図 柳川市の 500m メッシュ高齢者人口 (H27)

### (3) 土地利用状況

○柳川市の総面積は 77.15 km<sup>2</sup>で、その約 7 割が田や畠、水面などの自然的土地利用となっています。一方、住宅用地は約 17.6%を占めており、その分布状況をみると、柳城地域や大和地域などの一部にはまとまった集積がみられますが、郊外では薄く広がっている状況です。

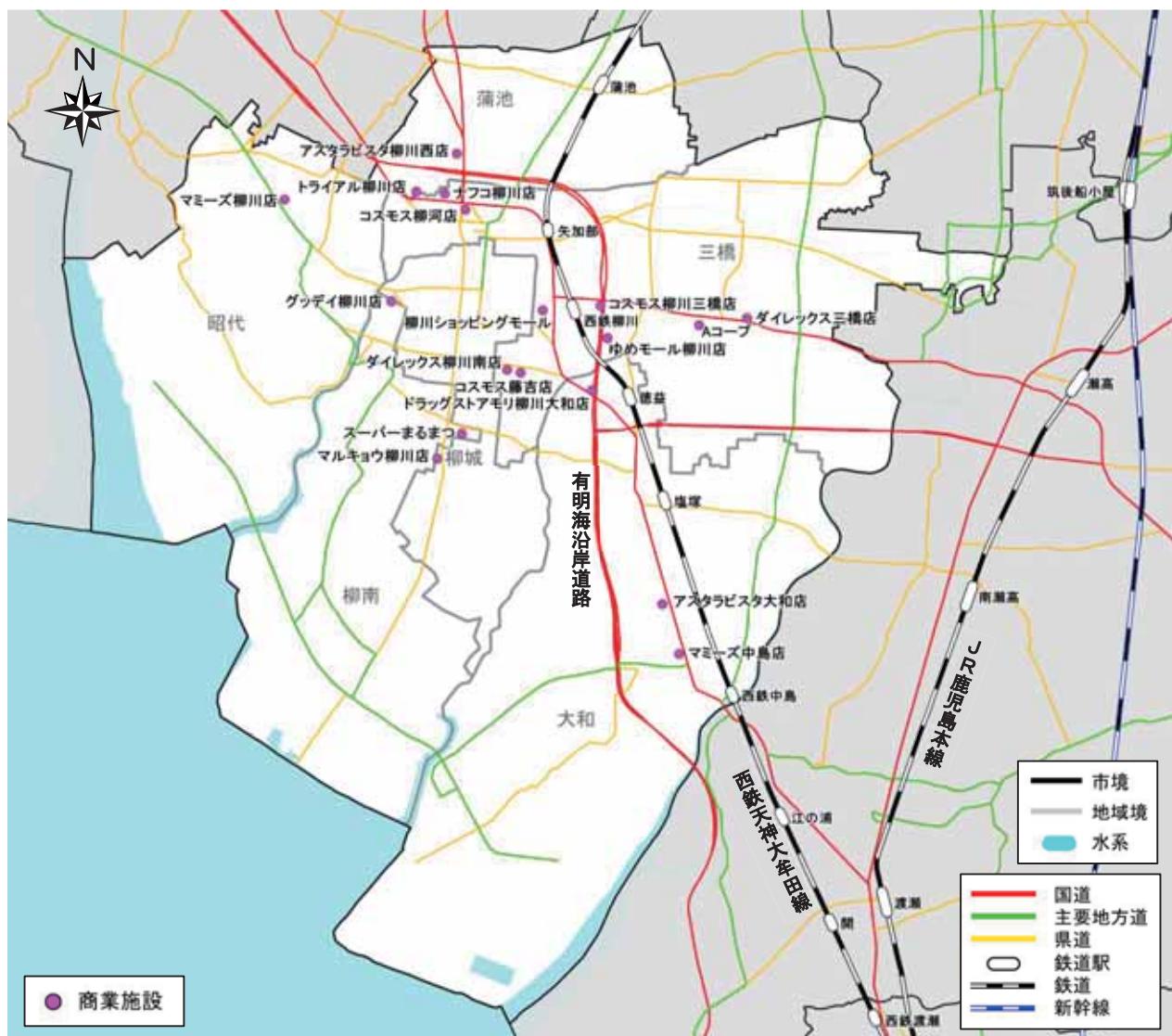
○本市では、一定のまとまりのある集落が市全域に広く点在しており、その集落間の距離が離れているといった特徴がみられます。



## (4) 主要施設

○市民の生活移動での目的地となる商業施設、病院、公共施設などは、主に中心市街地に集積しています。また、市町村合併前の旧町の中心であった大和・三橋庁舎周辺にも商業施設や福祉施設などの集積があり、大和・三橋地域住民の生活移動の主な目的地となっています。

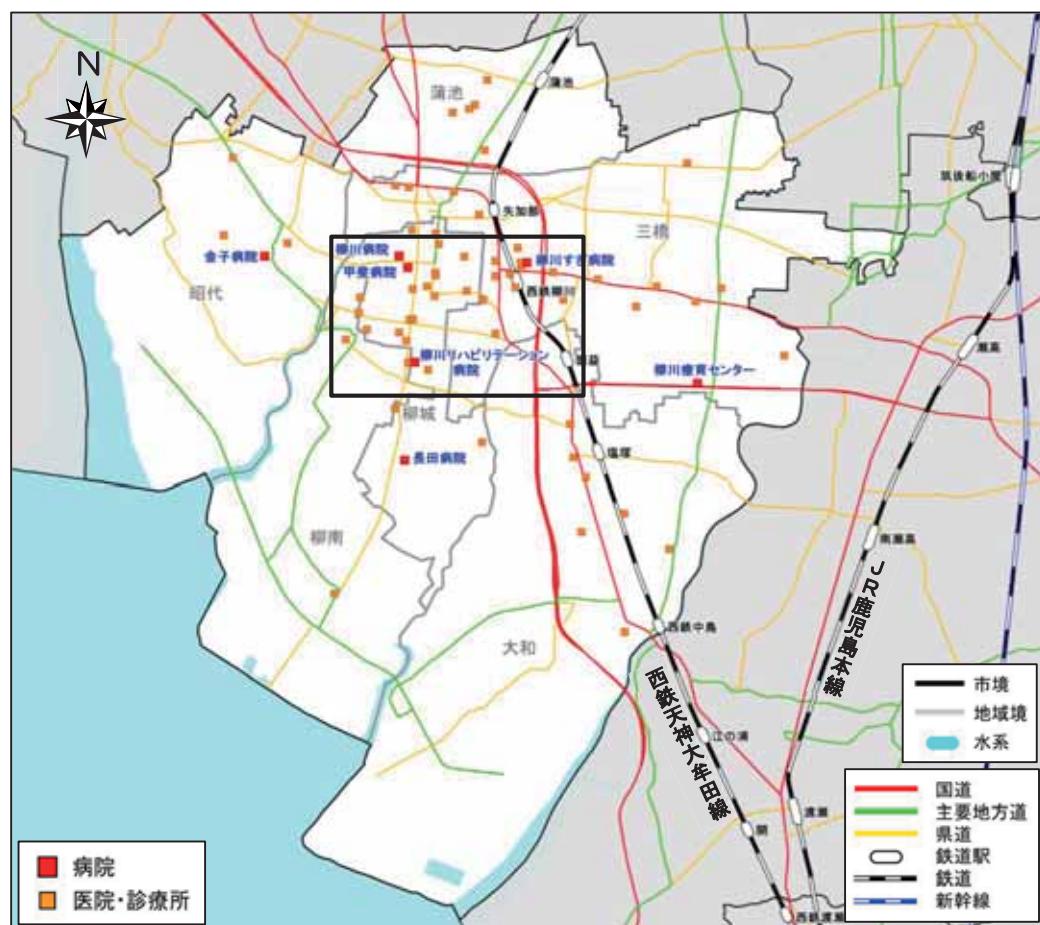
### 1) 商業施設



資料：全国大型小売店総覧 2014（東洋経済統計）・柳川市資料

図 商業施設の立地状況

## 2) 医療施設



資料：国土数値情報

図 医療施設の立地状況



図 中心部拡大図

### 3) 公共施設・教育施設・集会施設



## (5)人の移動特性

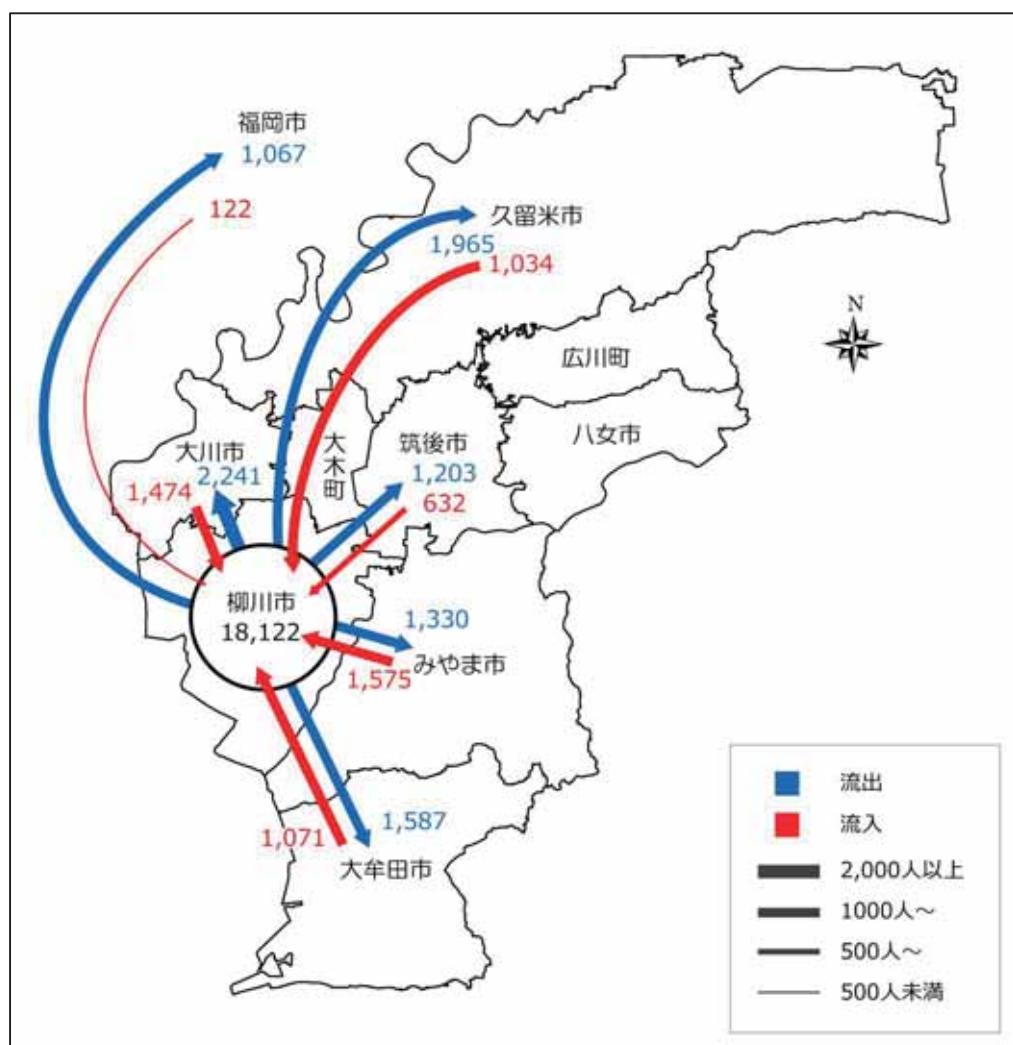
### 1) 通勤

○柳川市内には約 31,000 人の就業者が居住しており、そのうちの約 6 割にあたる約 18,000 人は市内で就業し、約 4 割は市外に通勤しています。

○市外の通勤先で最も多いのは大川市で約 2,200 人が通勤しており、次いで久留米市が約 2,000 人、大牟田市が約 1,600 人となっています。また、福岡市にも約 1,000 人が通勤しています。

○柳川市内では約 27,000 人が就業しており、そのうちの約 3 割が市外から通勤しています。

○市外からの通勤者が最も多いのはみやま市で約 1,600 人が柳川市に通勤しており、次いで大川市から約 1,500 人、大牟田市から約 1,100 人、久留米市から約 1,000 人となっています。



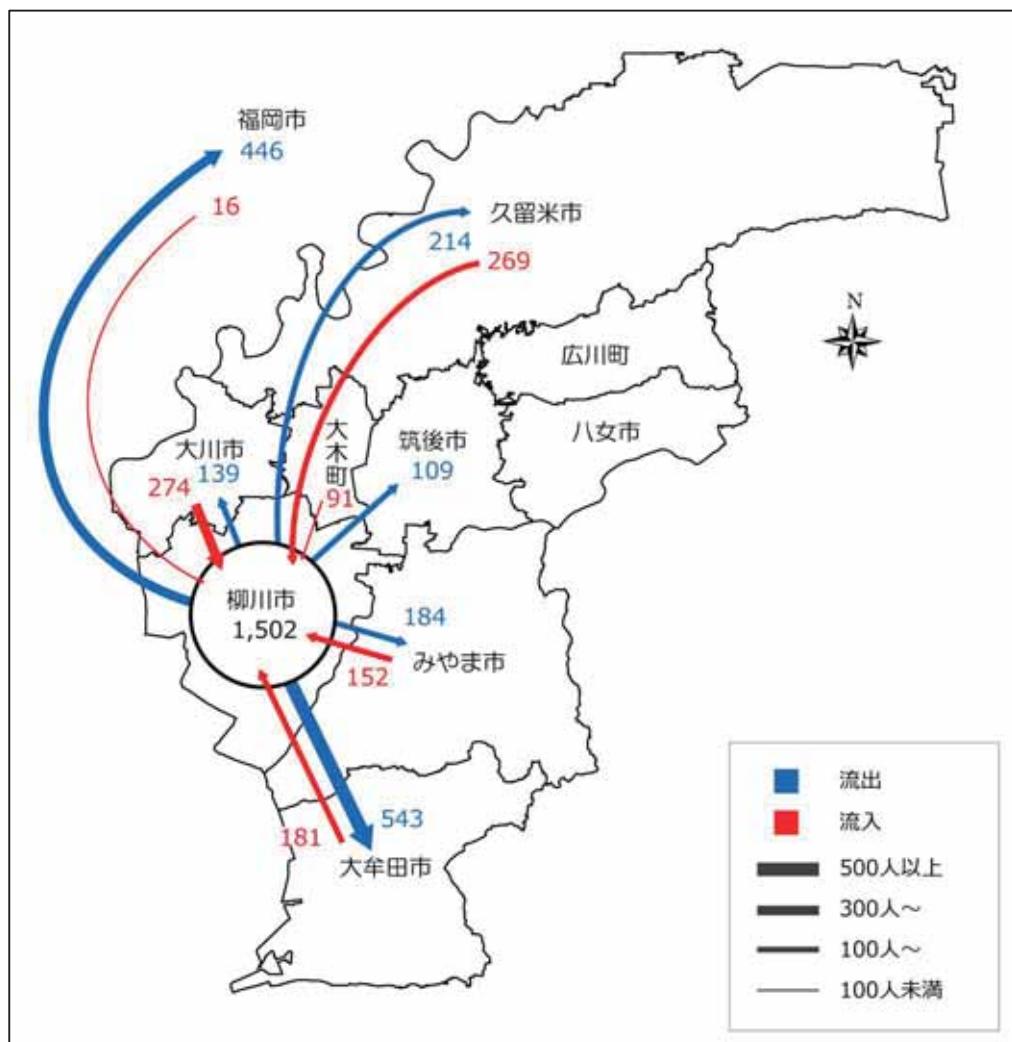
※15 歳以上の就業者、従業地「不詳」を含む

出典：平成 27 年国勢調査

図 柳川市と主な通勤先市町との通勤流動

## 2) 通学

- 柳川市内には約 3,600 人の 15 歳以上の通学者が居住しており、そのうちの約 4 割にあたる約 1,500 人は市内の学校に通学し、約 6 割は市外の学校に通学しています。
- 市外の通学先で最も多いのは大牟田市で約 550 人、次いで福岡市が約 450 人、久留米市が約 200 人となっています。
- 柳川市内には約 3,400 人が通学しており、そのうちの半数以上は市外からの通学者です。
- 市外からの通学者が最も多いのは大川市で約 270 人、次いで久留米市からも約 270 人、大牟田市から約 180 人、みやま市から約 150 人となっています。



※15 歳以上の通学者、通学地「不詳」を含む  
出典：平成 27 年国勢調査

図 柳川市と主な通学先市町との通学流動

## 2-2 公共交通の現状把握

○柳川市内には、西鉄天神大牟田線（鉄道）のほか、民間の路線バスでは西鉄バス、西鉄バス久留米、堀川バスの3社が運行しています。また、柳川市が運営するコミュニティバス「べにばな号」が運行しているほか、旧三橋町、旧大和町では各総合保健福祉センターへの無料送迎バスが運行しています。

○隣接する筑後市には九州新幹線の「筑後船小屋駅」があるほか、みやま市にはJR鹿児島本線の「瀬高駅」などがあります。

○広域移動については、鉄道は西鉄柳川駅をはじめとする西鉄6駅から西鉄天神大牟田線を利用して久留米市や大牟田市、福岡市へのアクセスが可能です。また、九州新幹線の「筑後船小屋駅」やJR鹿児島本線の「瀬高駅」からは、他県にもアクセスが可能となっています。路線バスは東西方向に運行しており、大川市や佐賀市、みやま市まで運行しています。



図 柳川市の公共交通ネットワーク

表 柳川市内の公共交通の運行本数一覧

交通機関	路線名	系統名	行先方向	運行本数	運行曜日
鉄道	西鉄天神大牟田線	特急	福岡方面	32本	平日
		特急	太牟田方面	33本	
		特急	福岡方面	31本	土日祝
		特急	太牟田方面	32本	
路線バス	佐賀柳川線	佐賀方面	36本	平日	
		柳川方面	36本		
		佐賀方面	30本	土曜	
		柳川方面	30本		
		佐賀方面	30本	日祝	
	沖新線	柳川方面	30本		
		早津江方面	16本	平日	
		柳川方面	16本		
		早津江方面	15本	土曜	
		柳川方面	15本	日祝	
市内循環線	循環	循環	5本	平日	
		循環	4本	土曜	
		循環	2本	日祝	
	柳川瀬高線	瀬高方面	25本		
		柳川方面	26本	平日	
コミュニティバス	蒲池線	瀬高方面	20本	土曜	
		柳川方面	21本		
		瀬高方面	16本	日祝	
		柳川方面	16本		
		ひがしルート	循環	3本	月・水・金
	昭代線	にしルート	循環	3本	
		循環	5本	火・木・土	
	両開線	ひがしルート	循環	3本	月～土
		にしルート	循環	3本	月～土
		循環	4本	月・木	
大和みなみルート	循環	4本	火・金		
	大和きたルート	循環	4本		
		循環	4本	水・土	
	三橋ルート	循環	4本		
		循環	4本	水・土	
福祉バス	旧三橋町無料送迎バス	吉開ルート	往復	1本	
		下久末ルート	往復	1本	概ね週に1回
		柳町横手ルート	往復	1本	
		中山ルート	往復	1本	
	旧大和町無料送迎バス	北二重ルート	往復	1本	
		西在内山ルート	往復	1本	概ね週に1回
		上塙塚東ルート	往復	1本	
	出典：JR	高川ルート	往復	1本	資料
		延岡北口ルート、西脇駅HP、西脇駅HP、	往復	1本	



## (1) 運行状況

### ① 西鉄天神大牟田線

○柳川駅から福岡方面への特急は平日 32 本、大牟田方面へ 33 本あり、概ね 30 分に 1 本運行しています。

○また、普通便も概ね 30 分に 1 本運行しており、特急、普通を合わせると、15 分に 1 本運行しています。

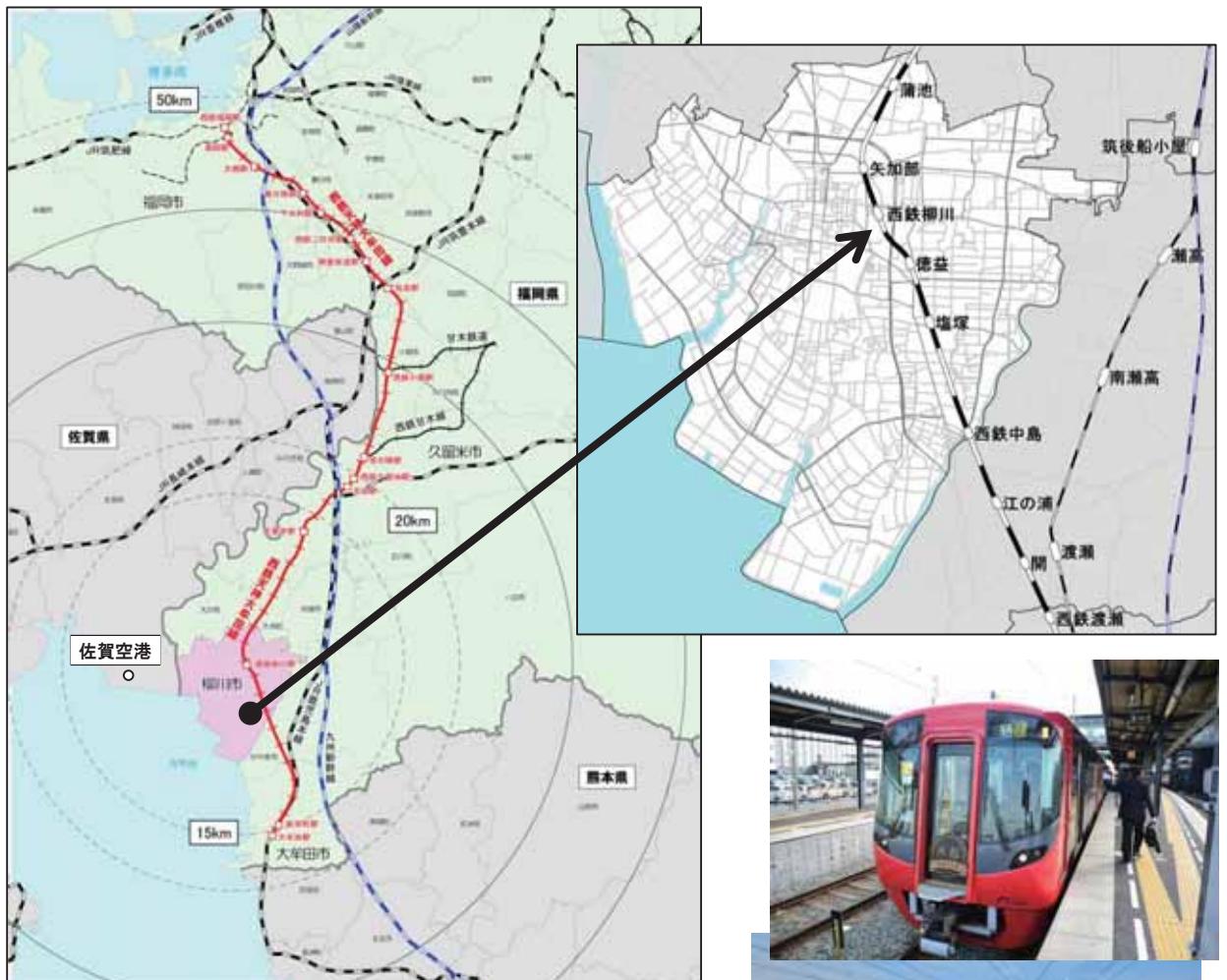


表 西鉄天神大牟田線の運行本数一覧

運行曜日	系統名	福岡方面	大牟田方面
平日	特急	32本	33本
	急行	7本	4本
	普通	41本	39本
土日祝	特急	31本	32本
	急行	6本	5本
	普通	40本	38本

※西鉄柳川駅における運行本数

資料：西鉄 HP (平成 29 年 11 月末時点)

## ② 路線バス－西鉄バス(佐賀柳川線)

○西鉄柳川駅から大川市や佐賀駅バスセンター方面へ向かう、平日 36 往復・72 便、土曜、日祝日 30 往復・60 便が運行しています。

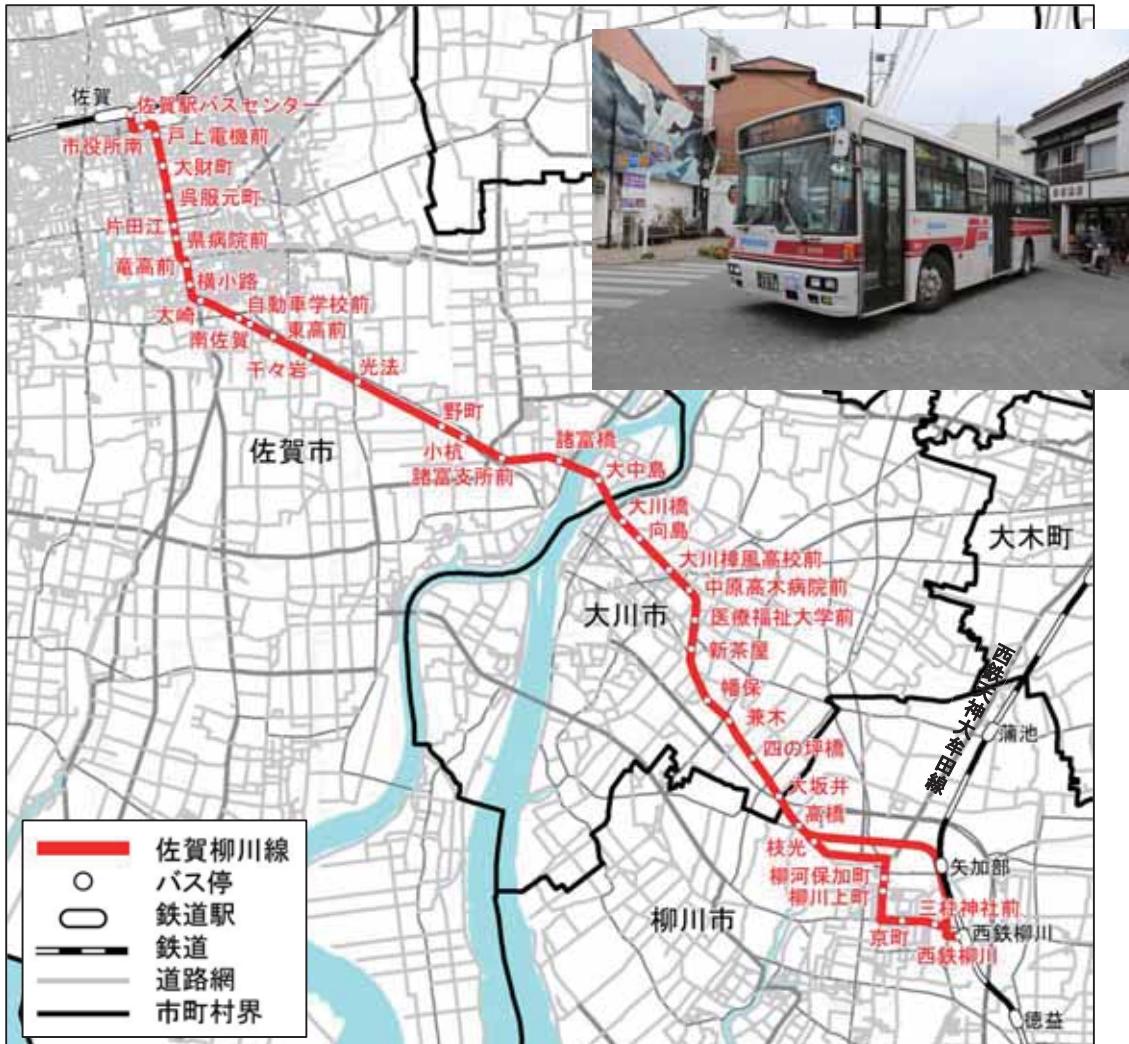


図 佐賀柳川線路線図

表 佐賀柳川線の運賃

		佐賀駅バスセンター		
		大隈記念館入口	諸富支所前	
	枝光	280	350	430
	京町	210	370	550
西鉄柳川		170	310	620
		150	170	710
		310	460	640
		460		710

### ③ 路線バスー西鉄バス久留米(沖新線・市内循環線)

○沖新線は西鉄柳川駅から柳川市役所、柳川高校、御花などを経由して、佐賀市早津江までを結ぶ路線であり、平日は16往復/日運行しています。

○市内循環線は、西鉄柳川駅から京町、市役所、伝習館高校、柳川病院、御花、柳川高校を経由する循環路線で、平日は5本/日運行しています。

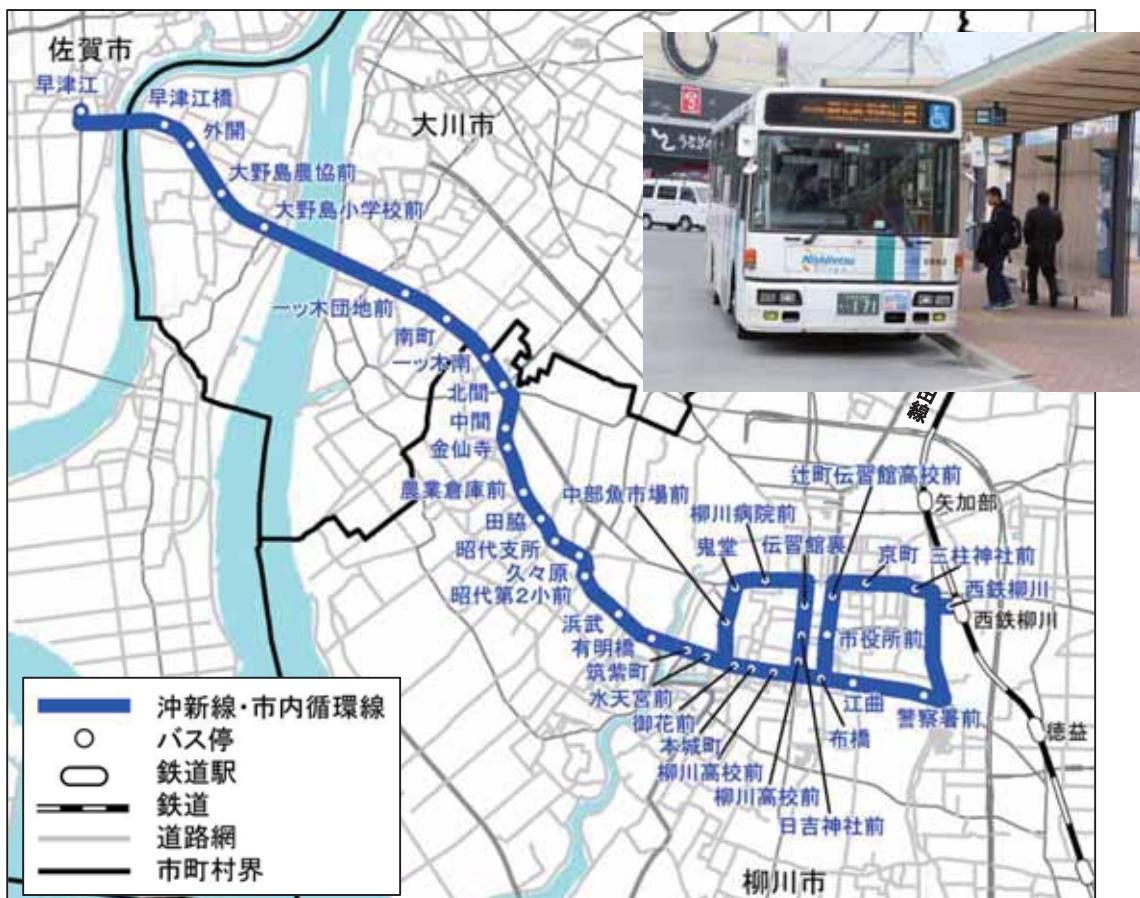


図 沖新線・市内循環線路線図

表 沖新線・市内循環線の運賃

沖新線

			早津江
		中間	280
	御花前		
		200	360
	柳川高 校前	150	230
		150	360
市役所 前		150	250
京町	170	170	420
西鉄柳 川	150	170	300
			420

市内循環線

	柳川高 校前	柳川病 院前	御花前	市役所 前	京町
西鉄柳 川	170	200	250	290	300

#### ④ 路線バスー堀川バス(瀬高柳川線)

○瀬高柳川線は、JR瀬高駅から国道443号を通って、山門高校、JA柳川三橋支所、西鉄柳川駅、京町、伝習館高校、市役所、杉森高校、水の郷を経由して、かんぽの宿まで運行している路線で、平日は25.5往復/日運行しています。



## 四 瀨高柳川線路線図

### 表 瀬高柳川線の運賃



## ⑤ 柳川駅での鉄道と路線バスの乗り継ぎ状況

○柳川駅において路線バス各路線は、西鉄天神大牟田線の特急もしくは急行に対して、福岡方面の行く際には概ね 10~20 分以内、福岡方面から柳川市に来る際には概ね 5~10 分以内で接続しています。

表 柳川駅での鉄道と路線バスの乗り継ぎ状況：市内から福岡方面：平日

西鉄天神 大牟田線 出発時刻	西鉄バス						堀川バス(瀬高柳川線)			
	佐賀柳川線		沖新線		市内循環線		柳川方面		瀬高方面	
	到着時刻	待ち時間	到着時刻	待ち時間	到着時刻	待ち時間	到着時刻	待ち時間	到着時刻	待ち時間
1 5:39										
2 6:00										
3 6:20										
4 6:38	6:22	0:16								
5 6:54	6:42	0:12	6:41	0:13					6:47	0:07
6 7:14	7:02	0:12	7:07	0:07						
7 7:33	7:23	0:10					7:19	0:14	7:20	0:13
8 7:49	7:39	0:10	7:42	0:07						
9 8:10	7:59	0:11	8:06	0:04			7:57	0:13	7:54	0:16
10 8:37	8:24	0:13			8:24	0:13	8:28	0:09	8:24	0:13
11 9:10	8:59	0:11	9:02	0:08	8:54	0:16	9:00	0:10	8:59	0:11
12 9:37	9:24	0:13			9:24	0:13	9:30	0:07	9:26	0:11
13 10:06	9:50	0:16	9:52	0:14			9:56	0:10	9:56	0:10
14 10:36	10:20	0:16					10:27	0:09	10:25	0:11
15 11:06	10:50	0:16					10:57	0:09		
16 11:36	11:20	0:16	11:22	0:14					11:25	0:11
17 12:06	11:50	0:16					11:56	0:10	11:55	0:11
18 12:36	12:20	0:16	12:22	0:14			12:26	0:10	12:25	0:11
19 13:06	12:50	0:16					12:56	0:10	12:55	0:11
20 13:36	13:20	0:16					13:26	0:10		
21 14:06	13:50	0:16	13:52	0:14					13:55	0:11
22 14:36	14:22	0:14					14:26	0:10		
23 15:06	14:50	0:16	14:52	0:14					14:55	0:11
24 15:36	15:20	0:16					15:26	0:10	15:25	0:11
25 16:06	15:50	0:16	15:52	0:14			15:57	0:09	15:55	0:11
26 16:36	16:20	0:16			16:24	0:12	16:28	0:08	16:25	0:11
27 17:06	16:45	0:21	16:52	0:14			16:58	0:08	16:55	0:11
28 17:36	17:20	0:16					17:28	0:08	17:25	0:11
29 18:06	17:54	0:12	17:42	0:24			17:59	0:07	17:56	0:10
30 18:36	18:14	0:22			18:14	0:22	18:30	0:06	18:26	0:10
31 19:06	18:54	0:12					19:00	0:06	18:56	0:10
32 19:37	19:24	0:13	19:12	0:25			19:30	0:07	19:26	0:11
33 20:07	19:50	0:17					19:58	0:09	19:56	0:11
34 20:36	20:20	0:16	20:12	0:24			20:28	0:08	20:26	0:10
35 21:06	20:48	0:18					20:57	0:09		
36 21:36	21:23	0:13	21:22	0:14						
37 22:06	22:02	0:04								
38 22:41										
39 23:06										

※赤文字：特急 緑文字：急行

出典：西鉄バス HP、堀川バス HP

表 柳川駅での鉄道と路線バスの乗り継ぎ状況：福岡方面から市内：平日

西鉄天神 大牟田線	西鉄バス						堀川バス(瀬高柳川線)				
	佐賀柳川線		沖新線		市内循環線		柳川方面		瀬高方面		
	到着時刻	出発時刻	待ち時間	出発時刻	待ち時間	出発時刻	待ち時間	出発時刻	待ち時間	出発時刻	待ち時間
1	6:01										
2	6:37							6:47	0:10		
3	6:54	7:00	0:06	7:00	0:06						
4	7:15	7:26	0:11					7:20	0:05	7:19	0:04
5	7:49	7:56	0:07	7:56	0:07	8:00	0:11	7:54	0:05	7:57	0:08
6	8:20	8:26	0:06	8:30	0:10	8:30	0:10	8:24	0:04	8:28	0:08
7	8:54	9:02	0:08			9:00	0:06	8:59	0:05	9:00	0:06
8	9:21	9:28	0:07	9:30	0:09			9:26	0:05	9:30	0:09
9	9:51	9:58	0:07	10:00	0:09			9:56	0:05	9:56	0:05
10	10:20	10:28	0:08					10:25	0:05	10:27	0:07
11	10:50	10:58	0:08	11:00	0:10					10:57	0:07
12	11:20	11:28	0:08					11:25	0:05		
13	11:50	11:58	0:08	12:00	0:10			11:55	0:05	11:56	0:06
14	12:20	12:28	0:08					12:25	0:05	12:26	0:06
15	12:50	12:58	0:08					12:55	0:05		
16	13:20	13:28	0:08	13:30	0:10					13:26	0:06
17	13:50	13:58	0:08					13:55	0:05		
18	14:20	14:28	0:08							14:26	0:06
19	14:50	14:58	0:08	15:00	0:10			14:55	0:05		
20	15:20	15:28	0:08					15:25	0:05	15:26	0:06
21	15:50	15:58	0:08			16:00	0:10			15:57	0:07
22	16:20	16:28	0:08	16:30	0:10			16:25	0:05	16:28	0:08
23	16:50	16:58	0:08	17:00	0:10			16:55	0:05	16:58	0:08
24	17:20	17:28	0:08			17:50	0:30	17:25	0:05	17:28	0:08
25	17:51	17:58	0:07	18:00	0:09			17:56	0:05	17:59	0:08
26	18:21	18:28	0:07					18:26	0:05	18:30	0:09
27	18:51	18:58	0:07	19:00	0:09			18:56	0:05	19:00	0:09
28	19:21	19:33	0:12					19:26	0:05	19:30	0:09
29	19:51	19:58	0:07	20:00	0:09					19:58	0:07
30	20:21	20:28	0:07					20:26	0:05	20:28	0:07
31	20:51	20:58	0:07	21:00	0:09					20:57	0:06
32	21:21	21:28	0:07								
33	21:51	21:58	0:07	22:00	0:09						
34	22:21	22:58	0:37								
35	22:51										
36	23:26										
37	0:00										

※赤文字:特急 緑文字:急行

出典：西鉄バス HP、堀川バス HP

## ⑥ コミュニティバス

○柳川市内には、各地域から水の郷や市役所、柳川病院、柳川ショッピングモールへのアクセスや各地域の身近な外出先までのアクセスを支えることを目的としたコミュニティバス「べにばな号」が、全8ルートで運行しています。

○両開線は月～土までの週6日、蒲池線と昭代線は週3日、大和みなみ線、大和きた線、三橋線は週2日運行しています。

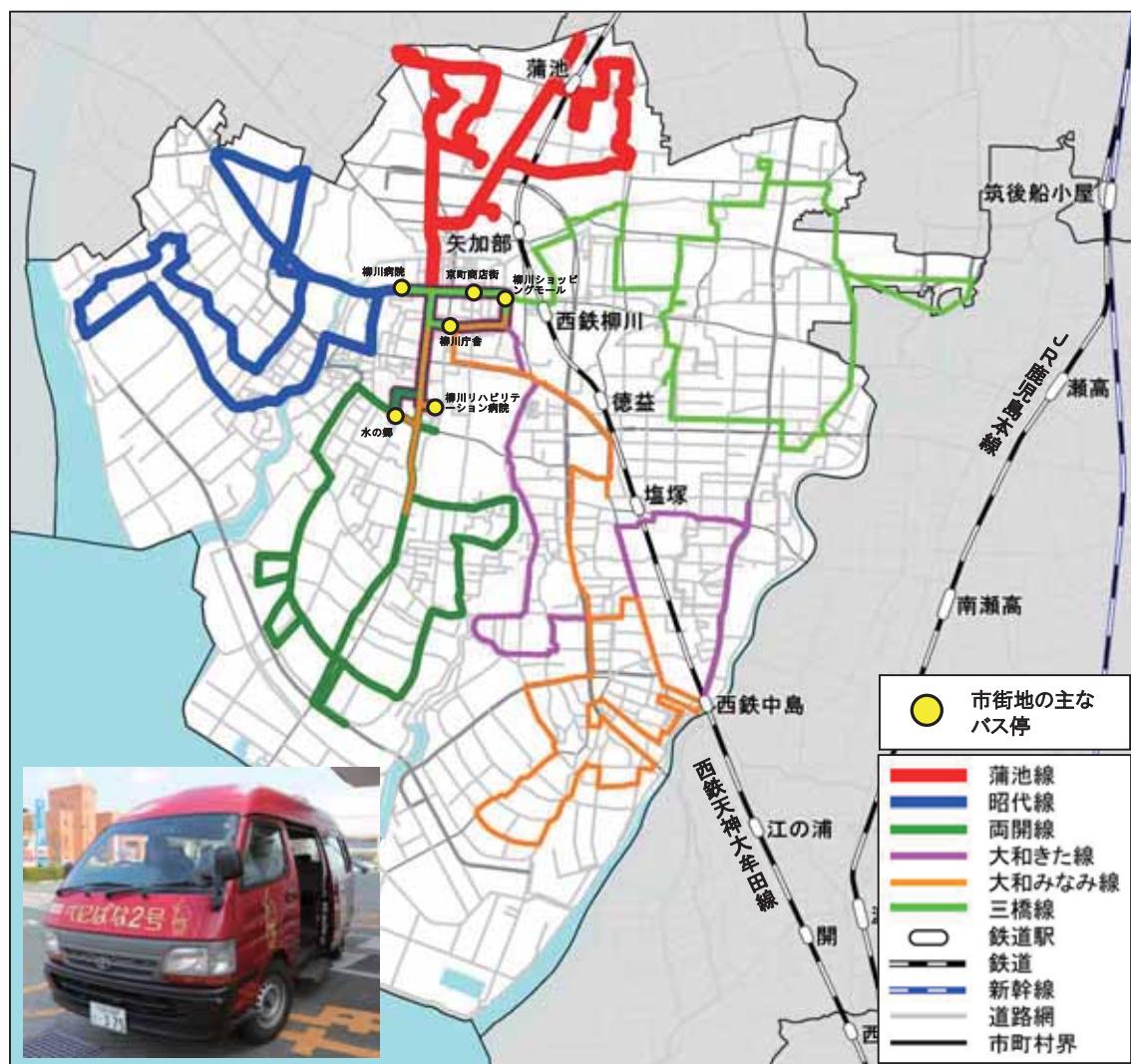


図 コミュニティバスの運行系統・ルート

表 コミュニティバスの路線別運行本数一覧

交通機関	路線名	系統名	行先方向	運行本数	運行曜日	運行時間	キロ程
コミュニティバス	蒲池線	ひがしルート	循環	3本	月・水・金	1h 21min	18.3km
		にしルート	循環	3本		1h 13min	21.3km
	昭代線		循環	5本	火・木・土	1h 33min	28.6km
			循環	3本		1h 11min	24.1km
	両開線	ひがしルート	循環	3本	月～土	1h 09min	22.7km
		にしルート	循環	3本			
	大和みなみルート		循環	4本	月・木	2h 13min	43.0km
			循環	4本		1h 59min	38.1km
	三橋ルート		循環	4本	水・土	1h 38min	31.4km

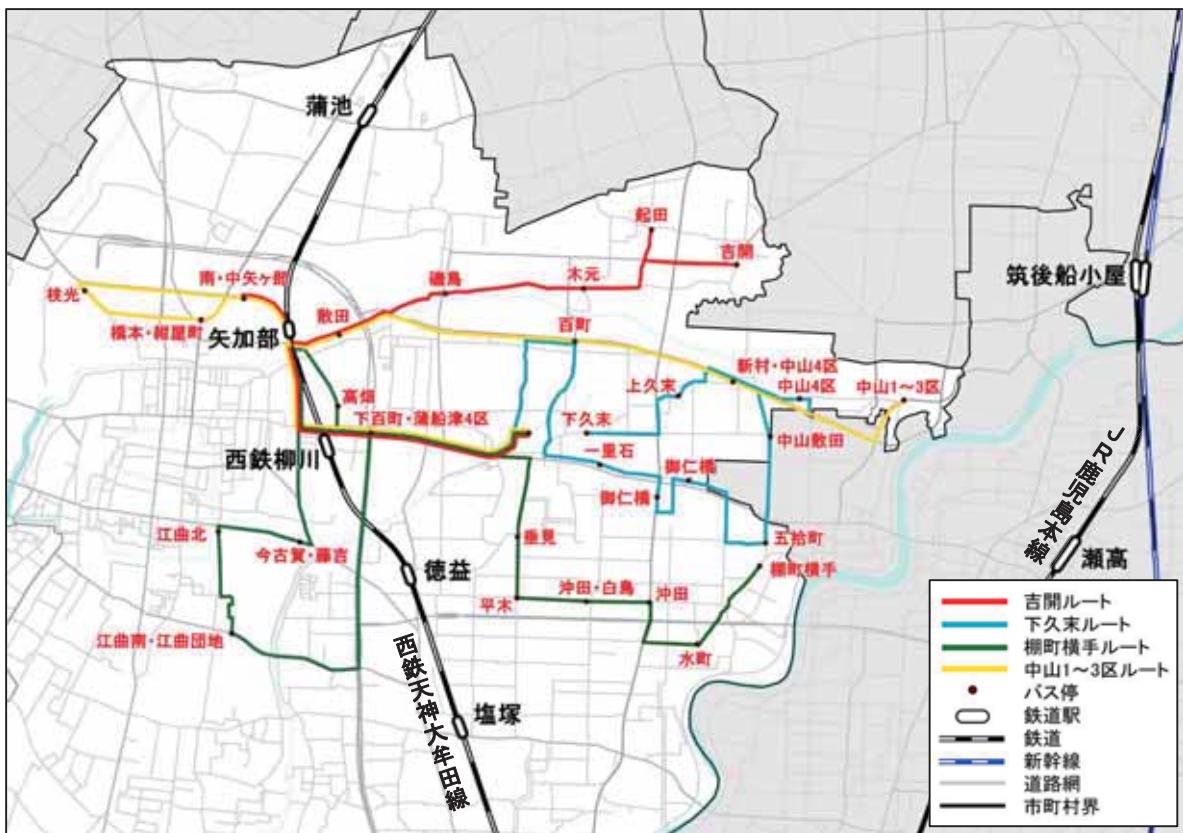
## ⑦ 福祉バス

○三橋地域と大和地域では各地域の総合保健福祉センターまでの送迎サービスとして、福祉バス（無料）が運行しています。

## 表 福祉バスの路線別運行本数一覧

交通機関	路線名	系統名	行先方向	運行本数	運行曜日
福祉バス	旧三橋町無料 送迎バス	吉開ルート	往復	1本	概ね 週に1日
		下久末ルート	往復	1本	
		棚町横手ルート	往復	1本	
		中山ルート	往復	1本	
	旧大和町無料 送迎バス	北二重ルート	往復	1本	概ね 週に1日
		西在内山ルート	往復	1本	
		上塙塚東ルート	往復	1本	
		古川ルート	往復	1本	
		皿垣北ルート	往復	1本	

○三橋地域では三橋総合保健福祉センター「サンブリッジ」を基点に4ルート設定されており、概ね週に1日、1往復運行しています。



## 図 福祉バス（三橋地域）の運行系統・ルート

○大和地域でも大和総合保健福祉センター「まほろばやまと」を基点に 5 ルート設定されており、概ね週に 1 日、1 往復運行しています。

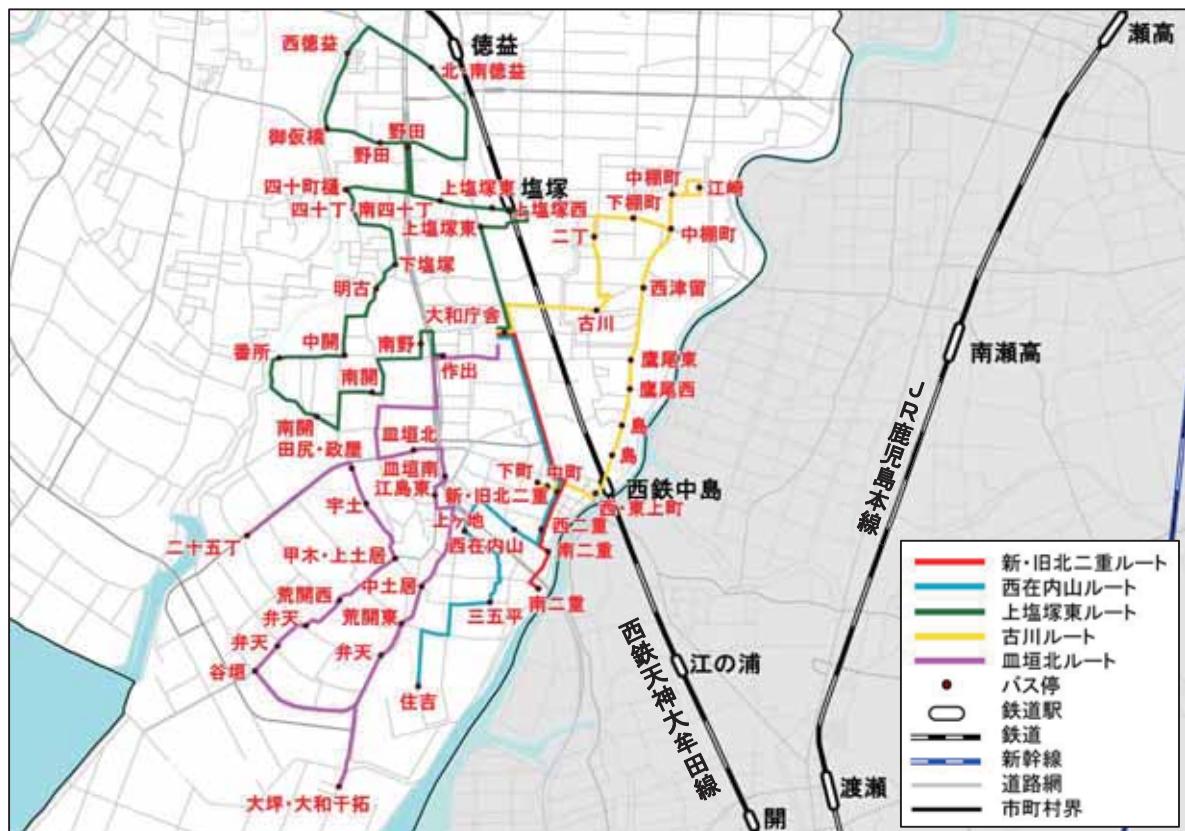


図 福祉バス（大和地域）の運行系統・ルート

## (2)利用状況

### ① 西鉄天神大牟田線

○柳川市内の6駅の利用者数(H28)をみると、日当たり約13,600人が利用しています。

駅別にみると、柳川駅が約11,500人/日と市全体の約85%を占めています。

○利用者数は前年度から増加する年度もありますが、全体的には概ね減少傾向にあり、平成23年度からの6年で日当たり利用者数は約400人減少しています。

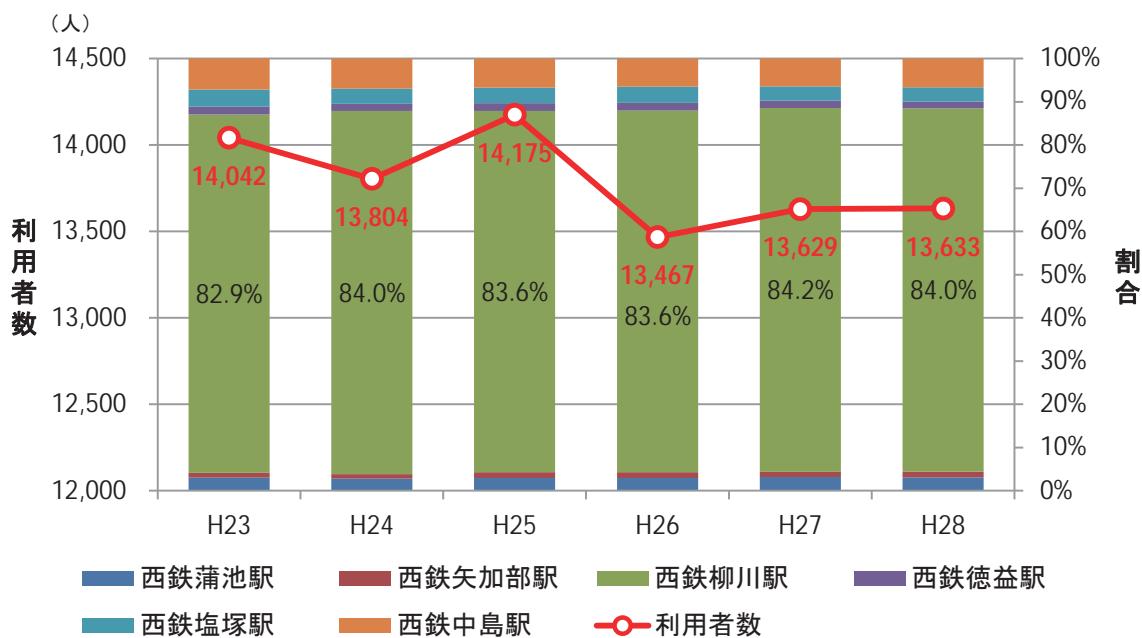


図 西鉄天神大牟田線の利用状況（年次別）

表 西鉄天神大牟田線の利用状況（年次別）

	(年度1日平均、単位:人)											
	H23		H24		H25		H26		H27		H28	
駅	利用者数	割合	利用者数	割合	利用者数	割合	利用者数	割合	利用者数	割合	利用者数	割合
西鉄蒲池駅	424	3.0%	383	2.8%	416	2.9%	394	2.9%	430	3.2%	426	3.1%
西鉄矢加部駅	164	1.2%	151	1.1%	190	1.3%	189	1.4%	164	1.2%	182	1.3%
西鉄柳川駅	11,638	82.9%	11,594	84.0%	11,853	83.6%	11,265	83.6%	11,470	84.2%	11,448	84.0%
西鉄徳益駅	250	1.8%	228	1.7%	250	1.8%	237	1.8%	233	1.7%	219	1.6%
西鉄塩塚駅	555	4.0%	489	3.5%	514	3.6%	500	3.7%	450	3.3%	444	3.3%
西鉄中島駅	1,011	7.2%	959	6.9%	952	6.7%	882	6.5%	882	6.5%	914	6.7%
合計	14,042	100.0%	13,804	100.0%	14,175	100.0%	13,467	100.0%	13,629	100.0%	13,633	100.0%

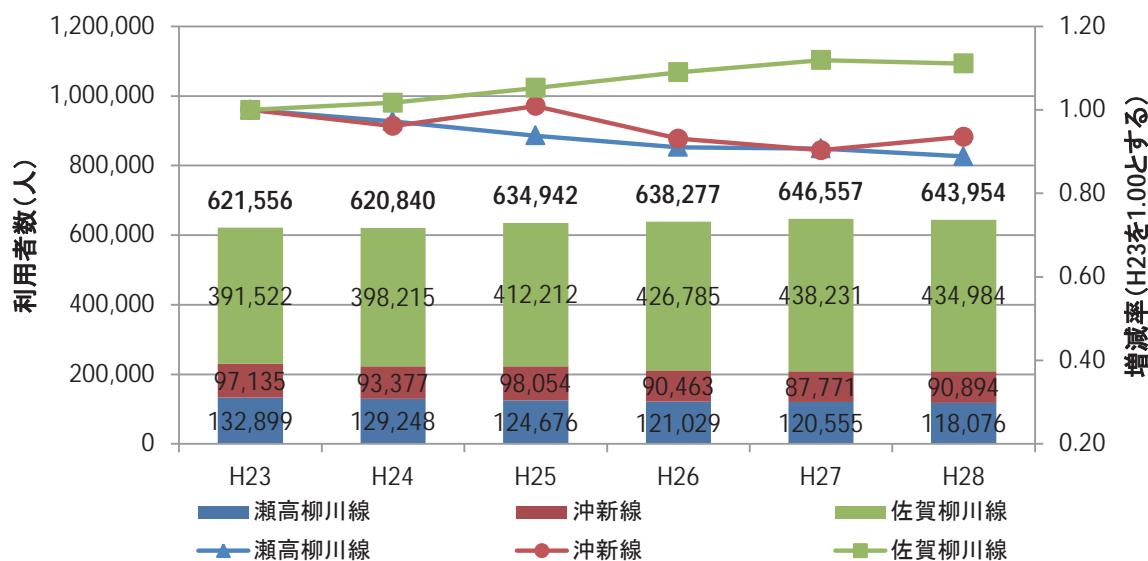
## ② 路線バス

○柳川市内を運行する路線バスは、年間約 64 万 4 千人（H28 年度）が利用しています。

その内訳は西鉄バスが運行する佐賀柳川線が最も多く、約 7 割を占めています。

○路線別にみると、西鉄バスが運行する佐賀柳川線は、年々増加傾向にあり、平成 23 年度から年間 4 万 3 千人増加しています。

○柳川市が赤字補てんを行っている堀川バスの瀬高柳川線、西鉄バス久留米の沖新線は減少傾向にあり、瀬高柳川線は平成 23 年度から約 1 万 5 千人、沖新線は約 6 千人減少しています。



資料：柳川市資料

※瀬高柳川線：利用者数は堀川バスからの補助事業実績報告書添付資料による（各年度 10 月～9 月）

※沖新線：利用者数は西鉄バス久留米からの月例報告による。（各年度 10 月～9 月）

※佐賀柳川線：利用者数は西鉄バス調べ

図 路線バスの路線別利用状況（年次別）

### ③ コミュニティバス

○柳川市内を運行しているコミュニティバスの利用者数は、平成 24 年度は一時的に減少したもの、年々増加しており、平成 28 年度は年間約 24,800 人が利用しています。

○ルート別にみると、いずれのルートも増加傾向にありますが、特に「大和きた線」「三橋線」は増加率が大きくなっています。

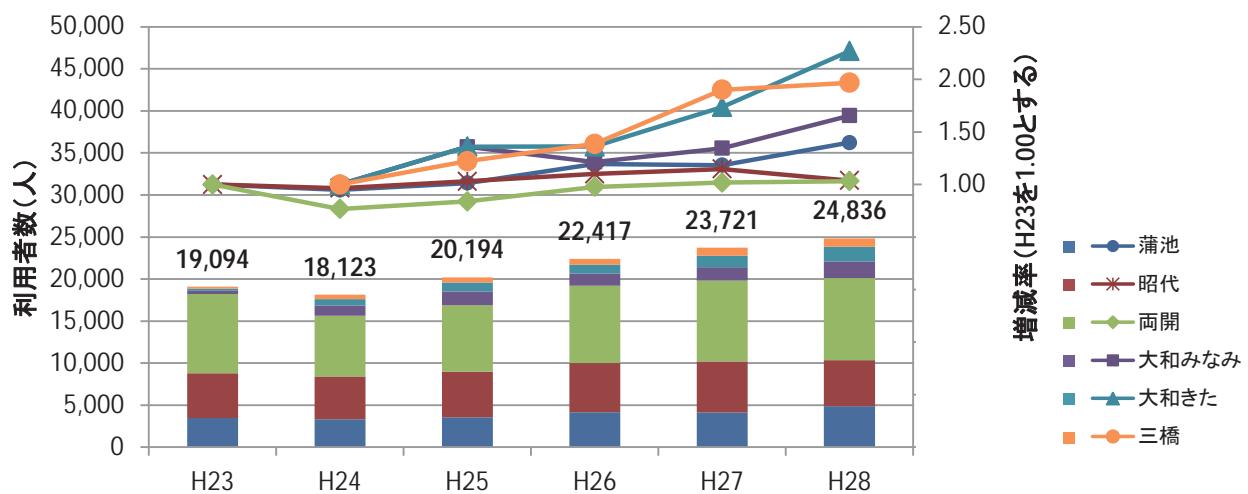


図 コミュニティバスの路線別利用状況（年次別）

表 コミュニティバスの路線別利用状況（年次別）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
蒲池	3,486	3,307	3,530	4,168	4,126	4,871
昭代	5,297	5,108	5,456	5,828	6,076	5,494
両開	9,437	7,236	7,918	9,219	9,611	9,742
大和みなみ	371	1,190	1,616	1,444	1,600	1,970
大和きた	276	785	1,067	1,069	1,363	1,781
三橋	227	497	607	689	945	978
合計	19,094	18,123	20,194	22,417	23,721	24,836

出典：柳川市資料

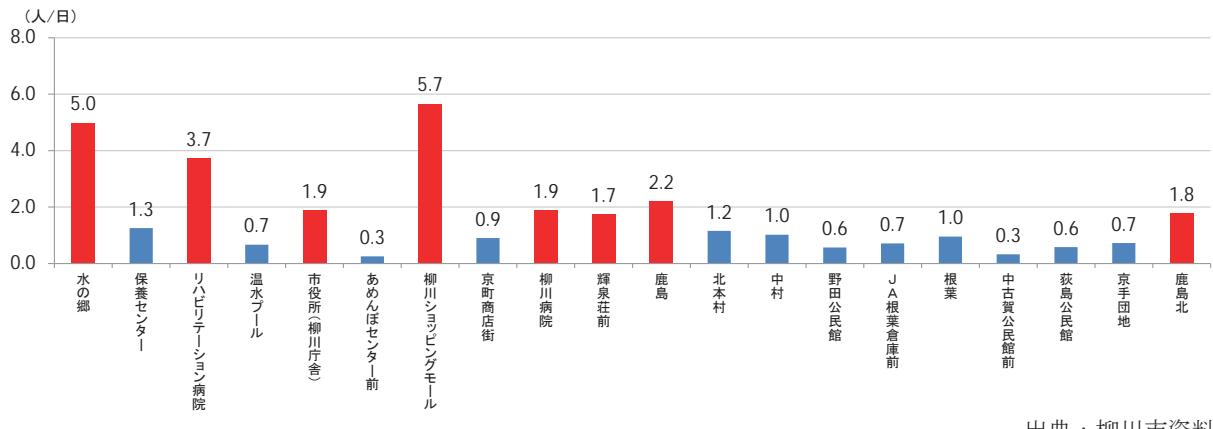
※大和・三橋は平成 23 年 11 月から運行開始

※集計期間：各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日



## 1) 蒲池線（蒲池にしルート）

○水の郷やリハビリ病院、市役所、柳川ショッピングモール、柳川病院など市中心部での乗降が集中しており、蒲池地域から市中心部への外出に利用されていることがうかがえます。特に、柳川ショッピングモールや水の郷、リハビリ病院が多くなっています。また、蒲池地域では輝泉荘前、鹿島、鹿島北での利用が他バス停よりも多くなっています。



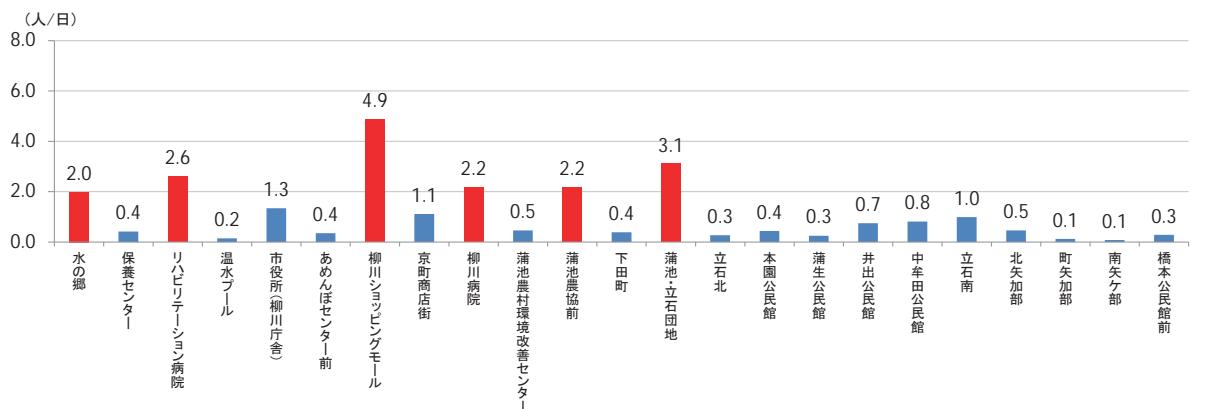
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：蒲池線

## 2) 蒲池線（蒲池ひがしルート）

○水の郷やリハビリ病院、柳川ショッピングモール、柳川病院など市中心部での乗降が集中しており、蒲池地域から市中心部への外出に利用されていることがうかがえます。特に、柳川ショッピングモールやリハビリ病院が多くなっています。また、蒲池地域では蒲池農協前、蒲池・立石団地での利用が他バス停よりも多くなっています。



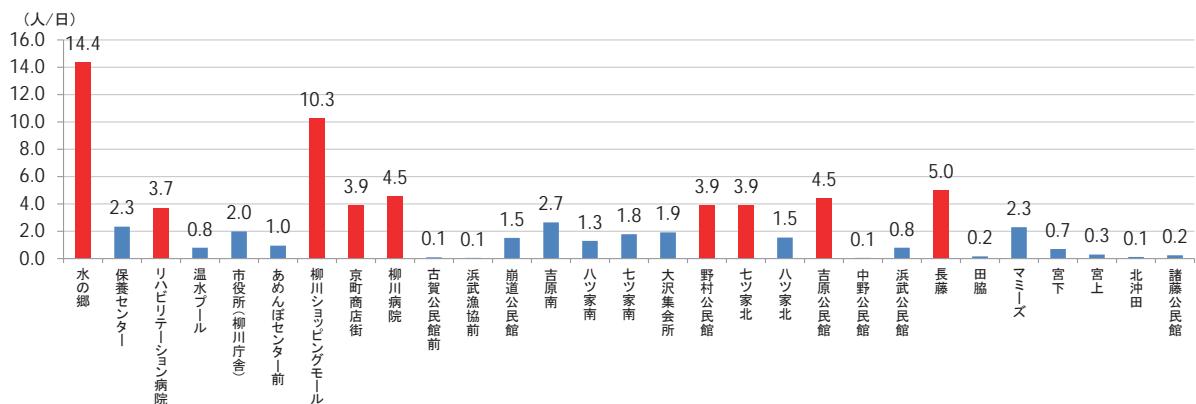
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：蒲池線

### 3) 昭代線

○水の郷や柳川ショッピングモールでの利用が突出して多くなっています。市中心部ではその他にリハビリ病院や京町商店街、柳川病院での利用も多い状況です。また、昭代地域では、野村公民館、七ツ家北、吉原公民館、長藤での利用が多くなっています。



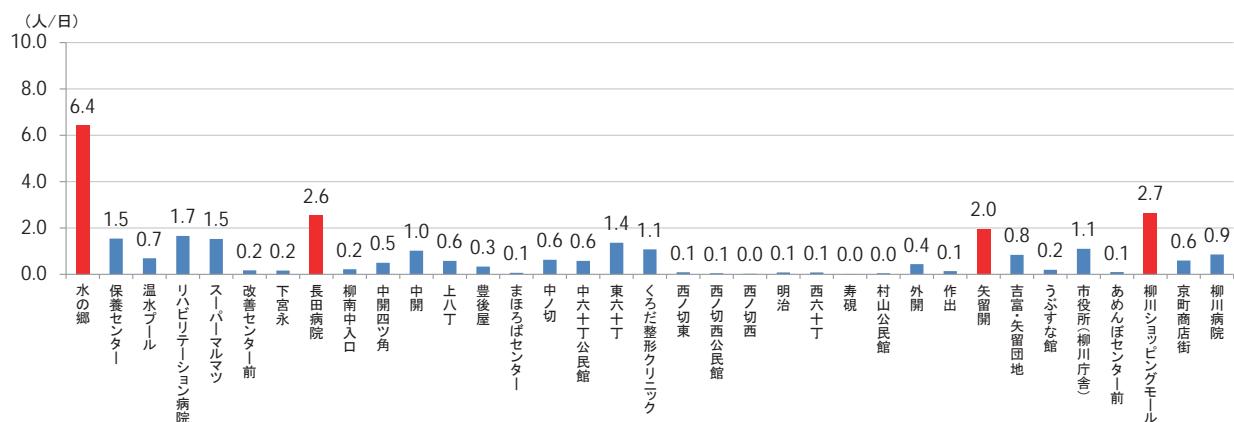
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：昭代線

### 4) 西開線（西開にしルート）

○水の郷の利用が突出して多く、次いで柳川ショッピングモールとなっています。また、中心部以外では長田病院、矢留開での利用が多い状況です。一方で、西ノ切付近での利用は非常に少なくなっています。



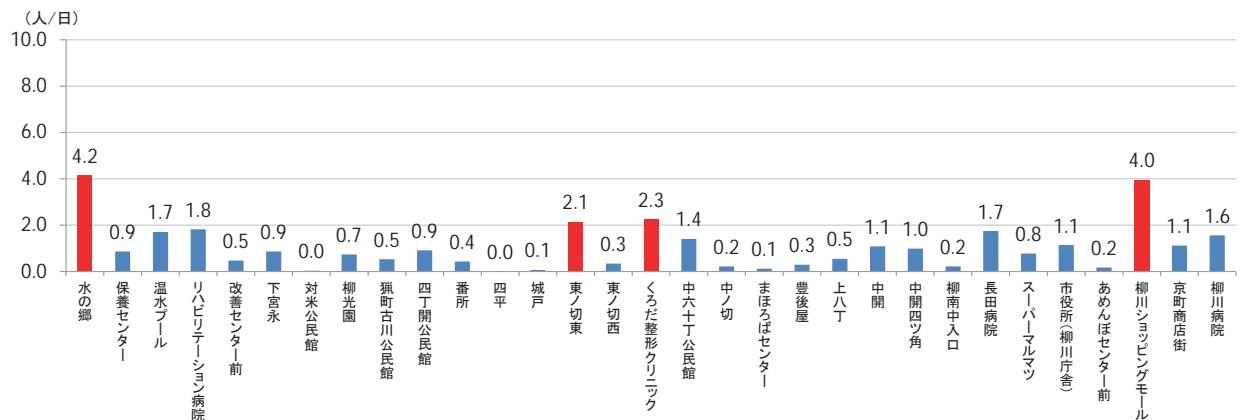
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：西開線

## 5) 両開線（両開ひがしルート）

○水の郷や柳川ショッピングモールなど市中心部での利用が多くなっています。また、中心部以外では東ノ切東、くろだ整形クリニックでの利用が多い状況です。



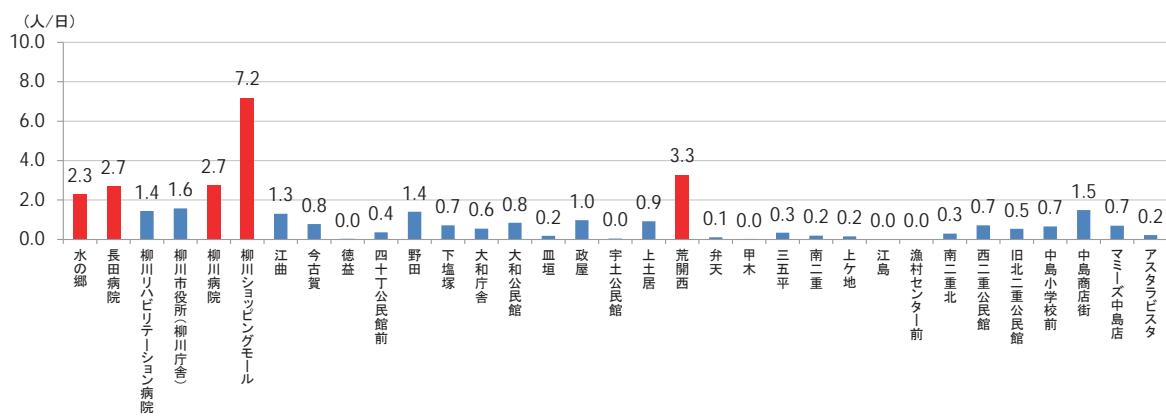
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：両開線

## 6) 大和みなみ線

○柳川ショッピングモールや柳川病院、水の郷、長田病院での利用が多くみられます。大和地域では、荒開西での乗降が多い状況です。一方で、弁天から漁村センター前までの区間の利用は非常に少ない状況にあります。



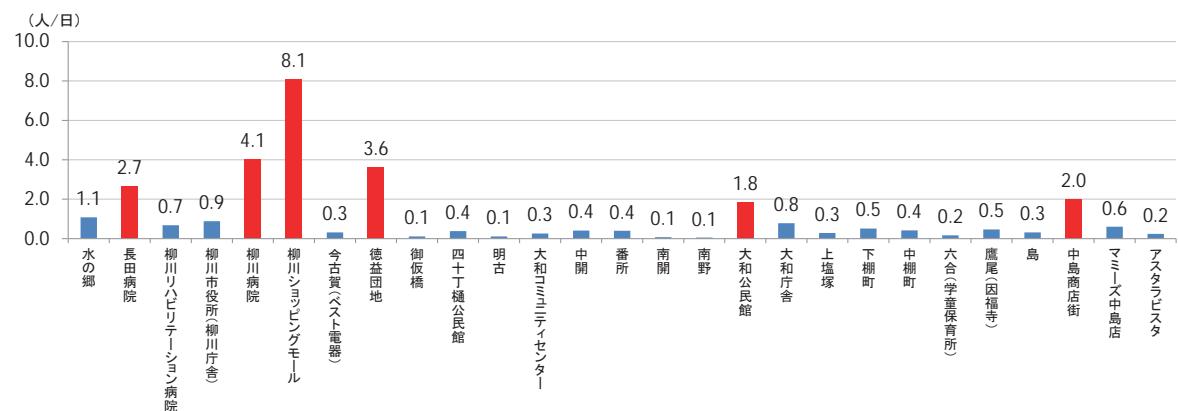
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：大和みなみ線

## 7) 大和きた線

○柳川ショッピングモールや柳川病院、長田病院での利用が多くなっています。大和地域では、徳益団地、大和公民館、中島商店街での利用が多い状況です。一方で、御仮橋から南野間の利用は非常に少なくなっています。



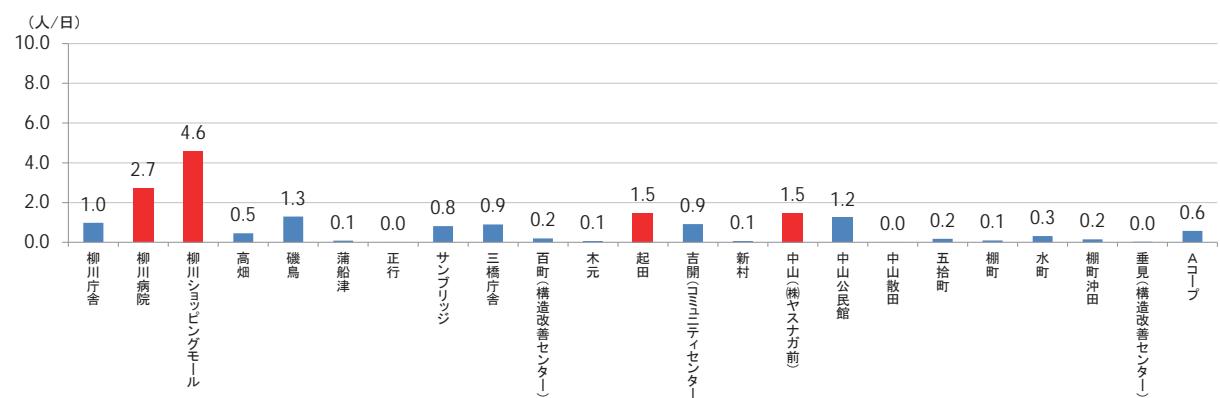
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：大和きた線

## 8) 三橋線

○柳川ショッピングモール、柳川病院での利用が多くなっています。三橋地域では、起田や中山での利用がみられます。



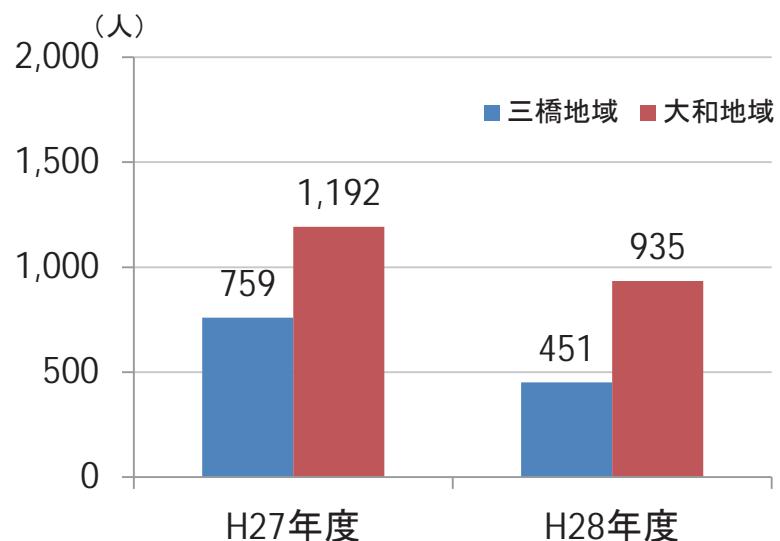
出典：柳川市資料

※集計期間：平成 27 年度、28 年度（平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月）

図 バス停別 1 日あたり乗降者数：三橋線

#### ④ 福祉バス

- 福祉バスは、両路線合計で年間約 1,400 人（H28 年度）が利用しています。
- 運行日当たりの利用者数では、三橋地域で約 2 人/日、大和地域で約 4 人/日となっています。



出典：柳川市資料

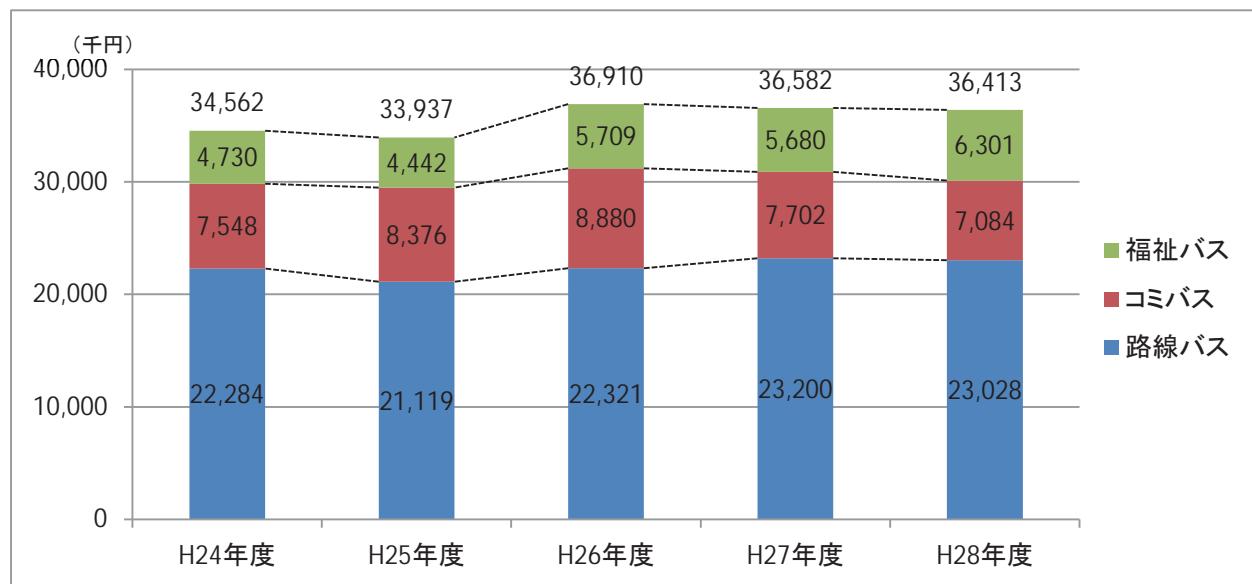
図 福祉バスの路線別利用状況

表 福祉バスの日当たり利用者数：平成 28 年度

	利用者数	運行日数	日当たり利用者数
三橋地域	451人	238日	1.89人/日
大和地域	935人	243日	3.85人/日

### (3)運営状況

- 柳川市は路線バス 2 路線（沖新線、瀬高柳川線）、コミュニティバス 8 路線、福祉バス 2 路線の運行に、平成 28 年度で約 3,600 万円の財政支出を行っています。
- 特に財政支出額が高いのは路線バスで約 2,300 万円の財政負担をしています。
- 近年は微減傾向にあるものの、現行の公共交通体系となった H24 年度に比べ、約 200 万円増加している状況にあります。



出典：柳川市資料

図 柳川市の財政負担額

#### ① 路線バスの財政負担状況

- 路線バスに対して市では沖新線と瀬高柳川線に赤字補てんを行っています。財政負担額は両路線ともに増加傾向にあり、平成 28 年度は沖新線に約 1,560 万円、瀬高柳川線に約 740 万円となっています。

表 路線バスの財政負担状況

単位：千円

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
沖新線	15,647	14,482	15,272	16,151	15,627
瀬高柳川線	6,637	6,637	7,049	7,049	7,401
合計	22,284	21,119	22,321	23,200	23,028

※集計期間：各年 10 月～翌年 9 月

出典：柳川市資料

## **② コミュニティバスの財政負担状況**

○コミュニティバスについては、年間約 710 万円の財政支出を行っています。  
○内訳としては、約 1,230 万円の運行経費に対して、約 250 万円の運賃や広告等の収入があり、経常収支として約 980 万円の赤字が生じています。これに対して、国からは地域公共交通確保維持改善事業補助金を活用して約 220 万円、県からは生活交通確保対策補助金を活用して約 50 万円の支援を受け、残り約 710 万円を市の財政から支出している状況です。

**表 コミュニティバスの財政負担状況**

		単位:千円				
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
営業収入		2,018	2,251	2,440	2,484	2,572
運行経費		11,138	12,563	12,878	12,583	12,342
経常収支		9,120	10,312	10,438	10,099	9,770
補助金	国	1,142	1,506	1,281	1,877	2,181
	県	430	430	277	520	505
	市	7,548	8,376	8,880	7,702	7,084

※集計期間：各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

出典：柳川市資料

## **③ 福祉バスの財政負担状況**

○福祉バスについては、無料で運行しているため運賃収入はなく、運行経費全額を市の財政から支出しています。

**表 福祉バスの財政負担状況**

	単位:千円				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
三橋ルート	1,125	1,118	2,001	2,001	2,622
大和ルート	3,604	3,325	3,707	3,678	3,678
合計	4,730	4,442	5,709	5,680	6,301

※集計期間：各年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

出典：柳川市資料

## (4) 交通事業者の取組み

### ① 高齢者を対象とする公共交通運賃の割引制度

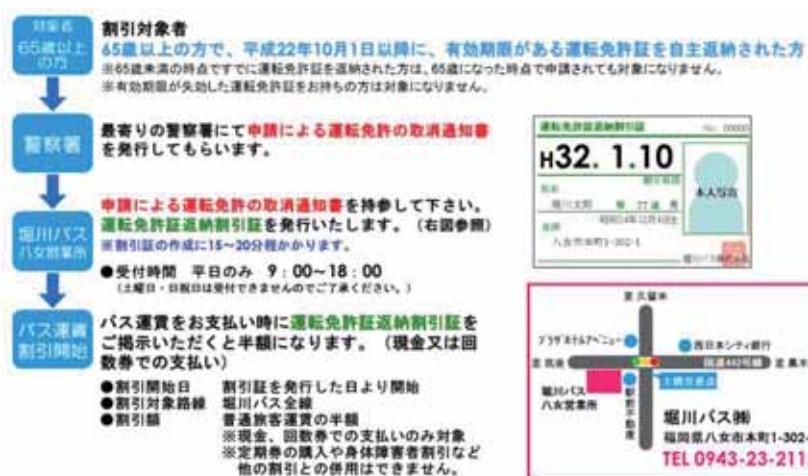
○西鉄では、65歳以上の高齢者を対象に、西鉄電車・バスが乗り放題となる割引定期券「グランドパス65」を販売しています。



図 グランドパス65のPRページ

### ② 運転免許を自主返納した高齢者に対する支援

○堀川バスでは65歳以上運転免許証返納者へのバス運賃割引を実施しています。



出典：福岡県庁 HP

図 堀川バスの65歳以上運転免許証返納者へのバス運賃割引の概要

### ③ 鉄道と川下りをセットにした割引券の販売

○西鉄電車では、柳川までの電車往復乗車券に川下り乗船券と柳川郷土料理がついたセットきっぷを発売しています。



出典：西鉄バス HP

図 鉄道と川下りをセットにした割引券の概要

### ④ 有明佐賀空港リムジンタクシー

○有明佐賀空港活性化推進協議会では、柳川市内の主要施設 5か所と佐賀空港を結ぶ予約制の乗合型タクシーを運行しています。

資料:九州佐賀国際空港 HP

有明佐賀空港  
リムジンタクシー

乗降場所

- ①西鉄柳川駅前
- ②御花前
- ③柳川市役所前
- ④柳川市役所大和庁舎前
- ⑤柳川市役所三橋庁舎前

大人片道  
1,000円

事前  
予約制

有明  
佐賀空港 ⇔ 柳川市  
大川市

有明佐賀空港発着の全ての便に対応！

柳川西鉄タクシー TEL.0944-72-2128  
有明交通 TEL.0944-78-3310

出典：柳川市観光協会

図 有明佐賀空港リムジンタクシーの概要

### **3. 市の将来像に対する地域公共交通の役割**

## 3-1 柳川市の将来像

柳川市総合計画、柳川市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略、柳川市都市計画マスタープランでは、本市の将来像を以下のように示しています。

表 上位計画に示されているまちの将来像

計画名（策定年月）	まちの将来像
第2次柳川市 総合計画 (平成29年6月)	<ul style="list-style-type: none"><li>○将来像<ul style="list-style-type: none"><li>・水と人とまちが輝く 柳川</li></ul></li><li>○政策目標<ul style="list-style-type: none"><li>・柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり</li><li>・若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり</li><li>・水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり</li><li>・柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり</li></ul></li><li>○交通・公共交通が関係する施策の方向性<ul style="list-style-type: none"><li>【施策目標：手ごろな住まい応援】<ul style="list-style-type: none"><li>◆通勤アクセス改善<ul style="list-style-type: none"><li>・通勤通学時間帯における路線バスと電車のスムーズな接続性や電車の運行時間短縮、増便などの利便性向上の要望活動等</li></ul></li></ul></li><li>【施策目標：魅力ある居住環境と道路交通網の整備】<ul style="list-style-type: none"><li>◆道路交通網の体系的な整備<ul style="list-style-type: none"><li>・市町村を連携する地域高規格道路や広域幹線道路の整備促進</li><li>・市内で地域を結ぶ地域間幹線道路や都市計画道路の整備</li><li>・道路環境（ユニバーサルデザイン、来訪者にとってわかりやすい案内・誘導サインの整備など）の向上</li></ul></li></ul></li><li>【施策目標：健康寿命の延伸と誰もが安心して暮らせる保健福祉体制の充実】<ul style="list-style-type: none"><li>◆高齢者が生きがいを持てる環境づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニティバス等の利用促進に向けた啓発と運行の見直しを進めるとともに、市の実情に応じた高齢者の移動手段について検討</li></ul></li></ul></li><li>【施策目標：強いブランド力に支えられた観光業による稼ぐ力の向上】<ul style="list-style-type: none"><li>◆観光客の満足度を高めるための受け入れの質の向上<ul style="list-style-type: none"><li>・改善要望事項（案内板や移動手段、外国人への案内など）に対応し、観光客の満足度を高める受け入れ態勢の向上を図る</li></ul></li></ul></li><li>【施策目標：柳川の特徴を活かした舞台の整備】</li></ul></li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆西鉄天神大牟田線の活性化           <ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤通学時間帯における運行時間短縮や増便などの利便性向上の要望活動、利用促進の啓発活動や事業者との連携強化などにより、利用者の増加につなげる</li> </ul> </li> <li>◆路線バスの維持・活性化           <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線の変更や相互連携等による利用者の利便性を向上させる取り組みや事業者との連携強化などにより、利用者の維持を図る</li> </ul> </li> <li>◆公共交通機関の利用促進の啓発           <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス、電車の日等の設定や事業者との連携強化などにより、公共交通機関の利用促進を図る</li> </ul> </li> </ul>
--	--

計画名（策定年月）	まちの将来像
<b>柳川市人口 ビジョン及び まち・ひと・しごと 創生総合戦略 (平成 29 年 6 月)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口の将来展望の考え方           <p>総合戦略に記載した各施策に取り組むことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然動態においては出生者数の増加、健康寿命の延伸による死亡者数の減少。</li> <li>・社会動態においては若年層を中心とした転出抑制・転入促進を図る。</li> </ul> </li> <li>○総合戦略のコンセプト（目標像）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川が好き！ 未来を紡ぐ 柳川プライド</li> <li>・市民一人ひとりが日常生活において地域の魅力を認識し、柳川に暮らす市民の誇りとして高めていくことで、柳川への愛着が生まれ、人に共感を呼び、その誇りが「柳川プライド」となるよう未来を紡ぐことが重要</li> </ul> </li> <li>○交通・公共交通の位置づけ           <ul style="list-style-type: none"> <li>◆手ごろな住まい応援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤・通学しやすい地域への住宅整備促進</li> <li>・市外に通勤・通学している人にこれからも柳川市に住んでもらえるよう、交通機関への要望活動等による利便性の向上</li> </ul> </li> <li>&lt;主な事業&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>・西鉄電車・バスのダイヤ改正等の要望活動</li> </ul> </li> <li>◆柳川の特長を活かした舞台の整備               <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の充実や道路の整備</li> </ul> </li> <li>&lt;主な事業&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通網形成計画及び再編実施計画の策定</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

※柳川市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略は平成 29 年 6 月に策定された  
第 2 次柳川市総合計画に統合

計画名（策定年月）	まちの将来像
<p style="text-align: center;"><b>柳川市都市計画 マスタープラン (改訂版) (平成 28 年 12 月)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市づくりの基本姿勢 <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川の個性を活かし 都市の魅力を高めることを重視します</li> </ul> </li> <li>○柳川の将来像（20 年度（2029 年）の柳川の姿） <ul style="list-style-type: none"> <li>◆水と人とまちが美しい 水郷柳川 <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川の命である 水が美しい</li> <li>・様々な人々の ふれあいが美しい</li> <li>・暮らしやすさと美しい風景が調和した まちが美しい</li> <li>・市民が誇れる個性に満ちた 水郷柳川</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○交通・公共交通の位置づけ <ul style="list-style-type: none"> <li>◆基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活を支える公共交通ネットワークの実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡・久留米大牟田など県内の主要都市と本市を結ぶ西鉄天神大牟田線柳川駅等の鉄道駅と各拠点や主要都市施設を結ぶバス路線は、福岡・久留米・大牟田方面への通勤通学者、自らの交通手段を持たないいわゆる交通弱者はじめとする居住者にとって定住環境のひとつ。</li> <li>・住みみたい住み続けたい都市を目指すために、公共交通サービスを低下させないよう利用を促進するともに、交通機能相互の連携を強化するなど利便性向上を図る。</li> </ul> </li> <li>・観光を支える公共交通ネットワークの実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通（鉄道）を利用する観光客の玄関口である西鉄天神大牟田線柳川駅と観光拠点や文化拠点を公共交通でつなぎ、市民や来訪者の利便性を高めるとともにまち歩きなどの観光行動に対応した公共交通ネットワークの実現を目指す。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◆西鉄天神大牟田線の活性化</li> <li>◆鉄道駅の交通結節点の強化</li> <li>◆バス路線の維持と活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点間と主要公共施設を結ぶバス路線の構築</li> <li>・快適性・分かりやすさの向上による利用促進</li> <li>・身近な公共交通手段の確保</li> </ul> </li> <li>◆観光拠点における交通体系の検討</li> </ul> </li> </ul>

また、関連する計画では、市民等の移動に対する方針や取り組みが以下のように示しています。

表 関連計画に示されている公共交通の関連事項

計画名（策定年月）	公共交通の関連事項
<b>柳川市観光振興計 画 (平成 21 年度～ 平成 30 年度)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「観光振興のための取組み」において、基本コンセプト「水郷といやしのたたずまい」が掲げられ、7つの基本方針が示されている。公共交通に関する事項は基本方針「魅力的な地域づくり」等の中で示されている。</li> <li>○基本方針「魅力的な地域づくり」－交通インフラの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次交通は恵まれているが、二次交通の整備が遅れている。</li> <li>・観光客がスムーズに周遊できるように期間限定で周遊バスを運行したり、レンタサイクルなどを充実させたり、交通インフラの改善に努める。</li> </ul> </li> <li>&lt;プロジェクト&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・川下りの乗場を一本化（長期）</li> </ul> </li> <li>○基本方針「国際観光の推進」－外国人が一人歩きできるまちづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が一人歩きできるまちづくりを推進する。</li> <li>・外国人観光客向けの誘導サインの設置（短期）（観光施設、交通機関）</li> </ul> </li> </ul>
<b>柳川市地域福祉計 画・地域福祉活動計 画 (平成 25 年度～平 成 29 年度)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【安全安心な暮らしを支える体制づくり－安心できる福祉の充実】</li> <li>○福祉サービスの適切な利用の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の課題：コミュニティバス（福祉巡回バス）について、その運行開始を歓迎する声が聴かれた一方で、「まだま不便を感じている」との声も多数あった。</li> <li>・コミュニティバス（福祉巡回バス）の運用にあたっては、利用者の利便性を高めるため、住民の声を反映し、改善を図る。（行政）</li> </ul> </li> <li>○地域での支え合いの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者は、その事業活動で、要援護者などの日常生活の困難を軽減するため、買い物支援などのサービスを工夫するよう努める。（地域）</li> </ul> </li> </ul>
<b>第 4 次柳川市高齢 者保健福祉計画 (平成 27 年度～ 平成 29 年度)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【施策 5. 在宅生活支援サービスの充実】</li> <li>○移動手段の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車等を利用できない高齢者が、日々の買い物や病院へ通うこと主目的として、市内を 6 ルートで巡回するコミュニティバス「べにばな号」を運行しており、今後も更なる利用促進に向けた啓発と運行の見直しを進めていく。</li> </ul> </li> </ul>

## 3-2 公共交通に求められる役割

前述の市の将来像の実現に向け、関連計画も踏まえ、地域公共交通には以下のような役割が求められます。

1. 日常生活を支える公共交通ネットワーク		関係する市の計画
	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 人口減少社会にあって、住みたい住み続けたい都市を目指すためには、生活移動の利便性を確保し定住環境を整えることが重要な課題です。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2次柳川市総合計画</li><li>・柳川市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略</li><li>・柳川市都市計画マスター プラン</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 西鉄柳川駅をはじめとする西鉄天神大牟田線やJRの各駅へのアクセスを担うバス路線は、福岡・久留米・大牟田方面への通勤通学者、交通手段を持たない方々にとって、定住のための重要な環境です。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2次柳川市総合計画</li><li>・柳川市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略</li><li>・柳川市都市計画マスター プラン</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 特に、自家用車等を利用できない高齢者が、日々の買い物や病院へ通うための手段として、タクシーと併せてバス等の身近な公共交通は不可欠の役割を担っています。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2次柳川市総合計画</li><li>・柳川市都市計画マスター プラン</li><li>・第4次柳川市高齢者保健福祉計画</li></ul>
2. 観光を支える公共交通ネットワーク		関係する市の計画
	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 観光は本市の重要な産業であり、地域固有の資源を活用して観光客との交流を深め、賑わいと活力あるまちづくりを進めることが重要な課題です。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2次柳川市総合計画</li><li>・柳川市都市計画マスター プラン</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 観光拠点の周遊やまち歩きなどの観光行動の利便性を高めるために、柳川駅と観光拠点や文化拠点をつなぐ公共交通の果たす役割は大きくなっています。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・柳川市都市計画マスター プラン</li><li>・柳川市観光振興計画</li></ul>

また、各種計画には公共交通に関する施策や生活移動の目的地となる都市施設についての施策等が示されており、公共交通ネットワークはこれらの施策と整合を取る必要があります。

## (1)公共交通に関する施策

公共交通に関する施策としては、西鉄天神大牟田線の活性化、交通結節点の強化、バス路線の維持・活性化、観光拠点、定住促進に係る施策があげられています。

項目	施策の概要	関係する市の計画
<b>西鉄天神大牟田線の活性化</b>	・運行頻度の増加や複線化など要望し、交流人口の増加と交通の利便性の向上	・第2次柳川市総合計画 ・柳川市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略 ・柳川市都市計画マスター プラン
<b>交通結節点の強化</b>	・西鉄柳川駅：通勤通学時間帯の送迎車両による混雑解消、東側からの利便性確保、観光の玄関口としての空間の創出などの課題に対応	・柳川市都市計画マスター プラン
<b>バス路線の維持・活性化</b>	・駅・学校・病院などの主要公共施設をつなぎ、通勤通学や買い物などに利用しやすいバス路線の構築 ・観光拠点、観光スポットと広域拠点をつなぎ、観光の面的広がりと観光客の利便性を確保 ・自ら交通手段を持たない高齢者等がタクシー等の利用と併せて、日常の買い物、病院、公共施設等を利用できるように、コミュニティバスなどの最適な運行形態の検討と利用促進	・柳川市都市計画マスター プラン
<b>観光拠点</b>	・観光客がスムーズに周遊できるように交通インフラの改善（周遊バスの運行等） ・観光拠点では、車中心から歩行者中心の交通体系への転換が必要 ・外国人観光客向けの誘導サインの設置（交通機関）	・柳川市都市計画マスター プラン ・柳川市観光振興計画

## (2)生活移動の目的地となる都市施設

第2次総合計画では、コミュニティ活動や生涯学習、文化芸術活動の推進、高齢者・子育て・健康・保健などの福祉の充実などがうたわれています。こうした各種活動を推進していくためにも各施設への移動を支えていく必要があります。

まちづくり分野	施設	関係する市の計画
コミュニティ活動	・コミュニティセンター	・柳川市都市計画マスター プラン ・第4次柳川市高齢者保健 福祉計画
生涯学習	・生涯学習センター、あめんぼセンター、総合保 健福祉センター	・第2次柳川市総合計画 ・第4次柳川市高齢者保健 福祉計画
健康づくり	・総合保健福祉センター、生涯学習センター	・第2次柳川市総合計画 ・第4次柳川市高齢者保健 福祉計画 ・柳川市地域福祉計画・地 域福祉活動計画
文化芸術活動	・市民会館、総合保健福祉センター、市民文化会 館（仮）	・第2次柳川市総合計画 ・柳川市都市計画マスター プラン
高齢者・子育て・健 康・保健などの福祉	・医療機関、生涯学習センター、あめんぼセンタ ー、総合保健福祉センター	・第2次柳川市総合計画 ・柳川市地域福祉計画・地 域福祉活動計画 ・柳川市都市計画マスター プラン

## 4. 各種調查結果

調査項目		調査の目的	把握項目
<b>市民アンケート調査</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川市が抱える地域公共交通の問題点・課題の把握に向けた基礎データの収集</li> <li>・連携計画の検証に向けた基礎データの収集</li> <li>・今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データの収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の日常的な外出・移動の状況</li> <li>・公共交通の利用状況、公共交通に対する不満や改善要望</li> <li>・これまでの公共交通に関する取り組みに対する評価</li> <li>・公共交通のあり方に対する考え方</li> <li>・分析に必要な属性</li> </ul>
<b>コミュニティバス 利用状況調査</b>	OD調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内を運行するコミュニティバスの利用状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間帯(利用便)</li> <li>・利用曜日</li> <li>・乗車・降車/バス停</li> <li>・性別・属性(学生・一般・高齢者の別)</li> </ul>
	利用者 アンケート 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の外出特性やコミュニティバスに対する不満、改善要望の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地</li> <li>・外出時間・帰宅時間</li> <li>・外出曜日</li> <li>・現状サービスに対する不満・改善要望</li> </ul>
<b>福祉バスに関する アンケート調査 (福祉バス利用状況分析)</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三橋総合保健福祉センターへの無料送迎バス(三橋福祉バス)及び旧大和町内を運行している大和総合保健福祉センターへの無料送迎バス(大和福祉バス)の利用状況やニーズ等を把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用頻度</li> <li>・福祉バスの利用有無及び利用頻度</li> <li>・福祉バスを利用しない理由／今後の利用意向／利用する理由</li> <li>・福祉バス利用者の外出特性</li> <li>・福祉バスを利用するための条件、現サービスへの不満・改善要望</li> </ul>
<b>西鉄柳川駅利用者 聞き取り調査</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅利用者の移動特性を把握</li> <li>・西鉄バス利用者の利用特性の把握</li> <li>・堀川バス利用者の利用特性の把握</li> <li>・観光客の市内の移動特性の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間帯</li> <li>・駅まで(から)の移動手段／乗車・降車バス停(駅)</li> <li>・目的地(外出先)</li> <li>・利用頻度</li> <li>・公共交通に対するニーズ</li> <li>・年齢・性別・住所</li> </ul>
<b>交通事業者 ヒアリング 調査</b>	タクシー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシーの利用特性</li> <li>・公共交通に対するタクシー利用者の不満や要望</li> <li>・公共交通全体の利用促進に向けたアイデア</li> <li>・公共交通の効率化に向けた意見</li> <li>・事業者が抱える問題点・課題</li> </ul>
	スクール バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民及び観光客等来街者の市内における移動特性の把握</li> <li>・市民及び観光客等来街者の公共交通に対する不満・改善要望等の把握</li> <li>・市民及び観光客等来街者の公共交通全体の利用促進に向けた連携施策や効率的な公共交通ネットワークの形成に向けた役割分担等に関する意見の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスの運行状況</li> <li>・スクールバスの収支状況および学校のスクールバスに対する考え方</li> <li>・高校生の公共交通に求めるニーズ</li> <li>・事業者が抱える問題点・課題</li> </ul>
	川下り送迎 バス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎バスの運行状況</li> <li>・観光客の2次交通の状況</li> <li>・公共交通に対する送迎バス利用者の不満や要望</li> <li>・相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア</li> <li>・事業者が抱える問題点・課題</li> </ul>

## 4-1 市民アンケート調査結果

### (1) 調査の概要

○本調査は、柳川市の地域公共交通が抱える問題点・課題の把握や、柳川市地域公共交通総合連携計画の検証、今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データを収集することを目的に実施したものです。

表 調査の概要

調査目的	・柳川市の地域公共交通が抱える問題点・課題の把握 ・柳川市地域公共交通総合連携計画の検証 ・今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎データの収集
調査対象	15歳以上85歳以下の柳川市民2,000人 (住民基本台帳を基に地域別・年齢別に無作為に抽出) ※配布票数は、地域別の移動特性や、意向分析を行うことを念頭に、各地域100票程度を回収することを目標に、過年度アンケート調査における回収率30.3%を考慮して逆算した330票を各地域に配布
調査方法	郵送配布・回収 (回収率向上を念頭に、差出人および返信先は柳川市とし、配布用封筒・回収用封筒には市名を印刷)
調査期間	配 布：平成28年8月26日（金） 回答期間：平成28年8月27日（土）～9月9日（金）
把握項目	・市民の日常的な外出・移動の状況 ・公共交通の利用状況、公共交通に対する不満や改善要望 ・これまでの公共交通に関する取り組みに対する評価 ・公共交通のあり方に対する考え方 ・分析に必要な属性
回収状況	回収票数：886票 回 収 率：44.3%

## (2)回答者の属性

- 回答者は男性が約4割、女性が約6割とやや女性が多くなっています。
- 回答者の年齢は、65歳以上の高齢者が約4割を占めます。
- 職業では、無職が最も多く、4割弱を占めます。その他、会社員が25%、パート・アルバイトが13%、自営業が10%を占めます。
- 回答者の約3/4が運転免許を持ち、自由に使える自家用車を持っています。一方で、運転免許を持っていない人が2割弱います。

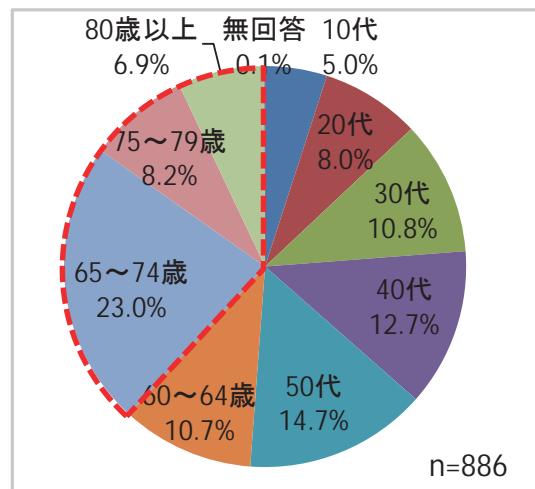
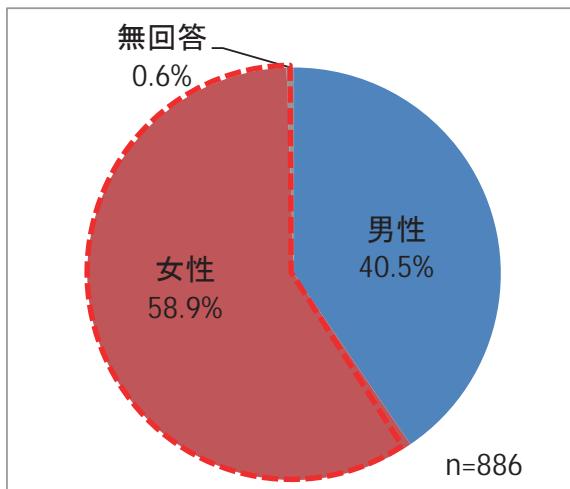


図 性別

図 年齢

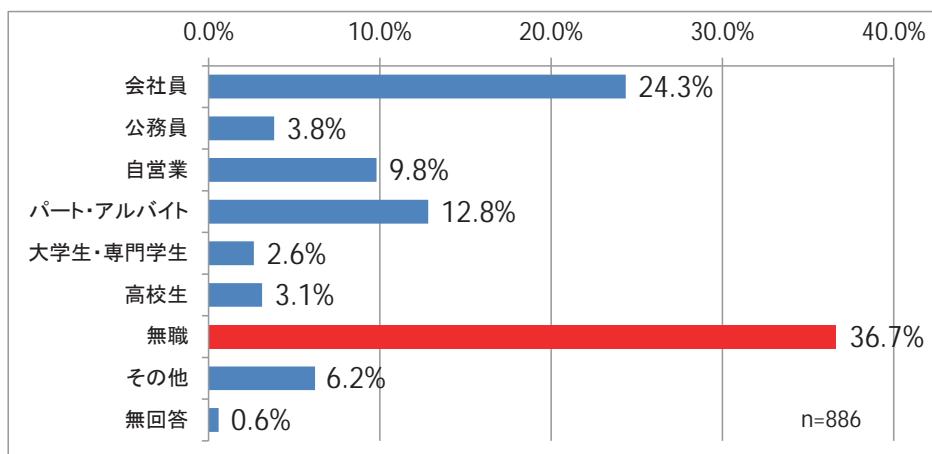


図 職業

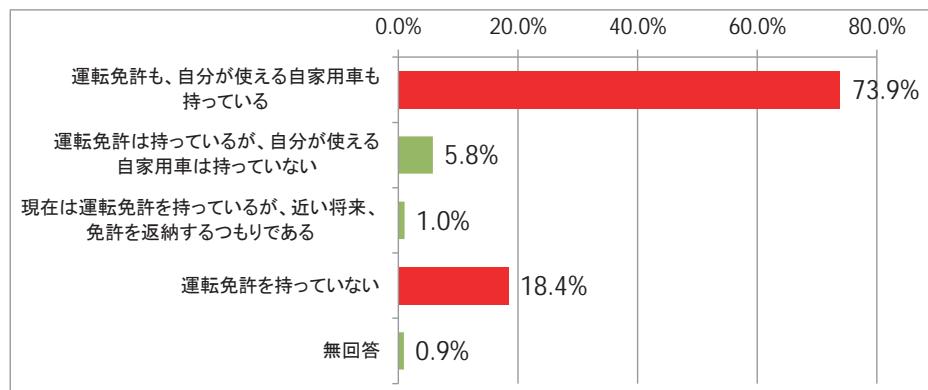


図 運転免許と自家用車保有状況

### (3)外出目的別の外出行動

#### 1) 日常生活の中で最も多い外出目的

○日常生活の中で最も多い外出目的について、「通勤・通学」が最も多い、4割強が回答しています。また、「買物」を約1/3が回答しています。

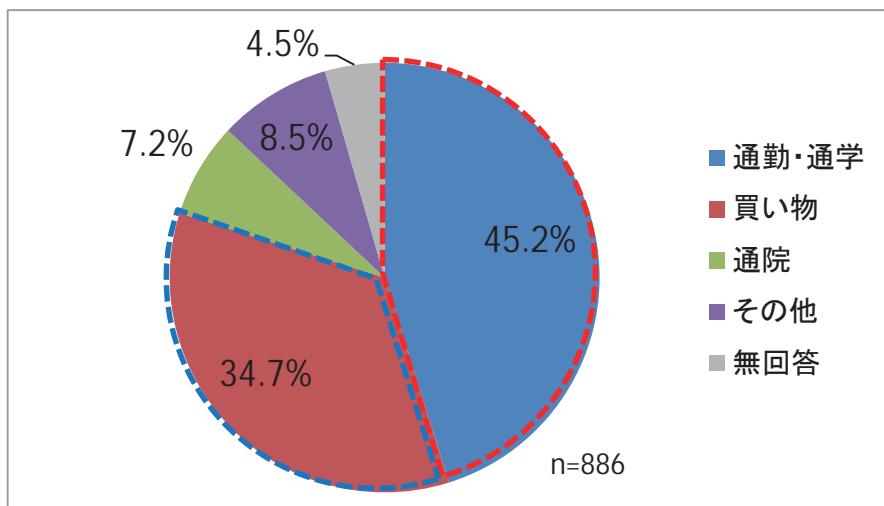


図 日常生活の中で最も多い外出目的

#### 2) 通勤・通学における移動特性

○回答者の約半数が市外に通勤・通学先を持っており、市内よりもやや多くなっています。  
○主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多い、約6割が回答しています。家族等の送迎も含めると、約7割がマイカー利用です。  
○一方、公共交通の利用は、西鉄天神大牟田線を約1割が回答していますが、その他の交通機関は少なくなっています。

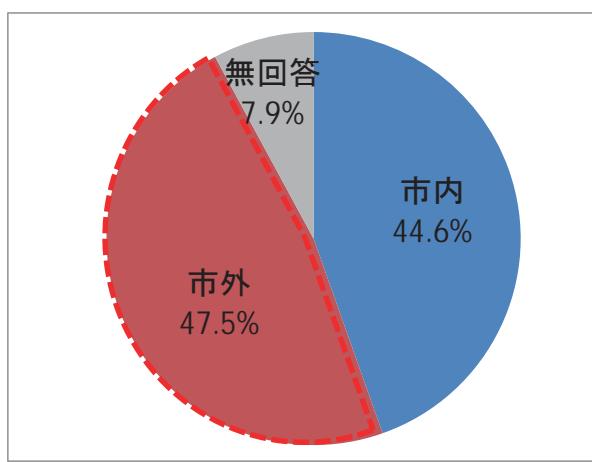


図 通勤・通学先：市内外の別

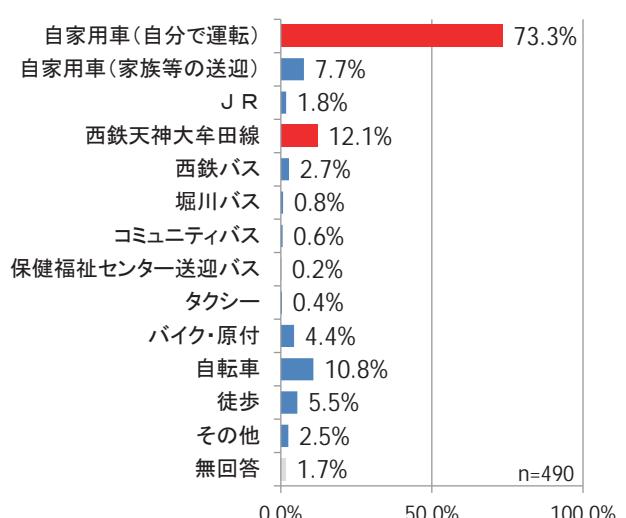


図 最もよく利用する交通手段（通勤・通学）

### 3) 買物における移動特性

- 回答者の8割以上が市内で買物をしています。
- 主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多く、約75%が回答しています。家族等の送迎も含めると、9割弱がマイカー利用です。
- 一方、公共交通の利用は少なく、いずれも数%しか回答されていません。

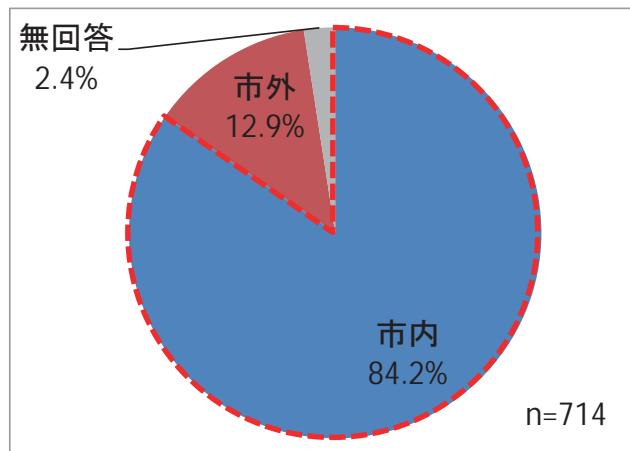


図 買物先：市内外の別

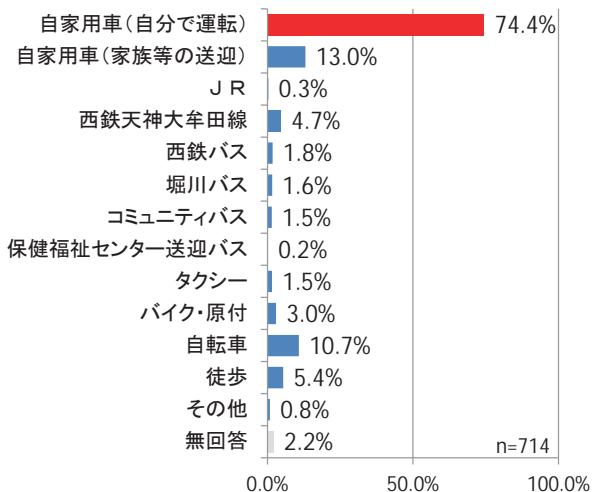


図 最もよく利用する交通手段（買物）

### 4) 通院における移動特性

- 回答者の約7割が市内の病院を利用しています。
- 主な移動手段は、自家用車（自分で運転）が最も多く、約6割が回答しています。家族等の送迎も含めると、約3/4がマイカー利用です。
- 一方、公共交通の利用は少なく、いずれも数%しか回答されていません。

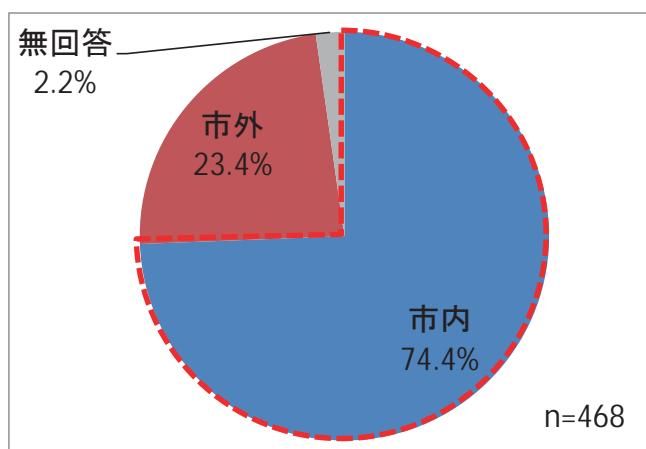


図 通院先：市内外の別

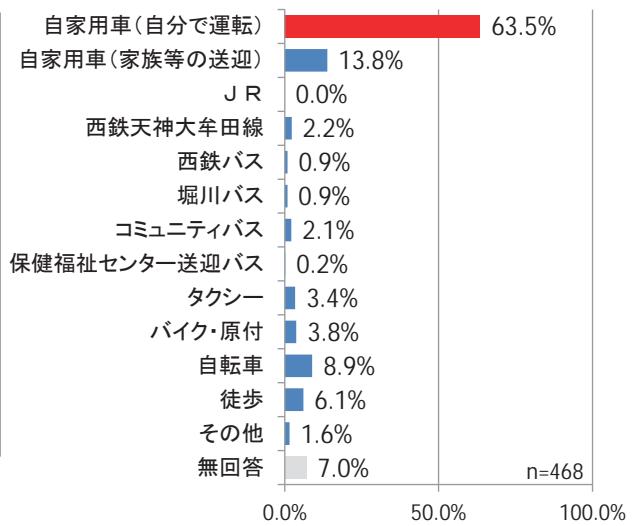


図 最もよく利用する交通手段（通院）

## (4)公共交通の利用状況

### 1) 公共交通の利用の有無

○直近1ヶ月の公共交通の利用について、約3割が「利用した」と回答、約7割は「利用していない」と回答しています。

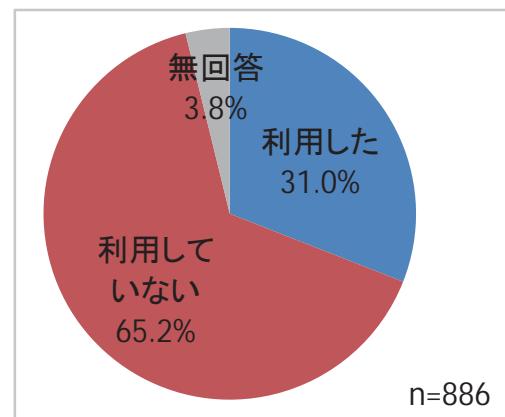


図 公共交通の利用有無

### 2) 公共交通利用者の外出特性

○公共交通利用者（直近1ヶ月以内に鉄道、路線バス、コミュニティバスを利用した人）のうち、主な外出先について約9割が「市外」を回答しています。  
 ○主な外出目的については、約3割が「買物」、約2割が「通勤・通学」を回答しています。  
 ○利用している交通機関は、「西鉄天神大牟田線」が最も多く、約8割となっています。  
 ○駅・バス停までの移動手段については、約4割が「自家用車（自分で運転）」、約2割が「自家用車（家族等の送迎）」を回答しており、約6割がマイカーでアクセスしています。また、約3割は「自転車・徒歩」を回答。公共交通機関でのアクセスは少なくなっています。

表 公共交通利用者の外出目的地

	割合
市内	3.7%
市外	90.6%
無回答	5.8%

n=275

表 公共交通利用者の外出目的

	割合
通勤・通学	21.6%
買物	32.6%
通院	7.5%
その他	31.1%
無回答	7.2%

n=275

表 公共交通利用者の最もよく利用する交通手段

	割合
西鉄天神大牟田線	81.8%
JR	5.0%
西鉄バス	3.5%
堀川バス	2.3%
コミュニティバス	3.3%
無回答	4.0%

n=275

表 公共交通利用者の駅・バス停までの交通手段

	割合
自家用車(自分で運転)	35.5%
自家用車(家族等の送迎)	19.3%
西鉄バス	3.6%
堀川バス	0.7%
コミュニティバス	1.4%
タクシー	1.9%
バイク・原付	1.5%
自転車・徒歩	29.6%
無回答	6.5%

## (5)公共交通に対する改善要望

### 1) 鉄道に対する不満点・改善点

○公共交通利用者の鉄道に対する不満点・改善点については、「駅周辺の駐車場や駐輪場を充実させる」が最も多く、約3割が指摘しています。また、「運賃の割引制度などを充実させる」も約3割が回答しています。

【複数回答有】

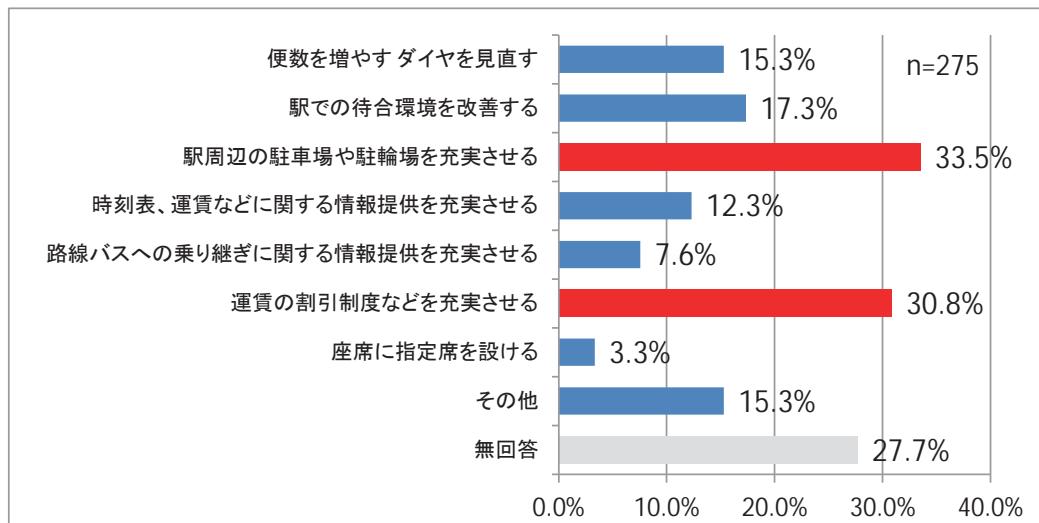


図 公共交通利用者の鉄道に対する不満点・改善点

### 2) 路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点

○公共交通利用者の路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点については、「バス停での待合環境を改善する」や「西鉄大牟田線や路線バスへの乗り継ぎに関する情報提供を充実させる」、「鉄道と乗継しやすいようにダイヤを調整する」への指摘が多く、それぞれ1割強が指摘しています。

【複数回答有】

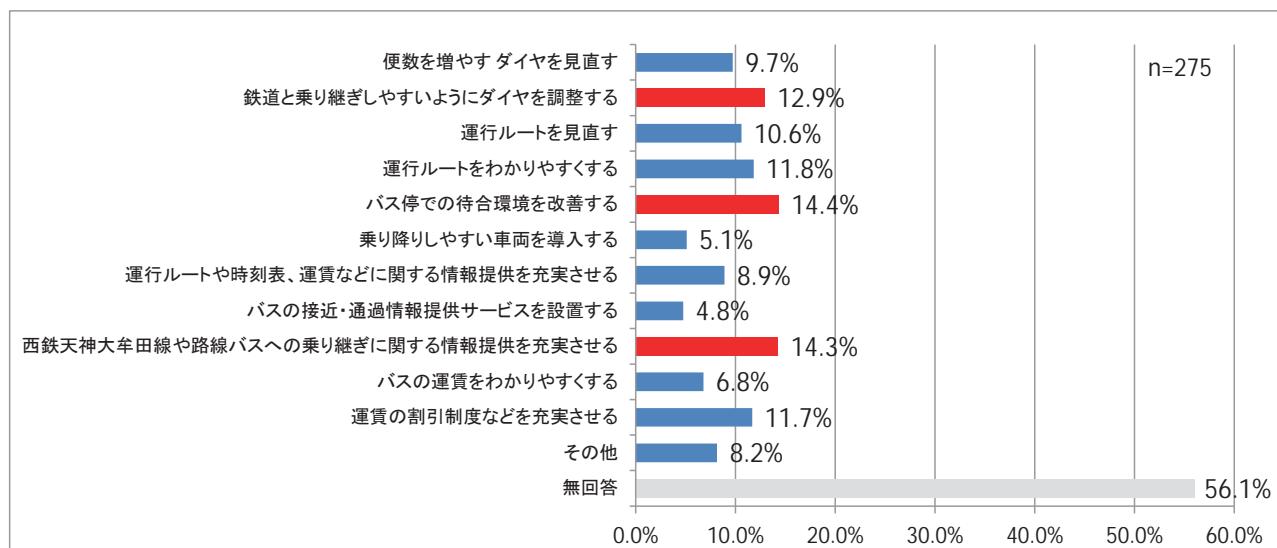


図 公共交通利用者の路線バス・コミュニティバスに対する不満点・改善点

## (6)公共交通を利用しない理由

### 1) 鉄道を利用しない理由

- 普段公共交通を使わない人（直近1ヶ月以内に鉄道、路線バス、コミュニティバスを利用しなかった人）に鉄道を利用しない理由について尋ねたところ、「そもそも鉄道を利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約3割）。  
○また、「駅まで行くのが難しい、行くのが面倒」（約2割）や「家族など複数人数で利用すると、運賃が高つく」（1割強）も多く回答されています。

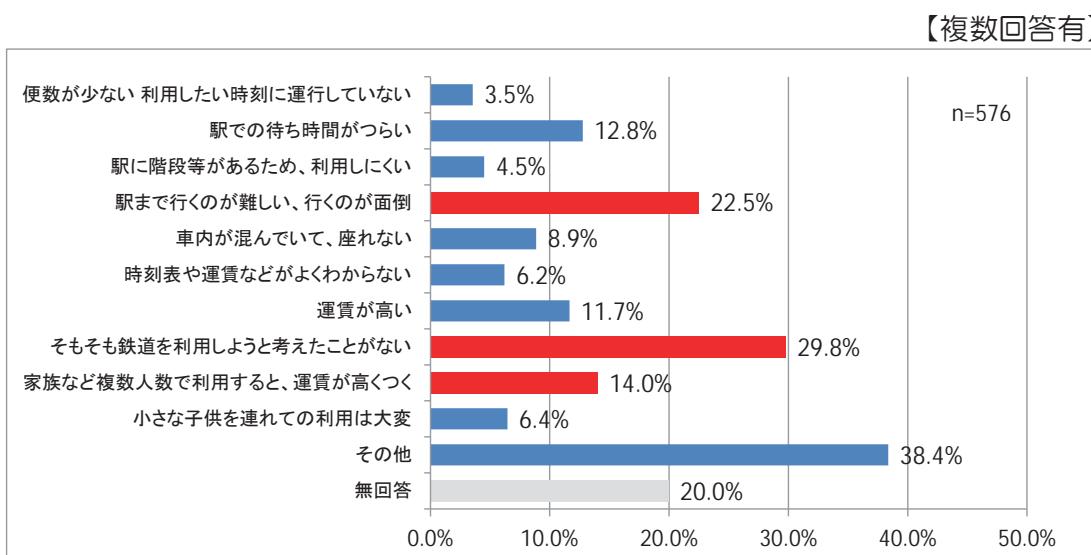


図 普段公共交通を使わない人の鉄道を利用しない理由

### 2) 路線バスを利用しない理由

- 普段公共交通を使わない人に路線バスを利用しない理由について尋ねたところ、「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約3割）。  
○また、「自宅や目的地からバス停が遠い」（約2割）や「利用できるバスがあるのか、よく知らない」（1割強）、「バス停まで行くのが難しい、行くのが面倒」（1割強）も多く回答されています。

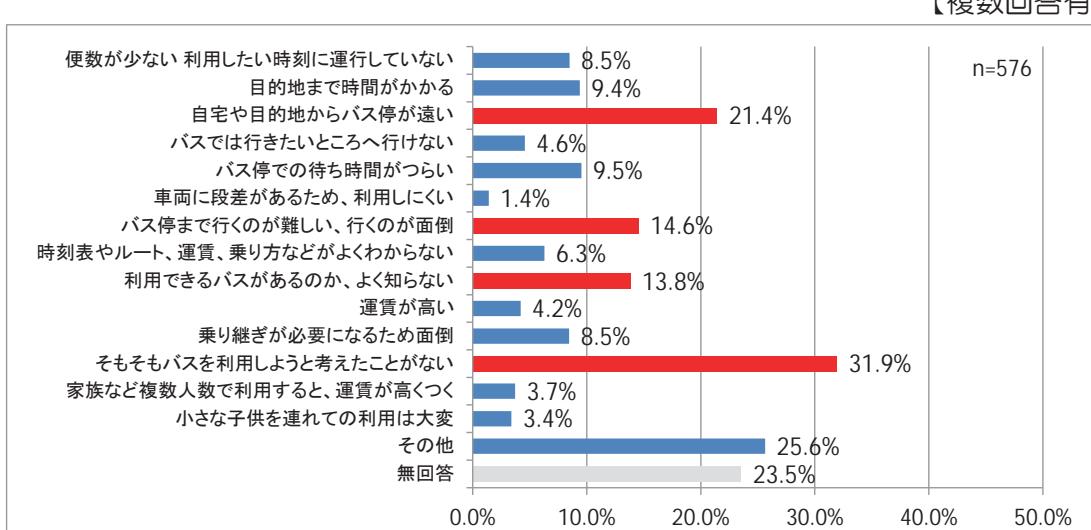


図 普段公共交通を使わない人の路線バスを利用しない理由

### 3) コミュニティバスを利用しない理由

- 普段公共交通を使わない人にコミュニティバスを利用しない理由について尋ねたところ、「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」との回答が最も多くなっています（約4割）。
- また、「利用できるバスがあるのか、よく知らない」（約2割）や「時刻表やルート、運賃、乗り方などがよくわからない」（約2割）も多く回答されています。

【複数回答有】

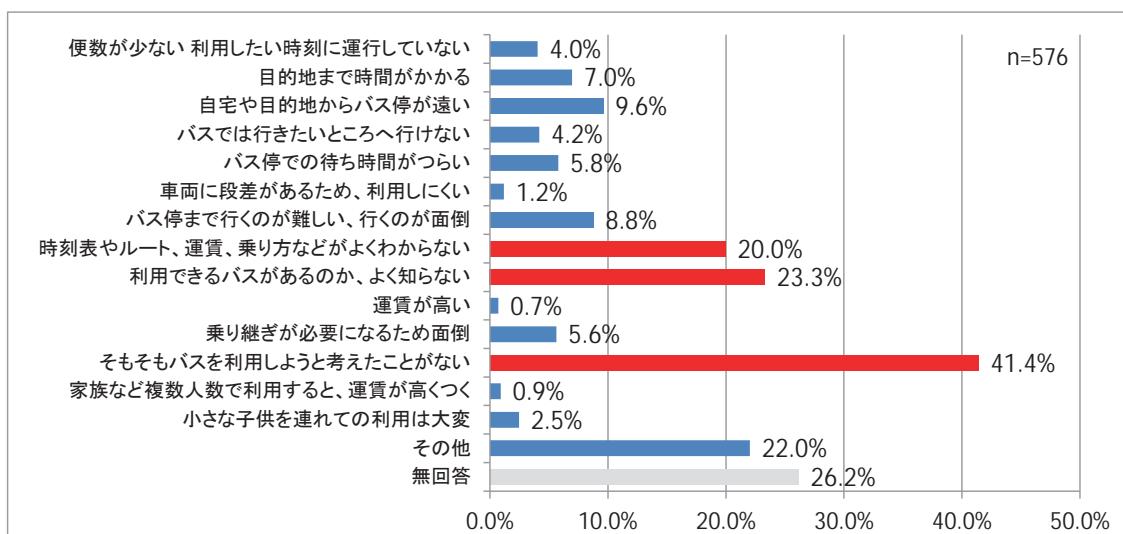


図 普段公共交通を使わない人のコミュニティバスを利用しない理由

## (7)今後の公共交通のあり方について

○今後の柳川市における公共交通の必要性について、「必要だと思う」の回答割合が最も高かったのは「高齢者のくらしの足を支える公共交通」で約8割が回答しています。また、「通勤・通学や買物、通院など、くらしの足を支える公共交通」も約7割が回答しています。

○その他の項目についても5~6割が「必要だと思う」を回答しています。

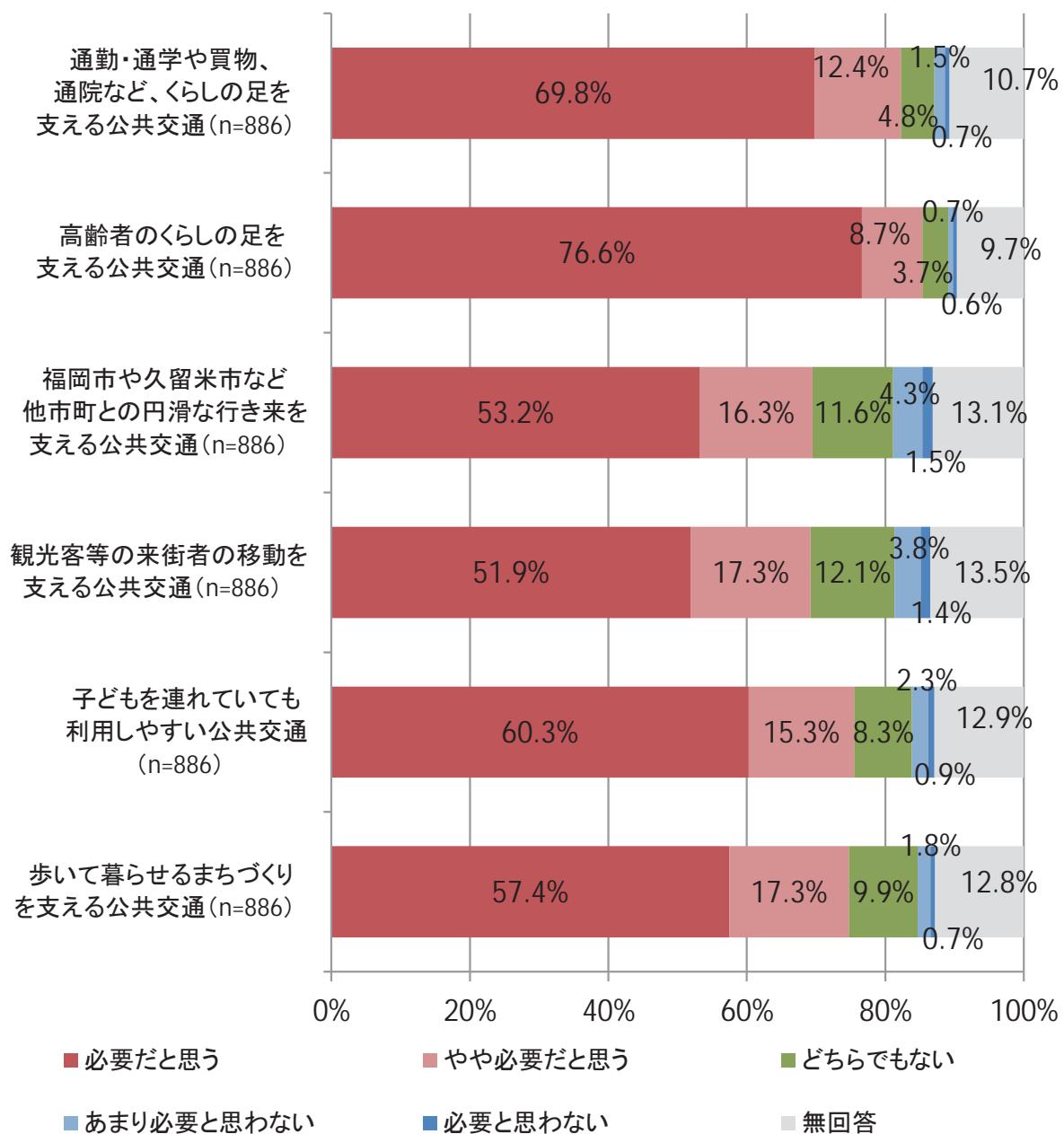


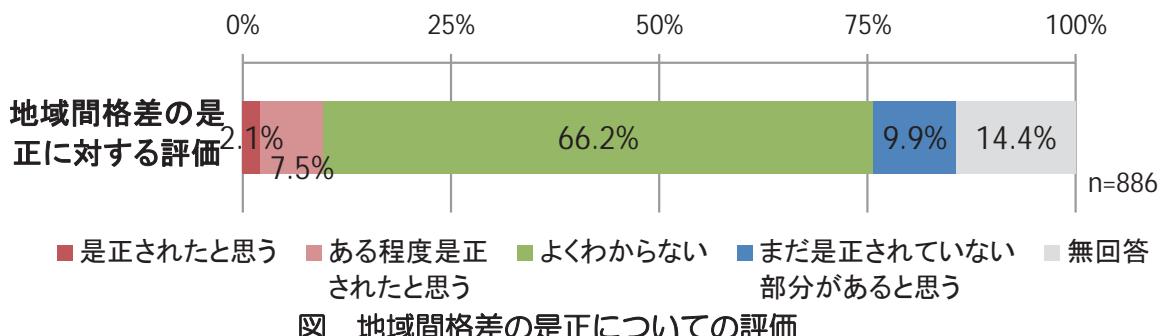
図 今後の柳川市における公共交通の必要性

## (8)公共交通に関する取り組みについて

### ① 地域間格差の是正

- 市内の公共交通サービスの地域間格差については、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（7割弱）。高評価は「是正されたと思う」と「ある程度是正されたと思う」を合わせても1割未満となっています。
- 一方で、約1割は「まだ是正されていない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、コミュニティバスを旧三橋町や旧大和町に拡大導入していきました。あなたは市内の公共交通サービスの地域間格差が是正されたと思いますか？

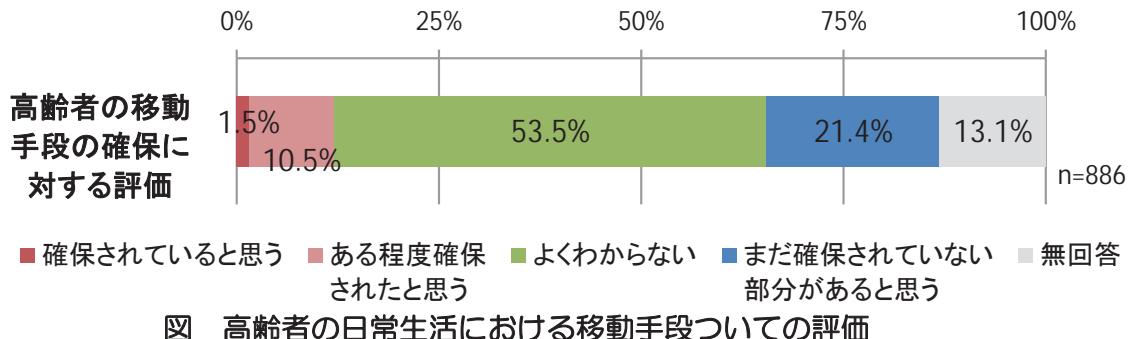


### ② 高齢者の日常生活における移動手段の確保

- 高齢者の日常生活における移動手段について、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（約5割）。高評価は「確保されていると思う」と「ある程度確保されたと思う」を合わせて1割程度となっています。

- 一方で、約2割が「まだ確保されていない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、主に高齢者の日常生活における移動手段を確保するべく、コミュニティバスのダイヤやルートの見直しを行ってきました。あなたは高齢者の日常生活における移動手段が確保されていると思いますか？



### ③ 市内外の円滑な公共交通ネットワークの確保

○公共交通を利用した円滑な公共交通ネットワークについて、「よくわからない」との回答が最も多くなっています（約6割）。高評価は「円滑な移動が可能になっていると思う」と「ある程度円滑な移動が可能になっていると思う」を合わせて1割程度となっています。

○一方で、約2割が「円滑な移動ができない部分があると思う」を回答しています。

Q. 市では、コミュニティバス、路線バス、鉄道などを乗り継ぐことで市内外を移動できるようにルートやダイヤを設定してきました。あなたは公共交通を利用して円滑に市内外を移動できるようになっていると思いますか？

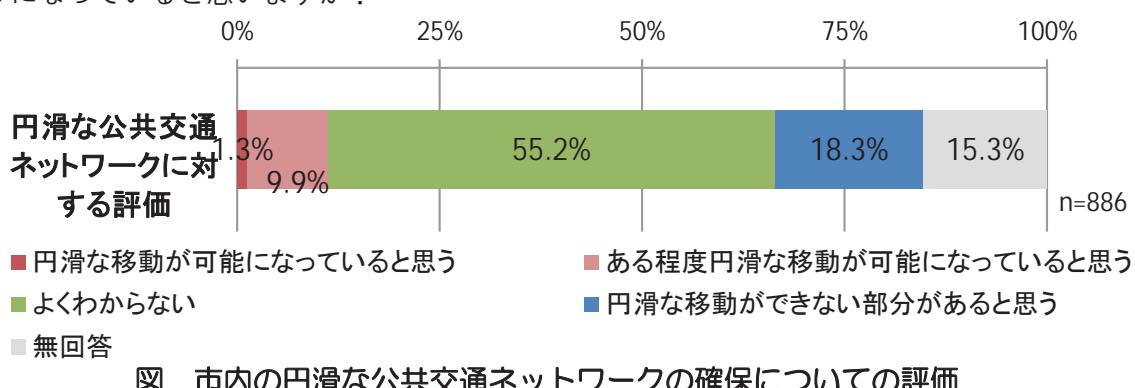


図 市内の円滑な公共交通ネットワークの確保についての評価

### ④ 市内の公共交通に対する満足度

○市内の公共交通に対する満足度について、「どちらでもない」との回答が最も多くなっています（約4割）。高評価は「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせて1割程度となっています。

○一方で、低評価は「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせて3割弱が回答しています。

Q. 市内の公共交通に対するあなたの満足度をお聞かせください

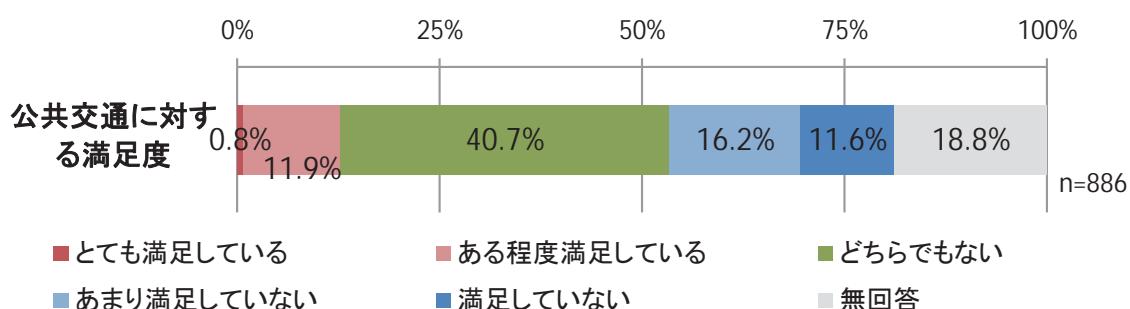


図 市内の公共交通に対する満足度

## 4-2 コミュニティバス利用者アンケート調査

### (1) 調査の概要

調査目的	・コミバス利用者の外出特性の把握 ・コミバス利用者のコミュニティバスに対する不満、改善要望の把握
調査対象	コミュニティバス全路線（8路線）・全便
調査方法	直接配布・郵送回収
調査期間	配 布：平成 28 年 8 月 29 日（月）～9 月 3 日（土） 回答期間：平成 28 年 8 月 29 日（月）～9 月 10 日（土）
把握項目	・コミバス利用状況（乗降バス停、外出目的・外出先、外出時間帯、他交通手段への乗り継ぎ状況）、利用頻度、利用曜日 ・現状サービスに対する不満・改善要望 ・支払可能額 ・分析に必要な属性
回収状況	回収票数：76 票

## (2)回答者の属性

- 回答者は、約8割が女性であるのに対して、男性は約5%と、圧倒的に女性の割合が高くなっています。
- 年齢をみると、「80歳以上」が4割強を占め、最も多く、次いで、「75~79歳」、「65~74歳」がそれぞれ2割前後となっており、65歳以上で9割弱を占めています。
- 回答者の運転免許並びに自家用車の保有状況をみると、約8割が「運転免許を持っていない」を回答しています。

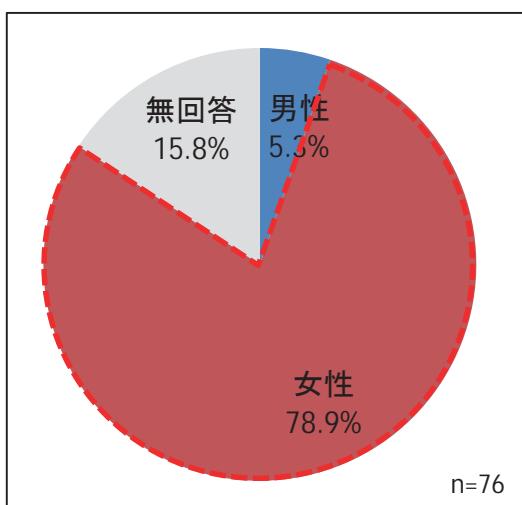


図 性別

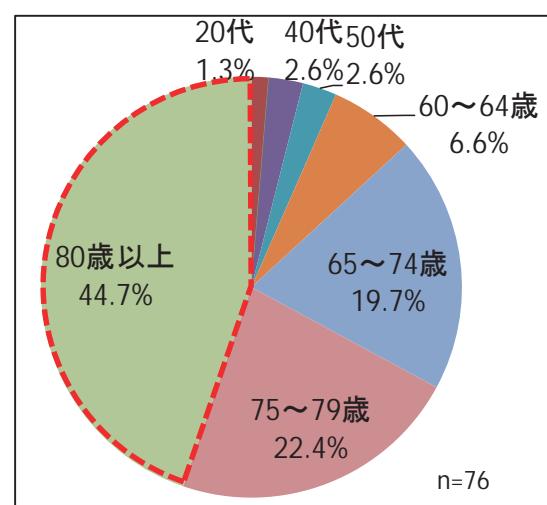


図 年齢

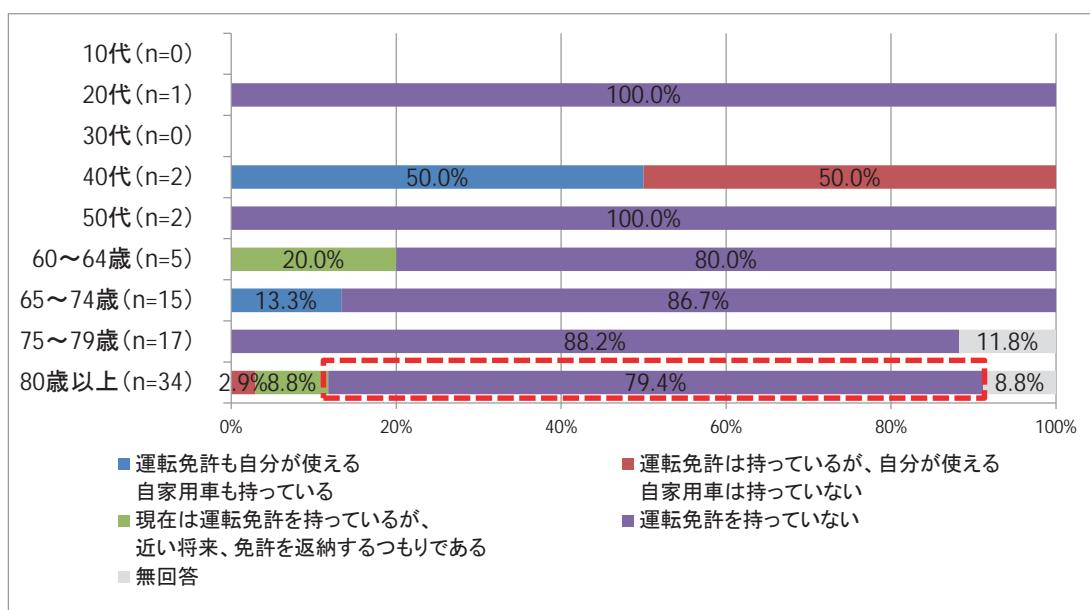


図 運転免許と自家用車保有状況

### (3) コミュニティバスの利用実態

#### 1) 主な外出目的

○回答者の主な外出目的では、「通院」が最も多く、回答者の約6割が回答しています。

○その他、「買物・飲食」が約4割、「公共施設」を約2割が回答しています。

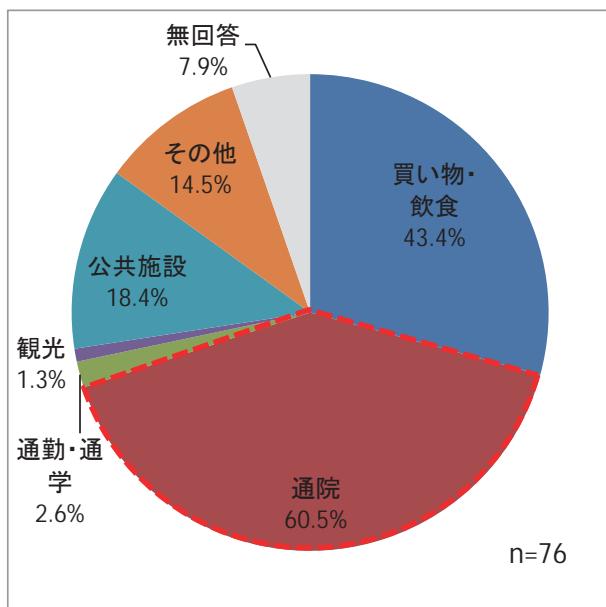


表 主な外出目的  
(その他の内訳)

	n=11 票数
かんぽの宿	2票
温泉	2票
プール、カーブス(健康教室)	1票
知人宅	1票
入院している妹の看病	1票
美容室	1票
郵便局、銀行	1票
老々介護	1票
無回答	1票

図 主な外出目的

## 2) 主な外出場所・施設名

○主な外出先については、「にしてつストア レガネット柳川」が最も多く、約3割が回答しています。その他、「柳川病院」(約2割)、「柳川リハビリテーション病院」(約15%)、「長田病院」(約1割)の回答が多くなっています。

表 主な外出場所・施設名

n=76  
【複数回答】

	割合		割合
柳川ショッピングモール	48.7%	眼科	2.6%
にしてつストア レガネット柳川	27.6%	歯科	2.6%
柳川ショッピングモール	9.2%	龍眼科	2.6%
こにし眼科	7.9%	TRIAL	1.3%
TUTAYA	2.6%	くろだ整形クリニック	1.3%
新生堂	1.3%	マミーズ中島店	1.3%
柳川病院	19.7%	久留米大学病院	1.3%
柳川リハビリテーション病院	14.5%	京町商店街	1.3%
長田病院	11.8%	新田歯科医院	1.3%
病院	5.3%	津留医院	1.3%
かんぽの宿 柳川	3.9%	藤吉医院	1.3%
スーパーまるまつ	3.9%	保養センター	1.3%
江頭整形外科医院	3.9%	柳川整骨院	1.3%
市役所	3.9%	龍外科	1.3%
柳川総合保健福祉センター「水の郷」	3.9%	星子医院	1.3%
Aコープ	2.6%	津末医院	1.3%
ダイソー	2.6%	京町まで	1.3%
マルキョウ	2.6%	無回答	23.7%

## 3) 鉄道・路線バスへの乗り継ぎ状況

○回答者のうち、鉄道や路線バスへの乗り継ぎについて、約3割が「乗り継ぐことがある」と回答しています。

○乗り継ぐ駅やバス停については、「柳川駅」や「水の郷」、「柳川ショッピングモール」、「京町商店街」があがっています。

表 乗り継ぐ駅

n=25

	割合
西鉄柳川駅	52.0%
蒲池～柳川駅	4.0%
柳川ショッピングモール	4.0%
無回答	40.0%

表 乗り継ぐバス停

n=25

【複数回答】

	割合
水の郷	16.0%
柳川ショッピングモール	12.0%
京町商店街	12.0%
かんぽの宿	4.0%
三柱神社前	4.0%
市役所前	4.0%
水の郷～長田病院	4.0%
西鉄柳川	4.0%
大川行きバス	4.0%
無回答	40.0%

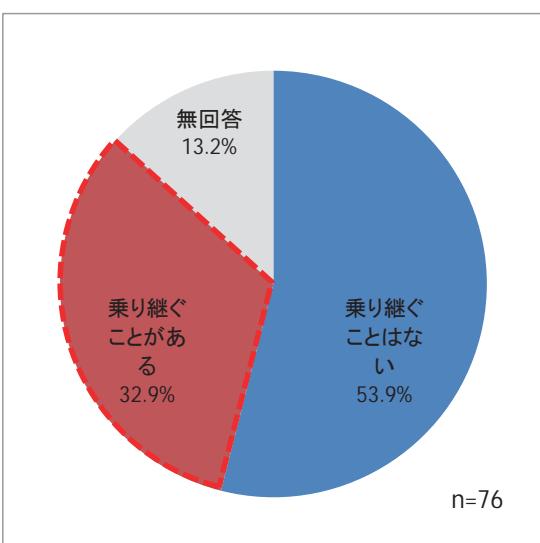


図 鉄道や路線バスへの乗り継ぎの有無

## (4)コミュニティバスに対する不満点・改善点

○コミュニティバスに対する不満点・改善点について、約4割が「バス停での待合環境を改善する」や「運行ルートを見直す」を指摘、約3割が「便数を増やす ダイヤを見直す」を回答しています。

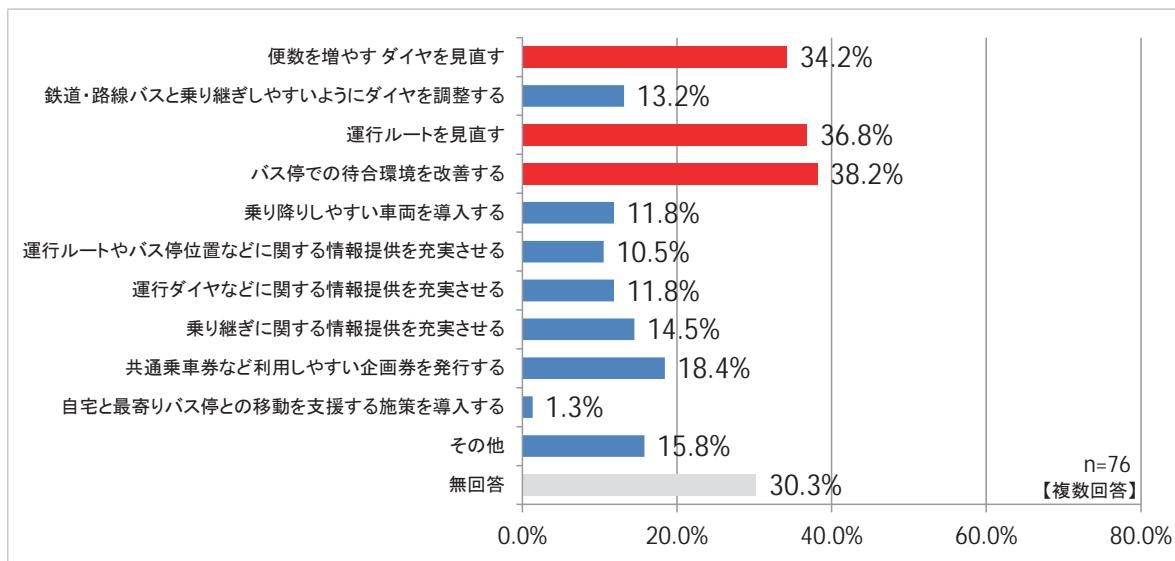


図 コミュニティバスに対する不満点・改善点

## (5)支払可能額

○コミュニティバスの運賃について、約2割が現行通り「100円」を回答する一方、約半数が現行運賃よりも高い運賃額を回答しています。

○現行運賃よりも高い運賃額を回答した中身は、「200円」が最も多く全回答者の約1/4が回答しています。また、「300円」が約8%、「150円」が約7%となっています。

表 支払可能額：現行運賃との比較

	割合
現行通り(100円)	18.4%
現行より高い運賃	47.4%
その他	2.6%
不明・無回答	31.6%
計	100.0%

表 支払可能額

	割合
200円	25.0%
100円	18.4%
150円	7.9%
300円	7.9%
500円	2.6%
120円	1.3%
130円	1.3%
400円	1.3%
90円～120円	1.3%
近距離100円、遠距離200円	1.3%
不明・無回答	31.6%
計	100.0%

## 4-3 福祉バスに関するアンケート調査

### (1) 調査の概要

調査目的	・福祉バスの利用状況やニーズの把握
調査対象	・両福祉バスの送迎先である、三橋総合保健福祉センター「サンブリッジ」、大和総合保健福祉センター「まほろばやまと」の利用者
調査方法	直接配布・センターに設置する回収ボックスでの回収
調査期間	配 布：平成 28 年 8 月 22 日（月）～8 月 27 日（土） 回答期間：平成 28 年 8 月 22 日（月）～9 月 3 日（土）
把握項目	・施設の利用頻度 ・福祉バスの利用有無及び利用頻度 ・福祉バスを利用しない理由 ・福祉バスの今後の利用意向 ・福祉バスを利用する理由 ・福祉バス利用者の外出特性（居住地、施設利用時間帯、利用曜日、立ち寄り先） ・福祉バスを利用するための条件、現サービスへの不満・改善要望 ・分析に必要な属性
回収状況	回収票数：71 票

### (2) 福祉バスの利用状況

○福祉バスの利用について、三橋、大和両保健福祉センターともに、約 8 割が「利用したことがない」と回答しています。

○「いつも利用している」との回答者は大和保健福祉センターにみられ、約 1 割が回答しています。なお、三橋保健福祉センターでは「いつも利用している」との回答は見られません。また、「たまに利用している」との回答は、三橋保健福祉センターで約 2 割、大和保健福祉センターで約 1 割となっています。

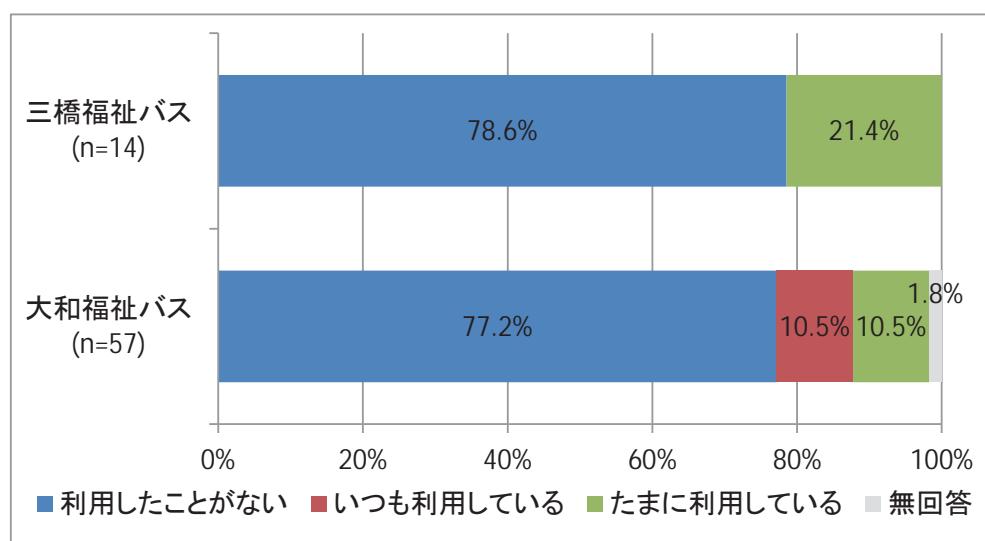


図 福祉バスの利用状況

### (3)福祉バスを利用しない理由と今後の利用意向

○福祉バスを利用したことがないと回答した人の福祉バスを利用しない理由は、両施設ともに「マイカーを利用しているから」が最も多く、大和保健福祉センターで約8割、三橋保健福祉センターで約5割が指摘しています。

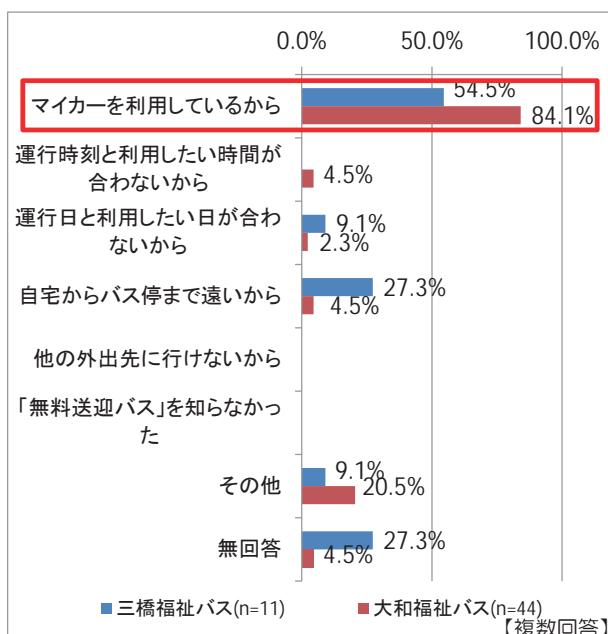


表 福祉バスを利用しない理由  
(その他の内訳)

	n=10 票数
自転車を利用するから	6票
バイクを利用するから	1票
バスがコースにない	1票
センターまで近い	1票
バスの通り道な自宅前にとまって	1票

図 福祉バスを利用しない理由

○今後の利用意向については、両施設ともに6割弱が「利用することはない」と回答しています。一方で、「福祉バスを利用しない要因が解消されれば利用したい」「福祉バスを知ったので今後は利用したい」との回答がそれぞれ1割強回答しています。

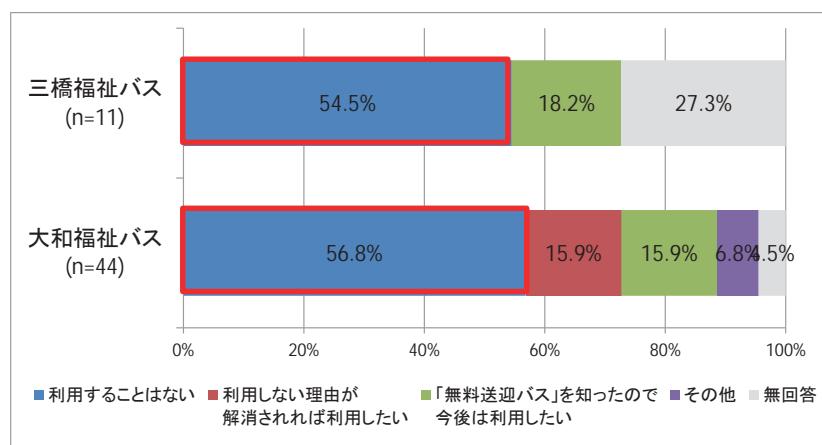


図 調査施設別の今後の利用意向

表 調査施設別の今後の利用意向：その他の内訳

n=3

	n=3 票数
利用したいけど、バス停まで遠いから	1票
無回答	2票

## (4)福祉バスを利用する理由と福祉バスに対する不満点

○福祉バス利用者は福祉バスを利用する理由については、両施設ともに「無料だから」が最も多く、大和保健福祉センターで約8割、三橋保健福祉センターで約3割が回答しています。また、その他、大和保健福祉センターでは「他に利用できる交通手段がない」や「車内やバス停で友人や知人と会話ができる」も回答されています。

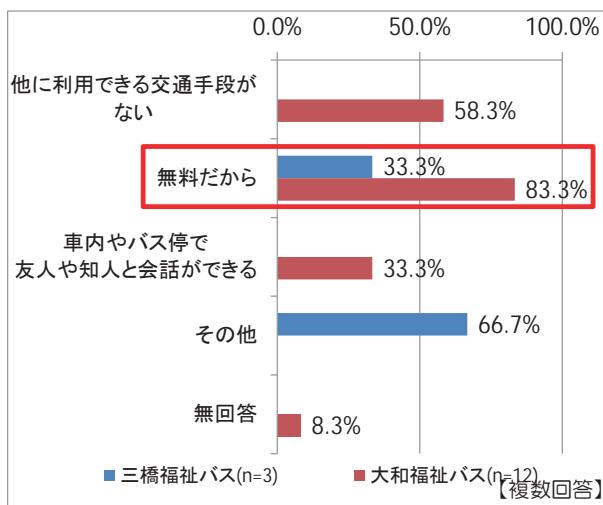


表 福祉バスを利用する理由  
(その他の内訳)

n=2	
水の郷まで行く	2票

図 福祉バスを利用する理由

○福祉バスに対する不満点・改善点については、「便数が少ない」が最も多く、3割弱が回答。その他、「自宅からのバス停が遠くて不便」を約2割が回答しています。

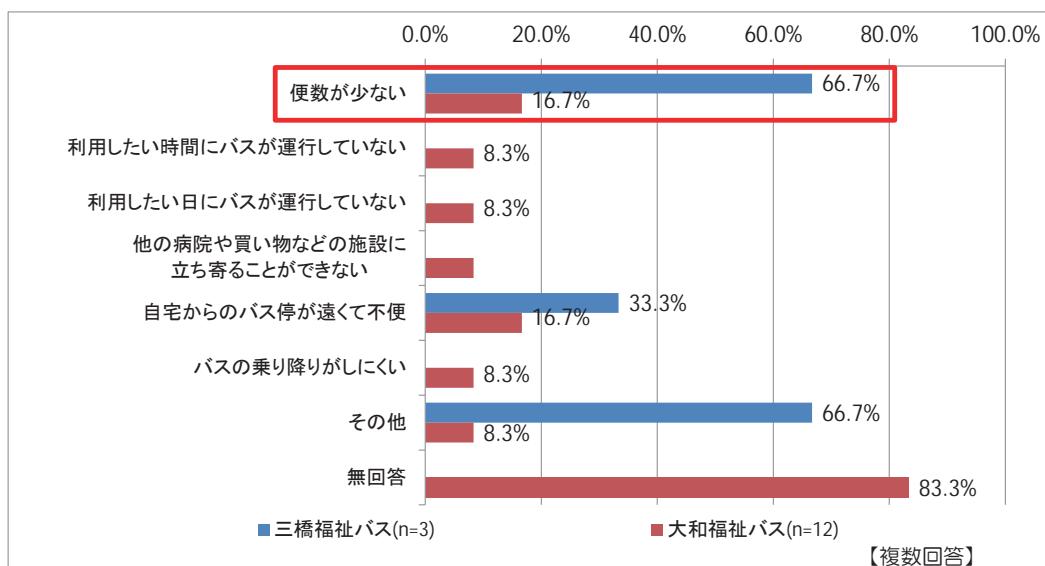


図 福祉バスに対する不満点

表 福祉バスに対する不満点：その他の中訳

n=3	
100円バスを水の郷まで出してほしい	2
営業所からのせてほしい	1

## 4-4 柳川駅利用者聞き取り調査

### (1) 調査の概要

<b>調査目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川駅利用者の移動特性の把握</li> <li>・西鉄バス利用者の利用特性</li> <li>・堀川バス利用者の利用実態</li> <li>・西鉄大牟田線を利用して来街する観光客等の市内の移動手段や公共交通に対するニーズ等の把握</li> </ul>	
<b>調査対象</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西鉄柳川駅を利用する市民及び来街者</li> </ul>	
<b>調査方法</b>	<p>1対1の対面方式による聞き取り調査            (柳川駅西口の2ヶ所の出口を基本に、時間帯によって柔軟に調査位置を変えつつ、実施。特に、東口については堀川バスの出発時刻に合わせて移動し、調査を実施)</p>	
<b>調査日及び調査時間帯</b>	<b>平日</b>	<b>休日</b>
	<b>調査日</b> 平成28年9月7日(水)	<b>休日</b> 平成28年9月3日(土)
	<b>調査時間帯</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7時～10時(3時間)：主に市外からの通勤・通学者を対象</li> <li>・12時～14時(2時間)：主に市民の買物・通院・その他私用を対象</li> <li>・16時～19時(3時間)：主に市民の通勤・通学を対象</li> </ul>	・9時～18時(9時間)：すべての利用者を対象
<b>把握項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時間帯</li> <li>・駅まで(から)の移動手段</li> <li>・乗車・降車バス停(駅)</li> <li>・目的地(外出先)</li> <li>・利用頻度</li> <li>・公共交通に対するニーズ</li> <li>・分析に必要な属性</li> </ul>	
<b>回収状況</b>	回収票数：330票	

## (2)回答者の属性

- 回答者の約6割は女性、約4割が男性と、女性が多い回答結果となっています。
- 回答者の年齢は「20-30代」が約4割と、最も多く、次いで「40-64歳」が約3割となっています。また、「10代」「65-74歳」がそれぞれ1割強を占めています。

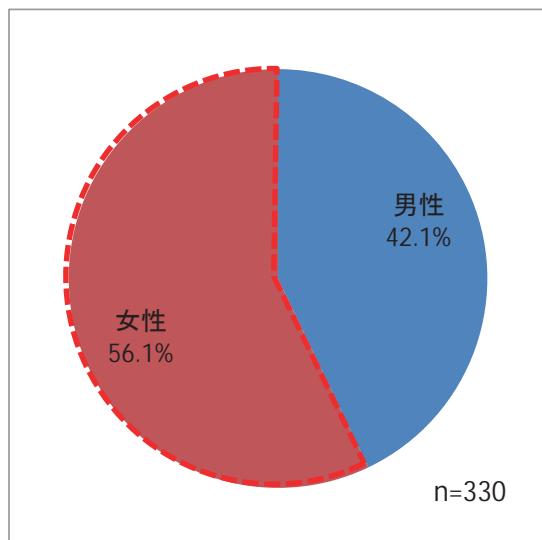


図 回答者の性別

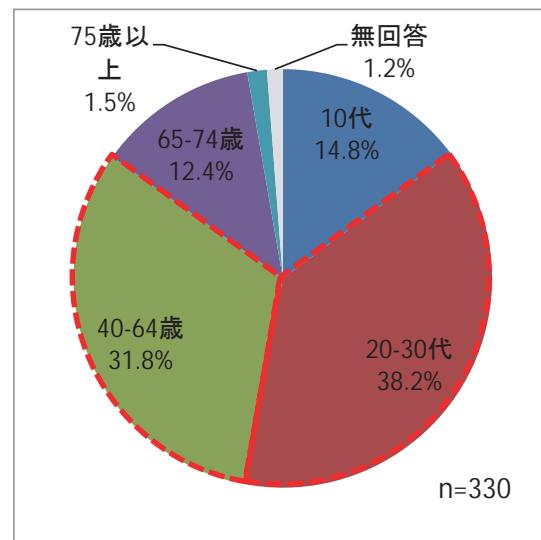


図 回答者の年齢

- 回答者はほぼ日本人で、県内居住者が約9割、県外居住者が約7%となっています。
- 県内居住者の内訳では、市内居住者が約半数、市外居住者は約4割を占めています。
- 市内居住者の内訳では、「三橋地域」が最も多く、半数近くを占めています。また、「柳城地域」や「昭代地域」が1割強を占めています。その他、「大和地域」や「柳南地域」、「蒲池地域」居住者が数%となっています。
- 市外居住者の内訳では、「福岡市」が最も多く、約2割を占めています。次いで、「大川市」(約17%)、「久留米市」(約16%)、「みやま市」(約14%)、「大牟田市」(約12%)となっています。

表 回答者の居住地

	割合
国内	98.2%
県内	91.5%
市内	48.8%
市外	42.7%
県外	6.7%
海外	0.6%
無回答	1.2%
計	100.0%

n=330

表 市内の内訳

	割合
柳城地域	16.6%
昭代地域	13.6%
蒲池地域	3.6%
柳南地域	5.3%
大和地域	6.5%
三橋地域	45.0%
その他	7.7%
無回答	1.8%

n=169

表 市外の内訳

	割合
福岡市	18.4%
久留米市	17.0%
大川市	17.0%
みやま市	14.2%
大牟田市	13.5%
筑紫野市	4.3%
小郡市	3.5%
三潴郡	2.8%
筑後市	2.1%
春日市	1.4%
太宰府市	1.4%
大野城市	1.4%
北九州市	1.4%
うきは市	0.7%
八女市	0.7%

n=141

○居住地別に回答者の年齢をみると、市内居住者は「10代」が約2割、「20~30代」は約4割を占め、比較的若い年齢層の利用が多くなっています。一方、65歳以上の高齢者の利用は1割程度と少なくなっています。同様の傾向は、大川市・みやま市居住者にもみられます。

○大川市・みやま市以外の市外居住者をみると、「40~64歳」の割合が高くなっています。遠方から柳川市に来街している人は年配者が多い傾向がみられます。

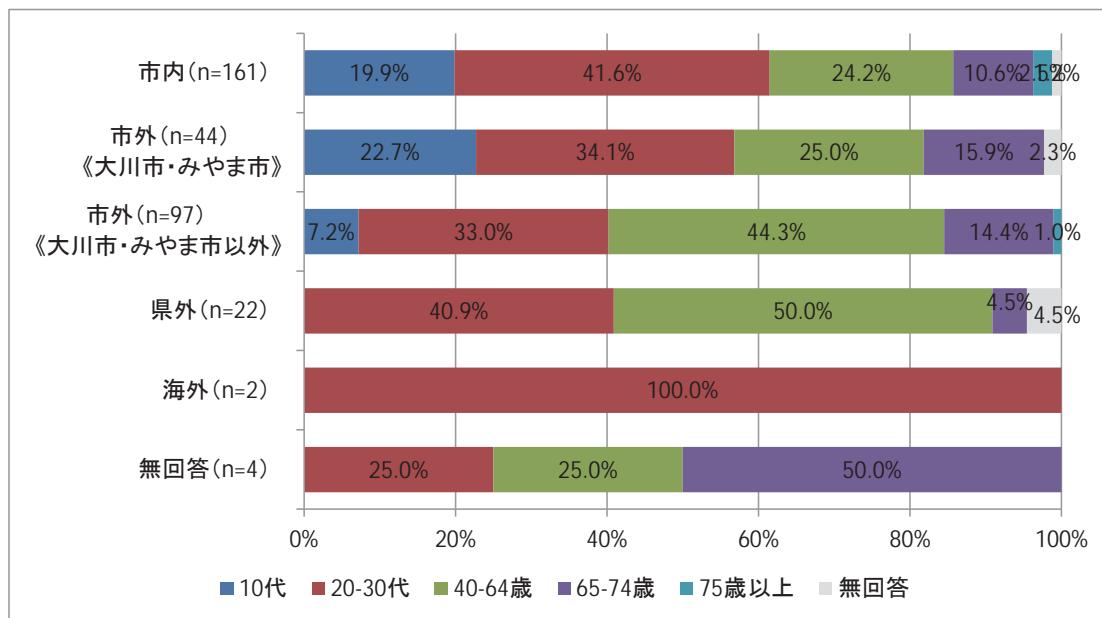


図 居住地別回答者の年齢

### (3) 駅利用者の移動特性

#### 1) 外出目的

- 外出目的については、「通勤」が最も多く、約 3 割を占めます。次いで、「通学」が約 2 割を占めます。
- その他、「買物」が約 1 割、「通院」が約 6%、「観光」は約 3%となっています。
- 「その他」では、帰宅や帰省、知人や家族への訪問などが回答されています。

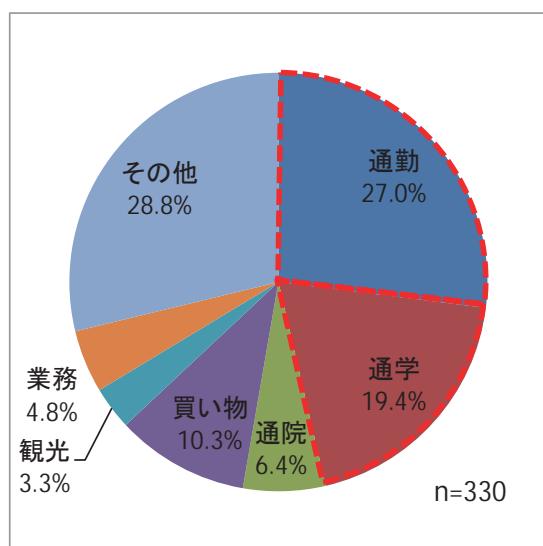


図 駅利用者の外出目的

表 その他の外出目的の内訳  
n=95

	票数
帰宅	23票
帰省・知人への訪問	21票
お見舞い	7票
習い事	4票
親戚宅訪問	4票
温泉治療	3票
遊び	3票
仕事	2票
出張	2票
部活	2票
その他	15票
無回答	9票

#### 2) 柳川駅まで（から）の移動手段

- 柳川駅まで（から）の移動手段について、「西鉄バス」が最も多く、約 2 割を占めています。また、「堀川バス」も約 1 割」を占めています。
- また、「自家用車(家族等の送迎)」が 2 番目に多く、2 割弱を占めます。「自家用車(自分で運転)」(約 3%) を合わせると、クルマでのアクセスは全体の約 2 割を占めます。
- その他、「徒歩」も多く(約 1 割)、駅利用者の中には駅近くに自宅や勤務先等の外出先を持つ人が相当数を占めることがうかがえます。

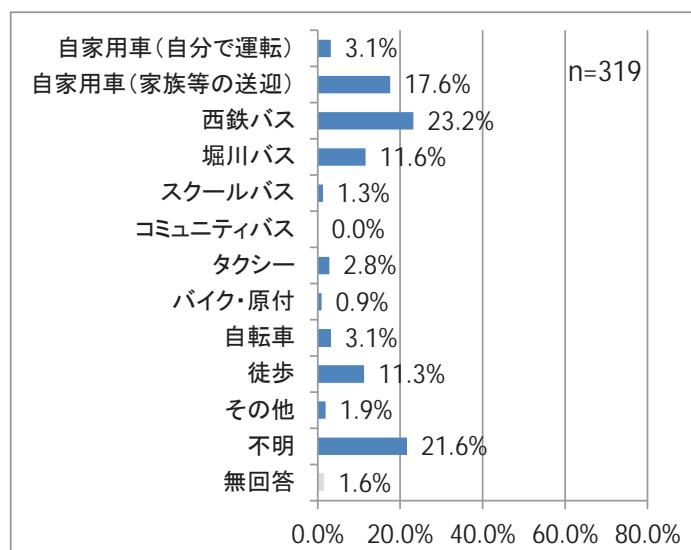


図 柳川駅まで（から）の移動手段

### 3) 通勤者の柳川駅まで（から）の移動手段

○通勤者の柳川駅まで（から）の移動手段は、「徒歩」（約 2 割）が最も多く、次いで「西鉄バス」（約 2 割）、「自家用車（家族等の送迎）」（1 割強）となっています。

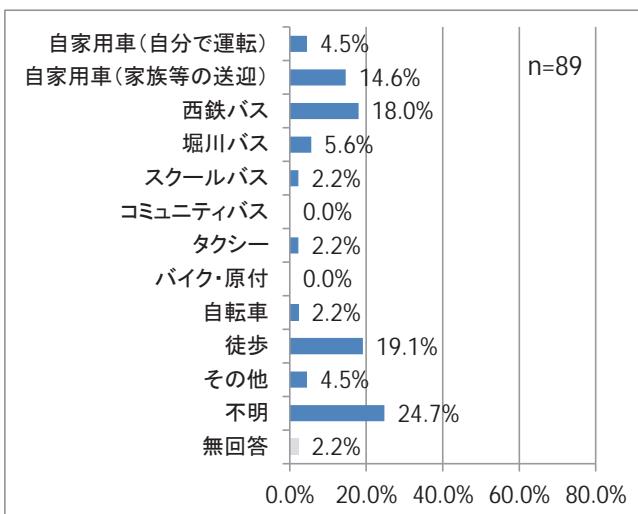


図 柳川駅まで（から）の移動手段：通勤者

### 4) 通学者の柳川駅まで（から）の移動手段

○通学者の柳川駅まで（から）の移動手段は、「自家用車（家族等の送迎）」（約 2 割）が最も多く、次いで「西鉄バス」（約 2 割）、「堀川バス」（約 1 割）となっています。

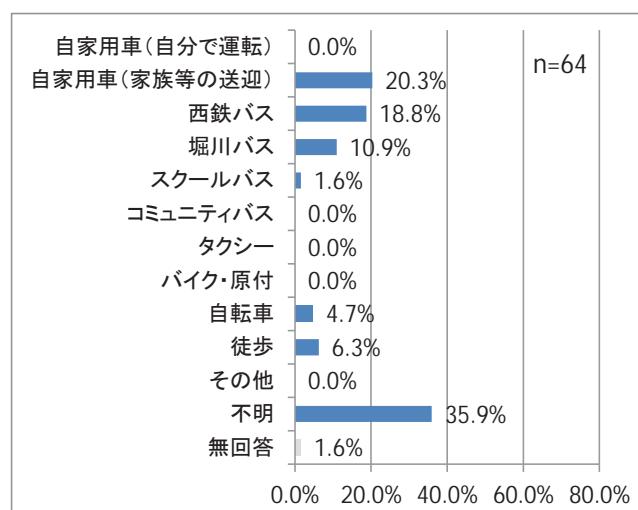


図 柳川駅まで（から）の移動手段：通学者

### 5) 観光客の柳川駅まで（から）の移動手段

○柳川駅まで（から）の移動手段について、観光客では「徒歩」（約 5 割）、「川下り送迎バス」（約 2 割）、「タクシー」（約 2 割）、「路線バス」（約 2 割）が回答されています。

表 観光客の柳川駅まで（から）の移動手段  
n=11

【複数回答】	
	割合
川下り送迎バス	18.2%
タクシー	18.2%
レンタカー	0.0%
路線バス	18.2%
レンタル自転車	0.0%
徒歩	45.5%
不明	9.1%
その他	36.4%
無回答	0.0%

## (4)路線バス利用者の路線バスに対する不満等

### 1) 路線バスに対する不満点

○路線バスに対して、路線バス利用者からは「利用したい時刻にバスがない」(約2割)、「時刻表よりも遅れてくることがある」(約1割)との回答があがっています。

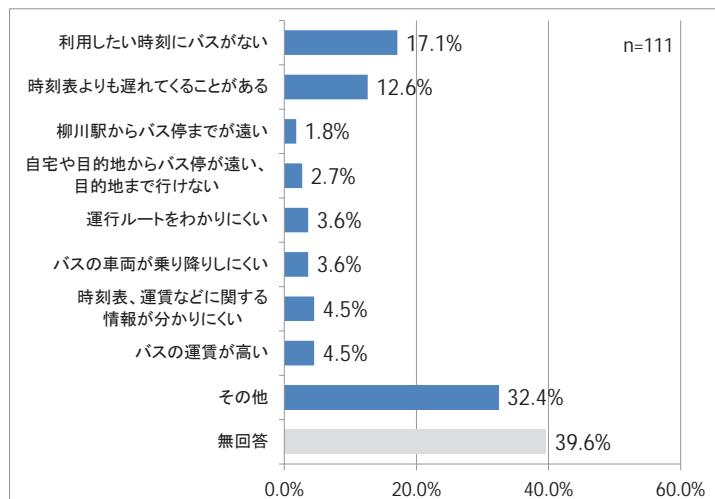


図 路線バスに対する不満点

### 2) 乗り継ぎに対する改善要望

○鉄道との乗り継ぎについて、路線バス利用者からは「ダイヤを調整する」(1割強)、「待合環境を改善する」(1割弱)、「バスの接近・通過情報提供サービスを設置する」(1割弱)との回答があがっています。

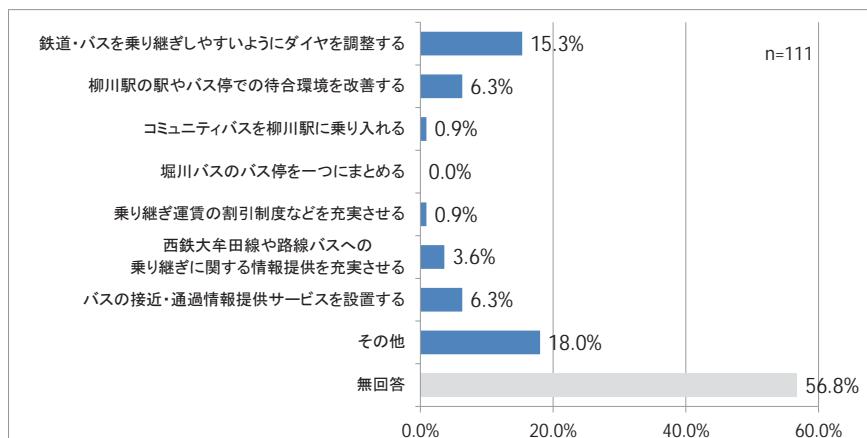


図 乗り継ぎに対する改善要望

## (5)観光客の柳川市内を観光するにあたって公共交通に望むこと

○柳川市内を観光するにあたって、観光客が公共交通に望むこととして、「観光地付近にバス停を設置」(約2割)、「観光施設と公共交通がセットになった企画券の販売」(約2割)、「路線図、時刻表、運賃等のわかりやすい情報の提供」(約2割)との回答があがっています。

表 観光客が公共交通に望むこと

	割合
駅から観光地まで運行するバス路線の整備	9.1%
市内の観光地を周遊できるバス等の整備	0.0%
路線バスの増便	0.0%
観光地付近にバス停を設置	18.2%
市内の乗り降りが自由な乗車券の販売	0.0%
観光施設と公共交通がセットになった企画券の販売	18.2%
路線図、時刻表、運賃等の分かりやすい情報の提供	18.2%
バスの接近・通過情報サービスの提供	0.0%
その他	27.3%
無回答	36.4%

## 4-5 交通事業者ヒアリング調査

### (1) 調査の概要

調査目的		<ul style="list-style-type: none"><li>・市民及び観光客等来街者の市内における移動特性の把握</li><li>・市民及び観光客等来街者の公共交通に対する不満・改善要望等の把握</li><li>・公共交通全体の利用促進に向けた連携施策や効率的な公共交通ネットワークの形成に向けた役割分担等に関する意見の収集</li></ul>
調査対象		<ul style="list-style-type: none"><li>・市内のタクシー事業者 4 社</li><li>・スクールバスを運行している高校 2 校</li><li>・川下り送迎バスを運行している川下り会社 2 社</li></ul>
調査方法		個別訪問によるヒアリング
調査期間		タクシー事業者：平成 28 年 8 月 18 日（木） スクールバス：平成 28 年 8 月 23 日（火）、8 月 25 日（木） 川下り会社：平成 28 年 8 月 25 日（木）
把握項目	タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"><li>・タクシーの利用特性</li><li>・公共交通に対するタクシー利用者の不満や要望</li><li>・公共交通全体の利用促進に向けたアイデア</li><li>・公共交通の効率化に向けた意見</li><li>・事業者が抱える問題点・課題</li></ul>
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"><li>・スクールバスの運行状況</li><li>・スクールバスの収支状況および学校のスクールバスに対する考え方</li><li>・高校生の公共交通に求めるニーズ</li><li>・事業者が抱える問題点・課題</li></ul>
	川下り送迎バス	<ul style="list-style-type: none"><li>・送迎バスの運行状況</li><li>・観光客の 2 次交通の状況</li><li>・公共交通に対する送迎バス利用者の不満や要望</li><li>・相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア</li><li>・事業者が抱える問題点・課題</li></ul>

## (2)タクシー事業者

		調査結果
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10数年前から減少傾向。</li> <li>・減少理由は、景気の低迷、運転手の不足により約1割が休車状態。</li> <li>・コミュニティバスの運行で、タクシー利用者が減少している。</li> <li>・輸送実績は、平成21年度と比較すると柳川地区で平均83%~85%まで落ちている。</li> <li>・自家用車の普及や運転代行の利用が増えたため、特に夜間の利用が落ち込みがひどい。</li> </ul>
タクシーの利用特性	利用者の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に高齢者が多い。</li> <li>・昼間の時間は高齢者の通院、買物での利用が多い。</li> <li>・1回平均1000円（約3km）の利用。</li> <li>・バス停や駅から離れている人の利用が多い。</li> <li>・1人での利用が6割ほどである</li> </ul>
	地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳川市西部、南部への配車が多い。特に昭代地区、両開地区の利用が多い。</li> <li>・コミュニティバスだと時間がかかるため、急ぎの人や救急の人人がタクシーを利用している。</li> <li>・観光客については、歩いて回れるところが多く、距離が短いため、初めから最後までタクシーを利用する方は少ない。</li> <li>・観光での利用は、川下りをした後の帰りのタクシー利用がある。</li> </ul>
や改善要望	利用する公共交通に対する不満   対	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの経費負担より、タクシー補助券を配布した方が良いのではないか。</li> <li>・柳川駅構内のタクシー乗り場が離れており、着物の客が雨の日に濡れてしまい、苦情をいただいた。</li> <li>・タクシー乗場が駅施設から離れているため、お客様からクレームあり。</li> <li>・バスのスペースを取りすぎている。タクシーの利便性のこととも考えてほしかった。</li> </ul>
	公共交通全体の利用促進に向けたアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産大牟田散策キップのような、柳川市内の食事、観光、タクシー等で利用できるチケットが柳川市内のタクシー全社できれば、観光客をもっと取り込めるのではないか。</li> <li>・鉄道と川下りとタクシーをセットにした割引券を販売している。</li> <li>・nimocaによる電子マネーポイントサービス。1日20件ほどの利用がある。</li> <li>・西鉄電車と提携した利用チケット。1日10件ほどの利用がある。</li> <li>・高齢者や免許返納者への割引の実施。</li> </ul>
	公共交通の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの高齢者のSOS確認を行政・福祉・タクシーとの連携ができないか。</li> <li>・高齢者向けのタクシーの福祉チケットを配布すれば、タクシー利用客が戻ってくれるのではないか。</li> <li>・バスは定時で決まった路線を走り、何十人でも運べる。一方、タクシーはアトランダムで走ることができるが、4人までしか乗せることができない。</li> <li>・この棲み分けを明確にして検討すべきである。</li> </ul>
題	続々タクシーカーの運行を継続していきくための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスはバス停まで歩かないといけないが、タクシーはドアtoドアの移動が可能である。そうした部分にタクシーのメリットがある。デマンド交通とはサービスが競合するため導入する場合には慎重な検討が必要。</li> <li>・柳川駅の構内のタクシー乗り場が離れており、途中、屋根がない。</li> <li>・現状、乗務員の確保が困難である。</li> <li>・運転手の高齢化と若い新規運転手の減少。</li> <li>・運転免許返納者への支援制度としてタクシー運賃助成券の導入を検討してほしい。</li> </ul>

### (3)スクールバス

		調査結果
スクールバスの利用状況	運行状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉森高校では、八女方面、広川方面、久留米方面、大牟田方面に計 5 ルート運行。車両はマイクロバス 3 台、大型車 1 台、中型車 1 台。各ルート朝夕 1 便ずつ運行。八女方面のみ部活専用ダイヤを運行。</li> <li>・柳川高校では、柳川駅と学校を結ぶシャトルバスを朝夕 4 便ずつ運行。また、久留米・大川方面、筑後・みやま方面、広川方面に計 4 ルート運行。</li> </ul>
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉森高校では全校生徒数 400 名のうち、約 100 名がスクールバスを利用。</li> <li>・柳川高校では、シャトルバスを 120~130 名が利用。スクールバスは約 50 名が利用</li> </ul>
公共交通に求めるニーズ	スクールバスの運行時間に間に合わない場合の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスに間に合わない時には家族に送迎を頼んでいる生徒が多い。</li> <li>・中には電車やバスを利用している生徒もいる。</li> </ul>
	スクールバスを利用していない生徒の通学手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両校とも自宅から直接自転車を利用している生徒が大半を占める。また、柳川駅まで西鉄天神大牟田線で来て、駅近辺の駐輪場に止めている自転車を利用している生徒も多い。</li> <li>・杉森高校では堀川バスを利用している生徒は少数。しかしながら、雨天時は自転車を利用している生徒が利用するため堀川バス利用者は多い。</li> <li>・柳川高校においても、雨天時は自転車利用者がシャトルバスを利用するため、雨天時は混雑する。</li> </ul>
スクールバスの運行を継続していくための課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側で運転手を雇って運行したほうが経費を抑えられるかもしれないが、車両の整備等が必要となるため、手間がかかり、委託する方が都合がいい。しかし、最近はスクールバスの運行を受け持ってくれる業者が少なく、その確保が課題。</li> <li>・委託費を削減したい。例えば、通学時間帯はスクールバスとして使用し、昼間は一般バスとして使用するなど、車両を活用していければいい。</li> </ul>

## (4)川下り送迎バス

		調査結果
川下り送迎バスの利用状況	運行状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水郷柳川観光(株)では、乗船場から御花まで片道で運行。帰りは送迎バスを運行。送迎バスは、土日祝等お客様が多い日は 12:30～16:45 で、20～30 分間隔で運行。平日等少ない日は 1 日 4 便 (13:40、14:40、15:40、16:40) 運行。マイクロバス 1 台、ワゴン車 2～3 台を使用。</li> <li>・大東エンタープライズでは、御花近くの駐車場から柳川駅近くの乗船場までバスで運搬し、乗船場から御花まで川下り。川下り後の送迎バスは柳川駅まで送迎しており、1 ヶ月に 10 回程度、年間約 150～200 回運行している。</li> </ul>
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川下りに来る観光客は 6～7 割がマイカー利用。他には西鉄天神大牟田線やツアーバスで来街している。</li> <li>・水郷柳川観光(株)の場合、8～9 割が川下り後の送迎バスを利用している。送迎バスが運行していない午前中や夕方遅くの利用者はタクシーや路線バスを利用している。</li> <li>・大東エンタープライズの場合、御花側に駐車場があることもあり、柳川駅までの送迎利用は全体利用者に比して僅かである。</li> </ul>
公共交通に対する送迎バス利用者の不満や改善要望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・御花周辺からの路線バスの便数が少ない。そういう声があることもあって送迎バスを運行している。</li> </ul>
相乗効果を生む連携施策に向けたアイデア		<ul style="list-style-type: none"> <li>・川下りから戻る際の交通手段のチラシの配布（路線バスの時刻表、運賃、タクシーの運賃、無料送迎バスの時刻表）</li> <li>・西鉄・JR とセットとなった企画券の販売</li> <li>・観光周遊バスの運行(川下り後の乗船場地点までの移動にも利用可能なもの)</li> </ul>
送迎バス運行についての今後の意向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎バスの運行経費はかかっているが、路線バスの便数が増えたとしても送迎バスの運行を辞める予定はない。</li> <li>・送迎バスは川下りをやっている以上必然的なサービスと考えている。</li> </ul>

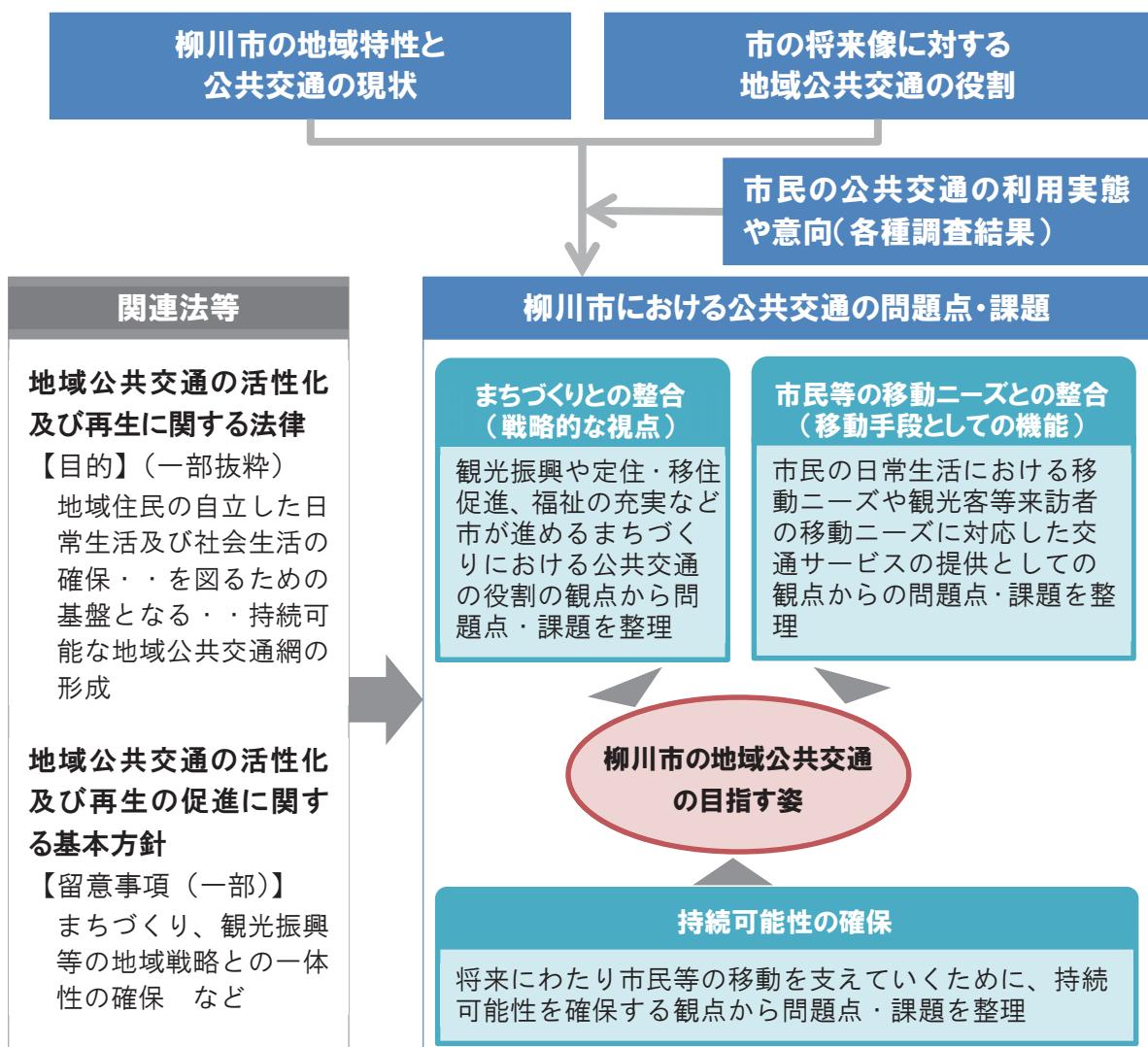
## **5. 柳川市の公共交通の問題点・課題**

## 5-1 柳川市の公共交通の問題点・課題の考え方

前章までに整理した本市の地域特性や公共交通の現状、本市の将来像における公共交通の役割、市民の公共交通に対する意向等を踏まえて、本市における公共交通の問題点・課題を整理しました。

ここで、本計画に基づく「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の目的には“地域住民の自立した日常生活及び社会生活の確保を図るための基盤となる持続可能な地域公共交通網の形成”が位置付けられています。また、「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」では「まちづくり、観光振興等の地域戦略との一体性の確保」が地域公共交通網形成計画の作成に関する基本的な事項として求められています。

こうした点を踏まえて、問題点・課題の整理にあたっては、「まちづくりとの整合の観点からみた課題」「市民等の移動ニーズへの対応の観点からみた課題」「持続可能性の確保の観点からみた課題」の三つの観点から整理しました。

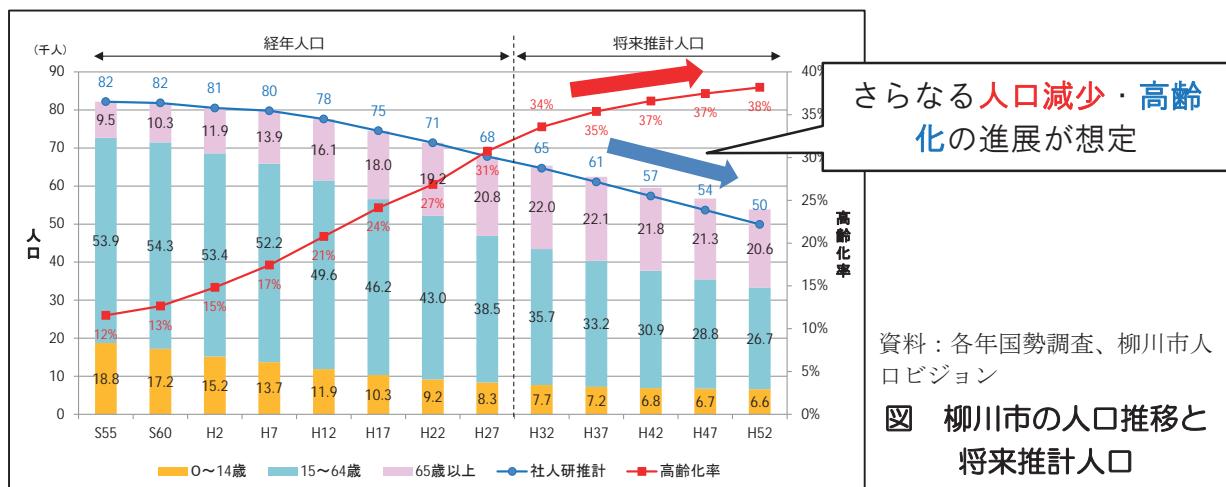


## 5-2 まちづくりとの整合の観点からみた課題

### (1)コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保

- ・人口減少・高齢化が進展し、集落が市全域に広く点在している本市においては、今後も住み続けられる街を実現していくために、歩いて暮らすことができる※コンパクトな都市づくりへの転換が求められています。
- ・市内各地から公共交通で都市機能が集積する西鉄柳川駅周辺にアクセスできる環境を形成していく必要があります。

※ “歩いて暮らすことができる”とは、自動車に頼らなくても日常生活の移動ができる環境を指す



## (2)生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保

- 本市では市民がまちに愛着を持ちいきいきと暮らしていくために、地域コミュニティの醸成や生涯学習の推進、文化芸術活動の振興、スポーツ活動の推進、子育て環境の充実、健康づくり、高齢者の生きがいづくりなどを進めています。
- 市民の一人ひとりが取り組みに参加できるよう、それぞれの活動拠点へのアクセスの確保が求められます。

表 まちづくり分野ごとの活動拠点の一覧

<b>生涯学習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センター、あめんぽセンター、総合保健福祉センターへのアクセスの確保</li> <li>・市民文化会館（仮）へのアクセスの確保</li> </ul>
<b>子育て</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども連れでも利用しやすい移動手段の確保</li> </ul>
<b>高齢者福祉</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関へのアクセスの確保</li> <li>・生涯学習センター、あめんぽセンター、総合保健福祉センターへのアクセスの確保</li> </ul>

資料：第2次柳川市総合計画

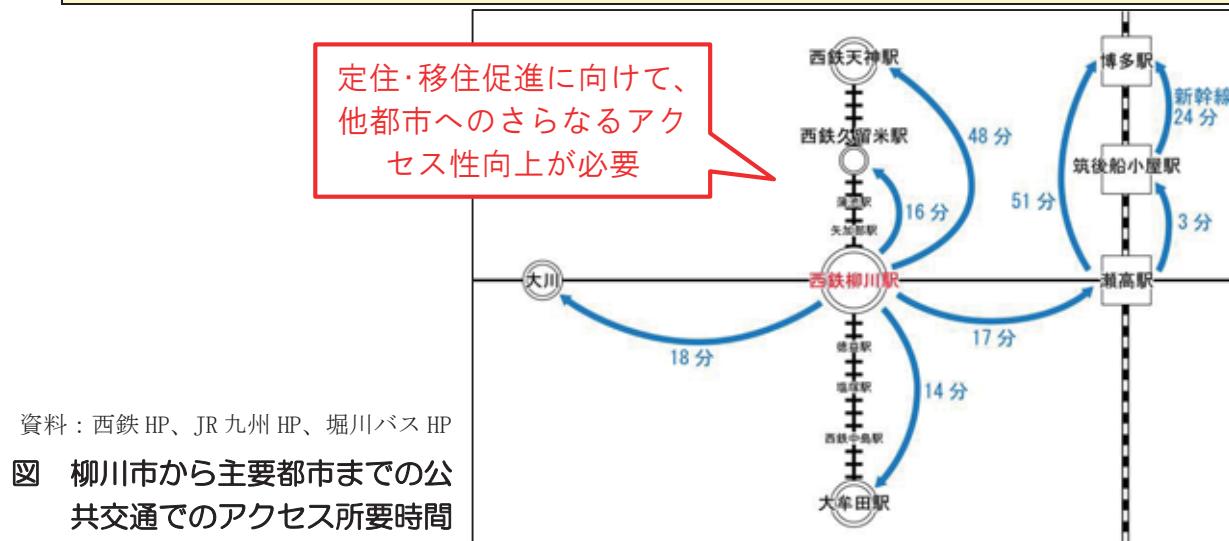


資料：柳川市資料

図 公的施設の位置図

### (3)定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保

- ・人口減少が進む本市においては、福岡市等他都市へのアクセス環境をPRし、定住・移住促進を図る必要があります。
- ・そのため、西鉄天神大牟田線のさらなる利便性向上や西鉄柳川駅までのアクセスの充実などが求められます。



### (4)観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成

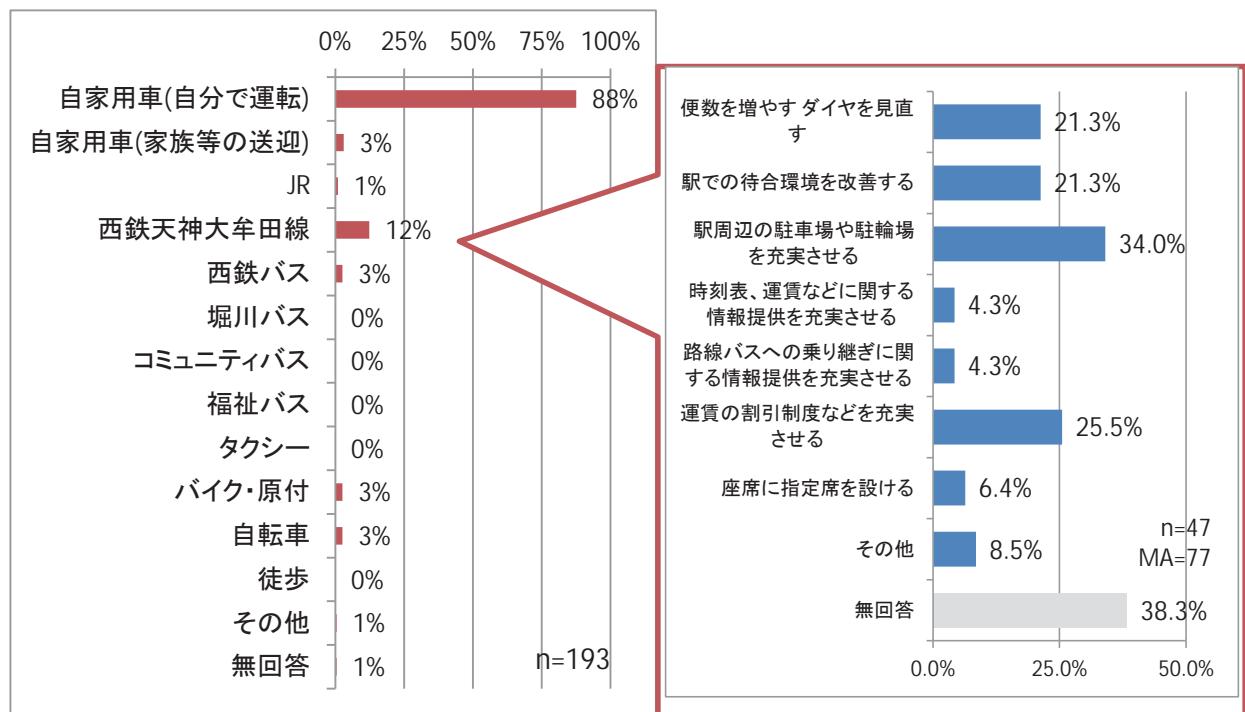
- ・本市は観光振興を地域づくりの核として推進しており、さらなる交流人口の拡大に向けて市の玄関口である西鉄柳川駅から観光拠点までの円滑なアクセスの確保や市内の観光地の周遊を促す環境整備が必要です。



## 5-3 市民等の移動ニーズへの対応の観点からみた課題

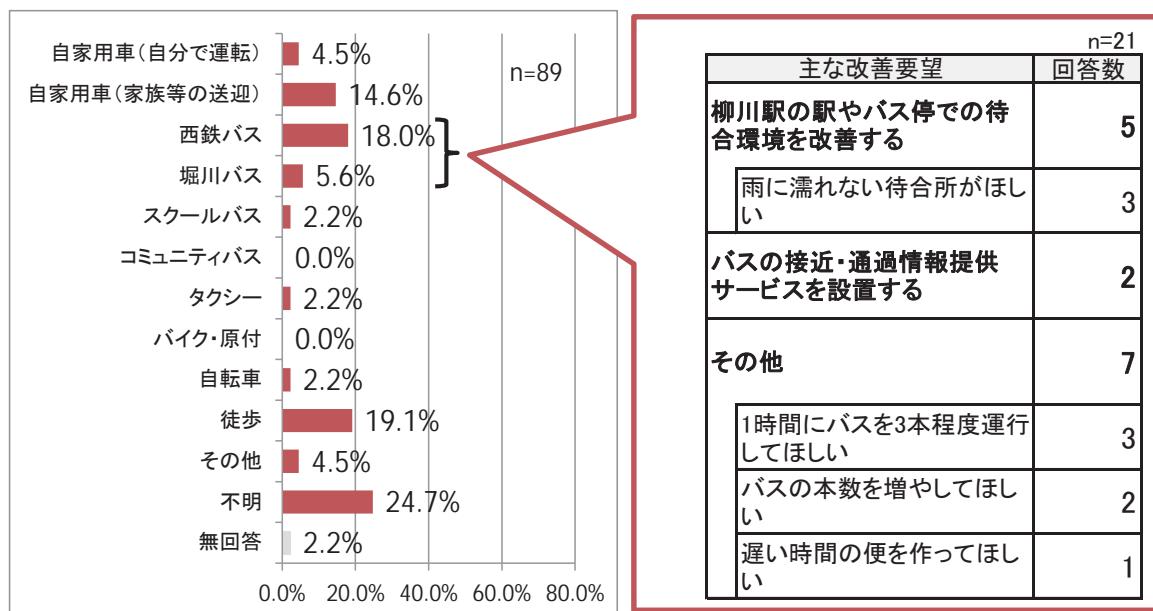
### (1)市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保

- 市外に通勤している市民の約1割が西鉄天神大牟田線を利用しており、「駅周辺の駐車場や駐輪場の充実」や「運賃の割引制度などの充実」などの改善要望を挙げています。
- また、西鉄柳川駅利用の通勤者の約2割が駅までのアクセス、あるいは駅からの移動に路線バスを利用しており、「駅の待合環境の改善」や「バスの運行本数の見直し」などを求めています。



資料：市民アンケート

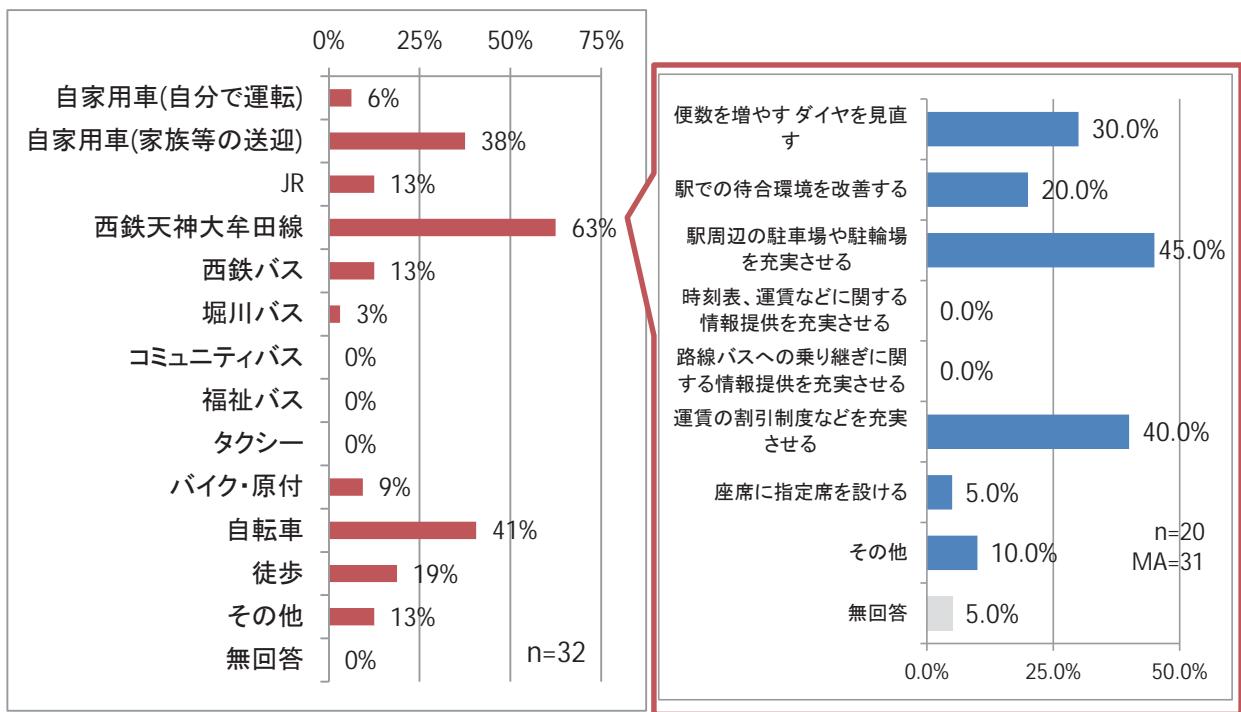
図 市外通勤者の通勤手段と西鉄天神大牟田線を利用する市外通勤者の鉄道に対する改善要望



資料：柳川駅利用者聞き取り調査

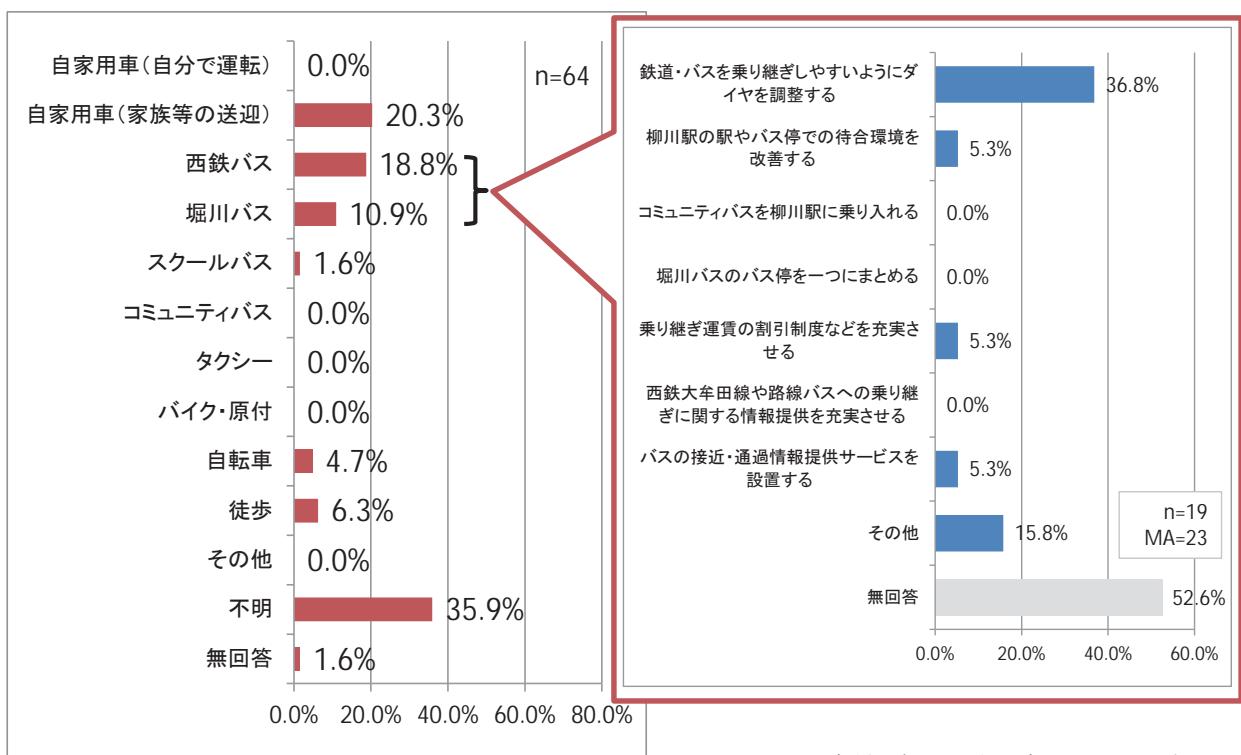
図 通勤者の駅までのアクセス手段と路線バスでアクセスする駅利用者の改善要望

- 市外に通学している市民の約6割が西鉄天神大牟田線を利用しておる、「駅周辺の駐車場や駐輪場の充実」や「運賃の割引制度などの充実」、「増便やダイヤの見直し」などの改善要望を挙げています。
- また、西鉄柳川駅利用の市外への（市外からの）通学者は、「西鉄天神大牟田線と路線バスのダイヤ調整」の要望も挙げています。



資料：市民アンケート

図 市外通学者の通学手段と西鉄天神大牟田線を利用する市外通学者の鉄道に対する改善要望

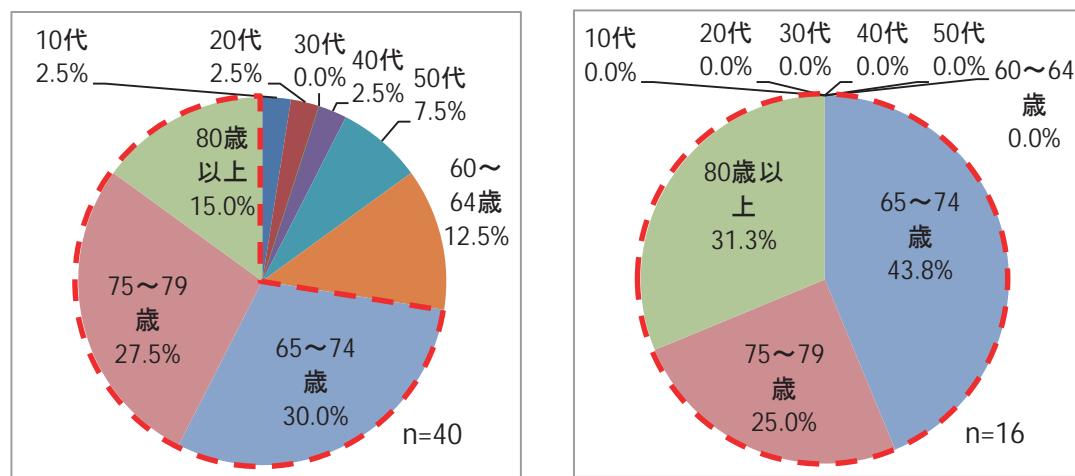


資料：柳川駅利用者聞き取り調査

図 通学者の駅までのアクセス手段と路線バスでアクセスする駅利用者の改善要望

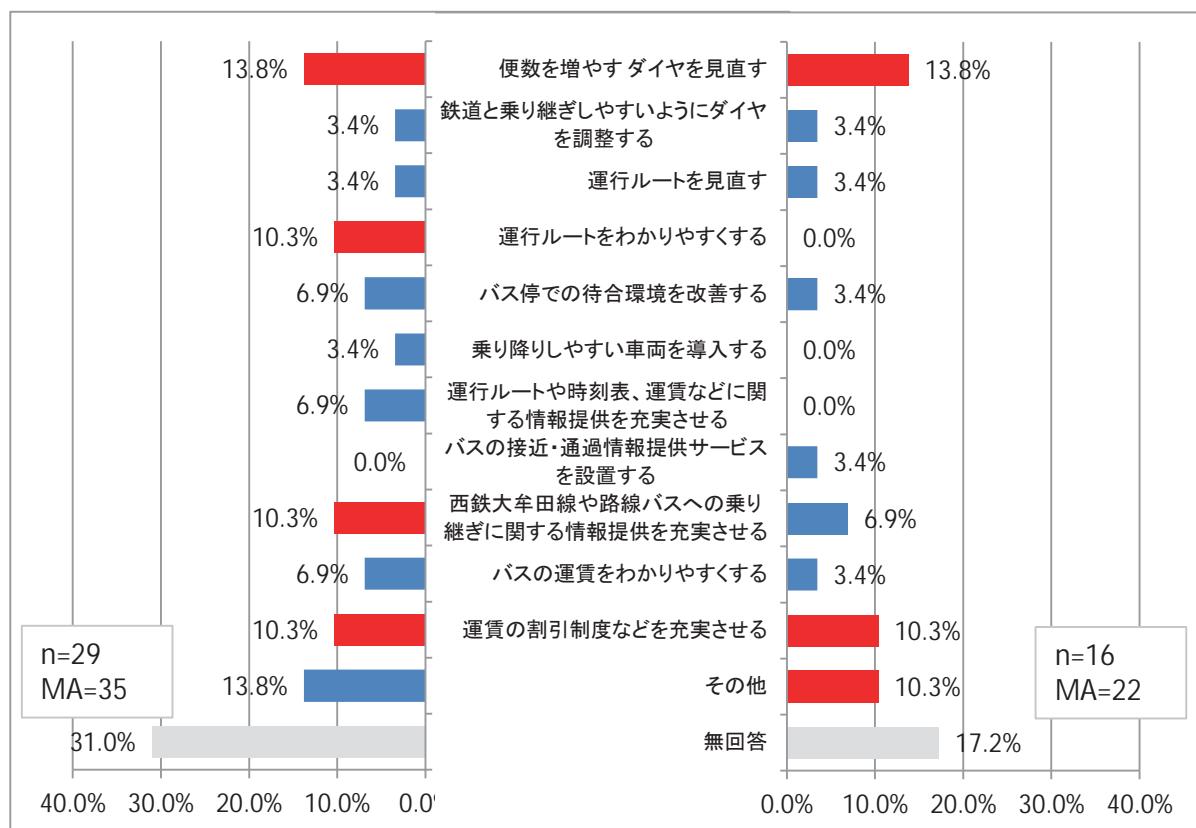
## (2)高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保

- 買い物や通院で公共交通を利用している人の多くは高齢者となっています（買い物：約7割、通院：全員）。今後想定される高齢社会の進行を考えると、高齢者の移動を支える公共交通の役割がますます高まっています。
- 公共交通を利用する高齢者からは路線バス・コミュニティバスに対して「便数を増やす ダイヤを見直す」や「運行ルートを見直す」などの改善要望が挙げられています。



資料：市民アンケート

図 公共交通を利用して市内に買物・通院する市民の年齢構成（左：買い物、右：通院）

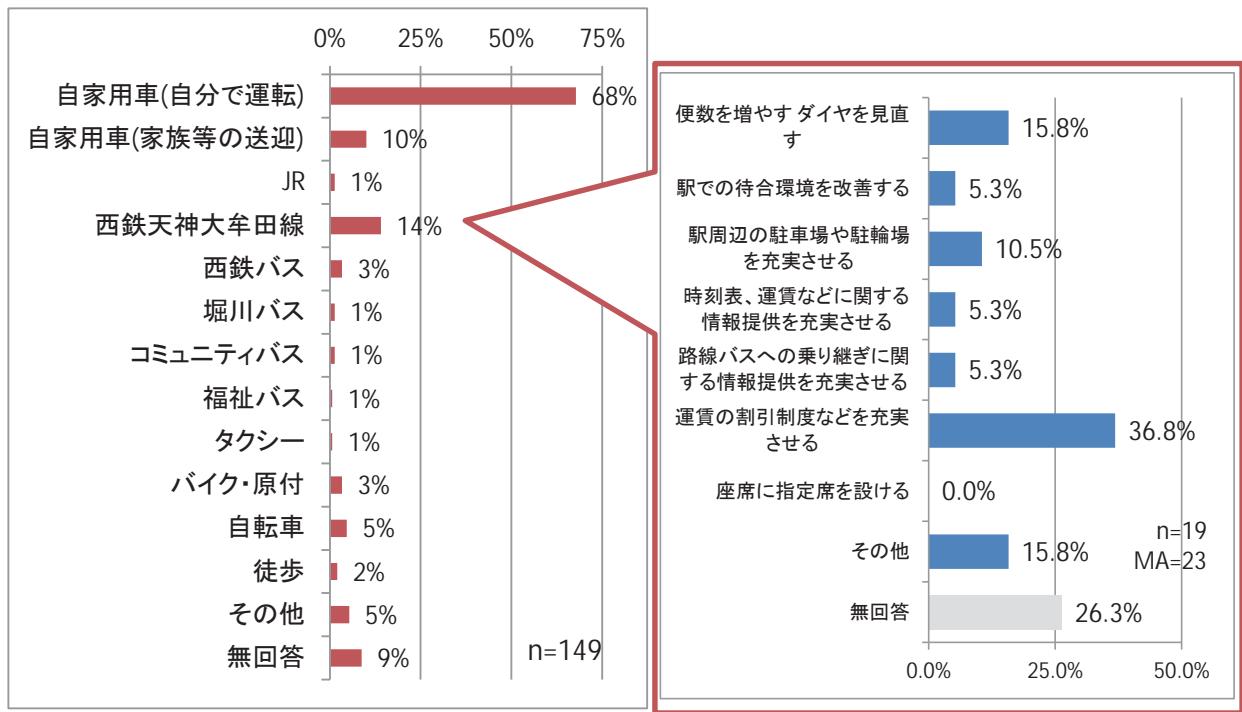


資料：市民アンケート

図 公共交通を利用して市内に買物・通院する高齢者の路線バス・コミバスに対する改善要望（左：買い物、右：通院）

### (3)鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保

- ・習い事や健康づくり、趣味、友人との会食などの外出（その他外出目的）では、市外に外出する約1割が西鉄天神大牟田線を利用しており、鉄道に対して「運賃の割引制度の充実」や「便数 ダイヤの見直し」などの改善要望を挙げています。



資料：市民アンケート

図 その他外出目的時の市民の移動手段と西鉄天神大牟田線利用者の鉄道に対する改善要望

### (4)柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保

- ・観光客の主な目的は「川下り」や「食事」など主に沖端地区周辺の観光資源にあり、市の玄関口である西鉄柳川駅からのアクセスを確保していくことが必要です。
- ・また、九州外などの遠方からの来訪も多いことから、土地勘のない観光客にもわかりやすい情報提供や誘導サインなどの案内を充実させていく必要があります。

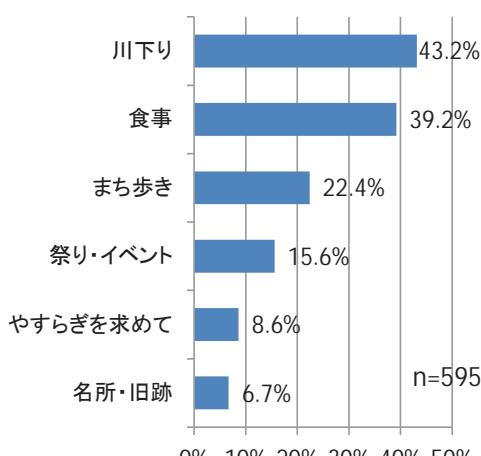


図 観光目的(上位6位まで)

表 観光客の改善要望 (抜粋)

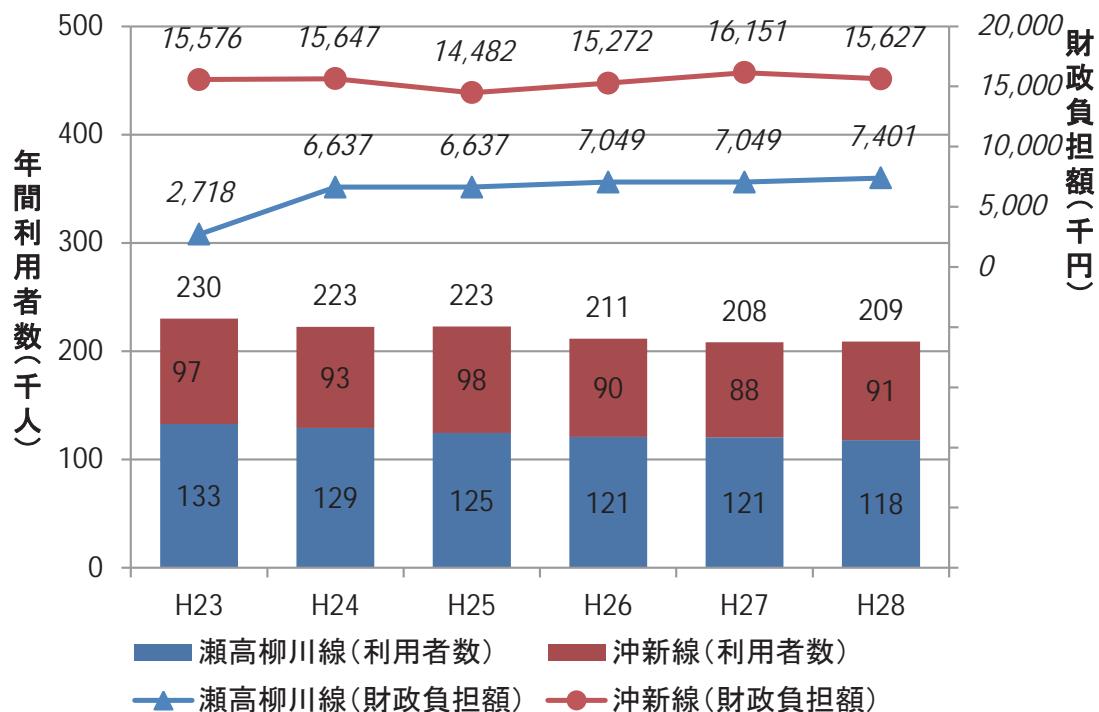
項目	内容
観光周遊に関する情報について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見て歩きやすいパンフレット・散策マップの充実</li> <li>・駅でもう少し観光地をアピールしてほしい</li> </ul>
交通に関する情報について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内板(看板)が分かりにくい</li> <li>・標識がわかりにくい(案内標識が不十分)</li> </ul>
外国人観光客に対しての情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向けのサービスが不足</li> <li>・韓国語の表示・言語</li> </ul>

資料：観光客動態調査

## 5-3 持続可能性の確保の観点からみた課題

### (1)路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上

- 利用が減少傾向にある瀬高柳川線と沖新線に対する市の財政負担額は増加傾向にあります。
- 沖新線のバス停別の利用状況をみると、水天宮～早津江区间の利用は僅かとなっています。その一方で、沿線には市外から西鉄天神大牟田線で通学している学生が多数在籍する国際医療福祉大学が立地しています。
- 増加する財政負担の抑制に向けて、新規需要を獲得するために運行ルートの見直しなどを検討し、沖新線の持続可能性を高めていく必要があります。



※瀬高柳川線：利用者数は堀川バスからの補助事業実績報告書添付資料による（各年度10月～9月）

※沖新線：利用者数は西鉄バス久留米からの月例報告による。（各年度10月～9月）

※瀬高柳川線に対する財政負担額：平成23年度は当該年10月～翌年3月まで計上。その他の年度は当該年10月から翌年9月まで計上。

資料：柳川市資料

図 瀬高柳川線と沖新線の利用状況と財政負担額の推移



※平成 28 年 5 月調査結果：平日 1 日

資料：西鉄バス久留米提供資料

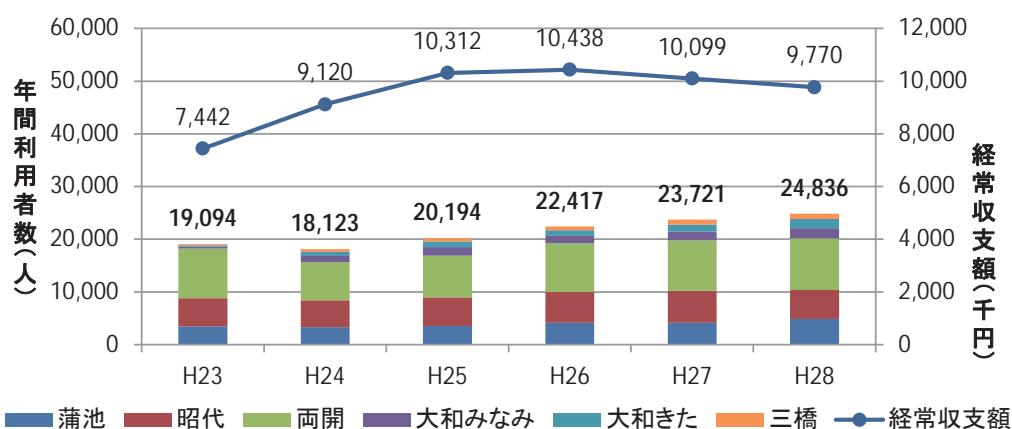
図 バス停別一便あたり乗降者数：沖新線



図 沖新線・市内循環線路線図

## (2)コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化

- ・コミュニティバスの利用者数は年々増加しており、経常収支は近年減少傾向にあります。平成28年度においても約980万円の赤字が生じています。
- ・バス停別の利用状況をみると、1日当たり0.5人未満となるバス停が見られます。赤字額の軽減に向けては、こうした稀にしか利用されていないバス停への経由を見直すなど運行経費の抑制を検討していく必要があります。
- ・また、財政面の強化に向けて運賃の値上げを検討していく必要があります。運賃の許容額について約5割のコミュニティバス利用者が現行よりも高い額を回答しています。



※大和・三橋は平成23年11月から運行開始

資料：柳川市資料

※集計期間：各年4月1日～翌年3月31日

図 コミュニティバスの利用者数と経常収支額の推移

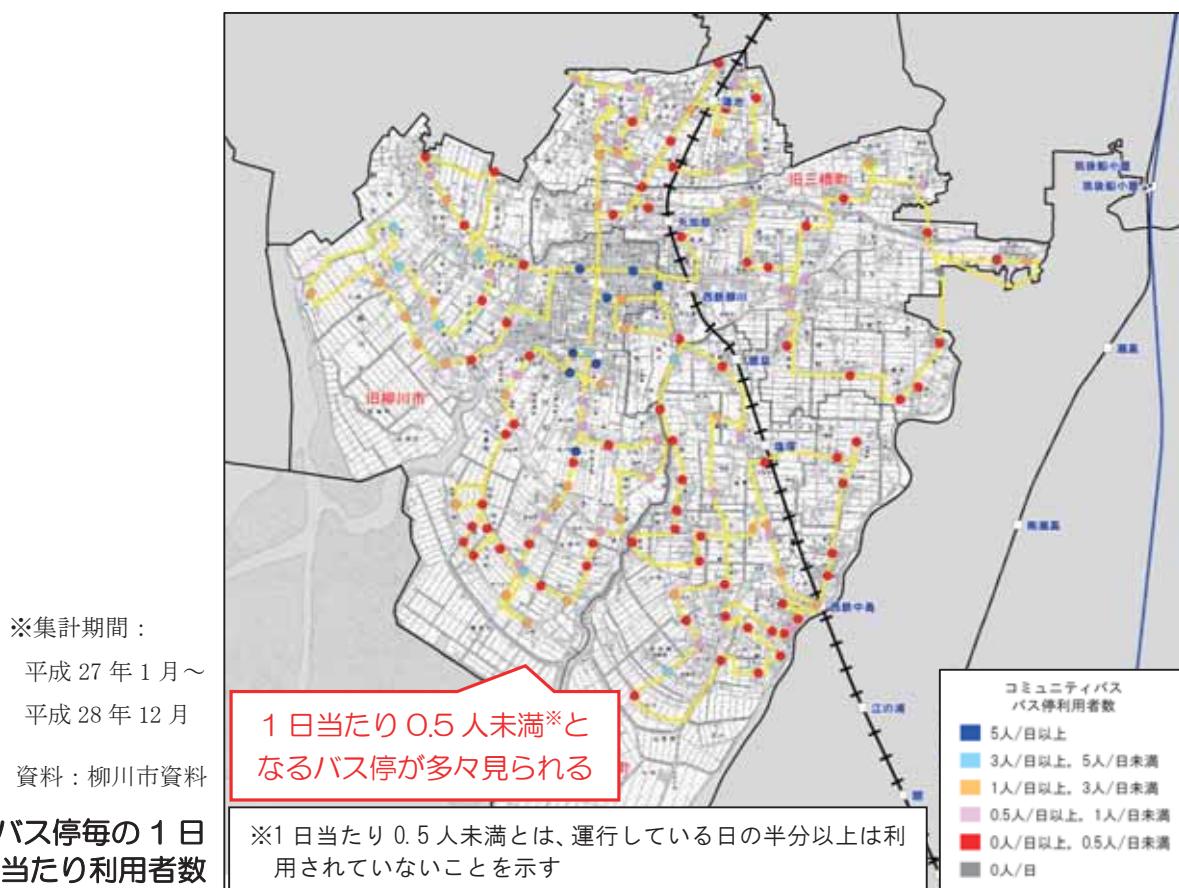


図 バス停毎の1日当たり利用者数

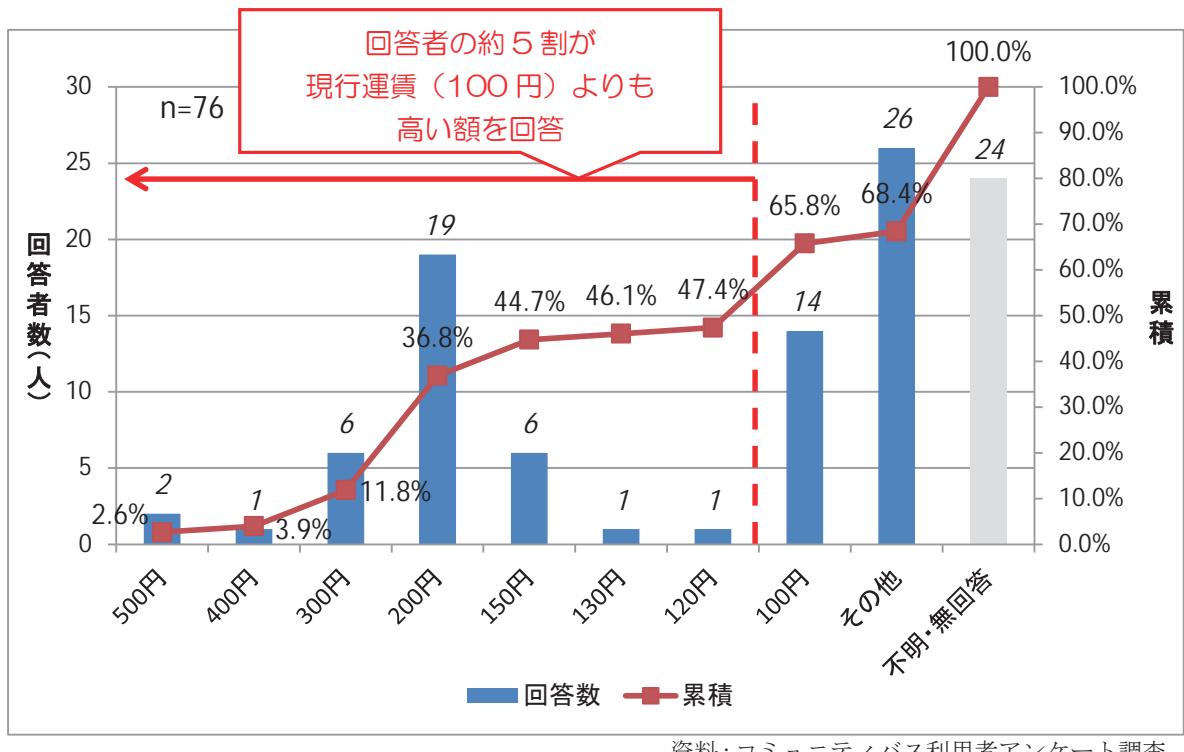
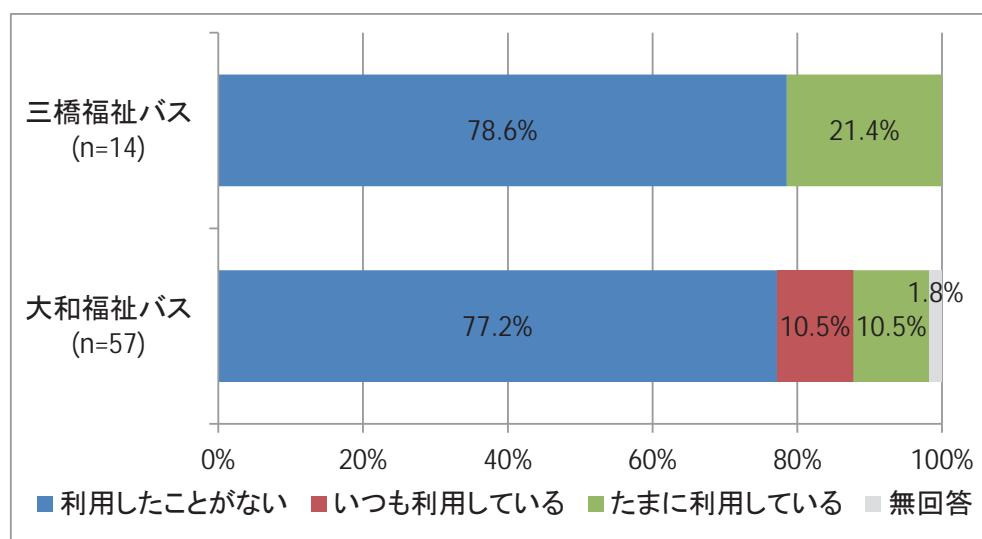


図 コミュニティバスに対する支払可能額

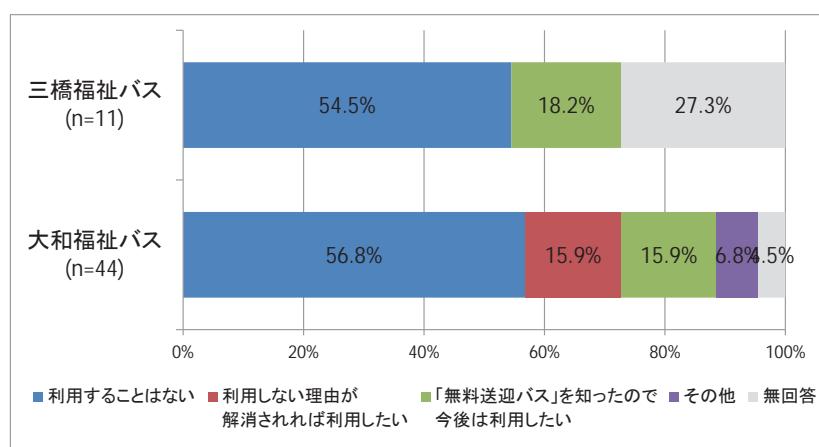
### (3)利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し

- ・保健福祉センター利用者の約8割が「福祉バスを利用したことがない」と回答しています。
- ・さらに、今後の利用意向についても、5割以上が「今後も利用することはない」と回答しており、ニーズは低くなっています。
- ・運行ルートがコミュニティバスとほぼ重複していることから、コミュニティバスと統合するなど運行効率化に向けた検討が必要です。



資料：保健福祉センター利用者アンケート調査

図 福祉バスの利用状況

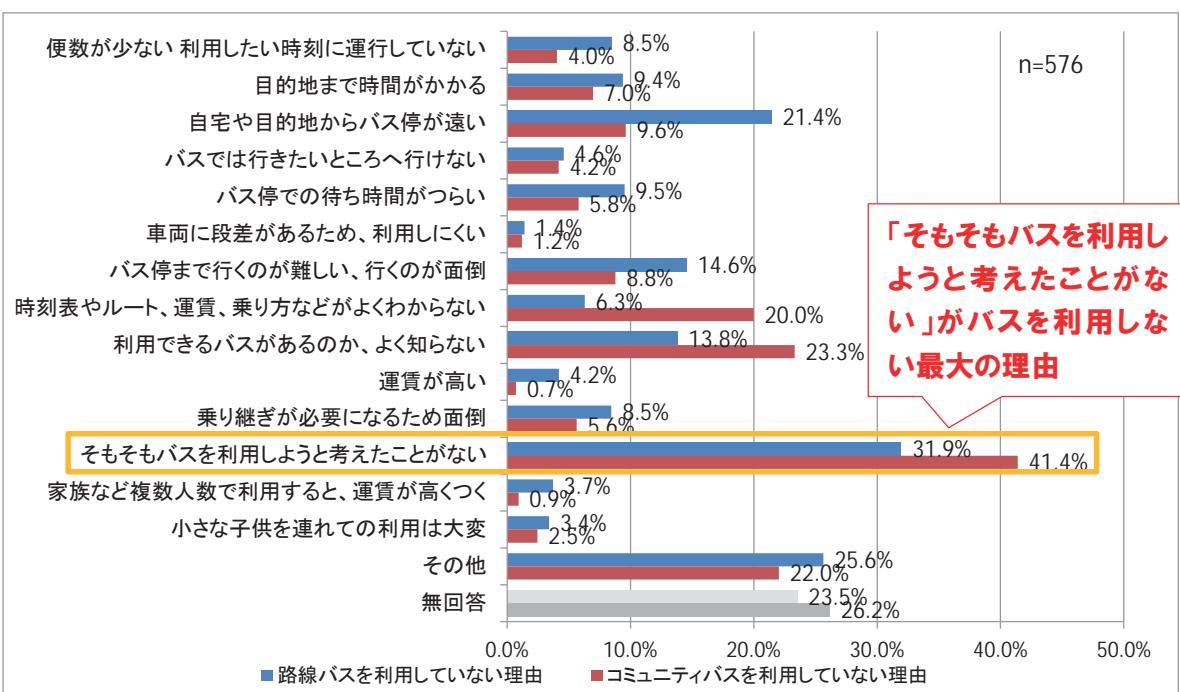
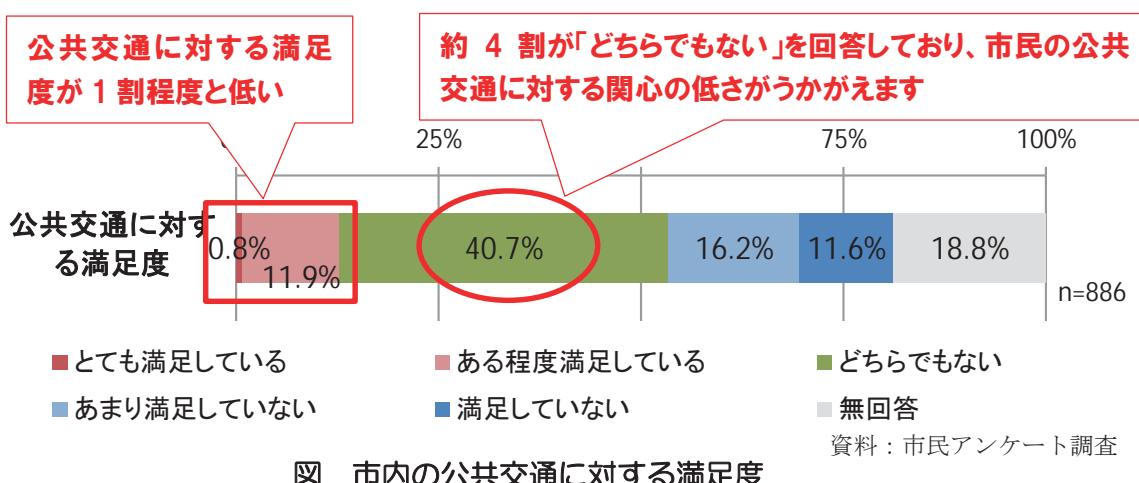


資料：保健福祉センター利用者アンケート調査

図 福祉バスの今後の利用意向

## (4)市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進

- 公共交通に対する満足度は1割程度と低水準となっています。
- また、約4割が「どちらでもない」を回答しており、公共交通のことを知らない、あるいは関心がないために評価できないといった状況がうかがえます。
- さらに、普段公共交通を利用しない市民の3~4割が路線バスやコミュニティバスを利用しない理由について「そもそもバスを利用しようと考えたことがない」を回答しているなどバスが移動手段の選択肢として認知されていない状況もうかがえます。
- 今後も持続的に公共交通を運行していくためには、サービスを提供する行政や交通事業者の努力のみならず利用者である市民の関心を高めていくことが必要です。
- そのために、市民への情報提供の強化や利用の呼び掛けなどの利用促進に取り組んでいくことが必要です。



## 5-4 柳川市における地域公共交通の問題点・課題の整理

前項までに整理してきた本市における公共交通の問題点・課題を以下に示します。

### まちづくりの観点からの課題

コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保

生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保

定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保

観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成

### 市民等のニーズからの課題

市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保

高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保

鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保

柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保

### 持続可能性の確保の観点からの問題点・課題

路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上

コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化

利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し

市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進

## 6. 公共交通のあり方( 目指す将来像 )と基本方針

## 6-1 柳川市における公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針

### (1)柳川市における公共交通のあり方(目指す将来像)

第2次柳川市総合計画や関連する各種計画で示されている柳川市が目指す将来像の実現に向けた本市における公共交通のあり方(目指す将来像)を以下のとおり定めます。

#### 【柳川市が目指す将来像】

##### 「水と人とまちが輝く 柳川」

第2次柳川市総合計画(基本構想)案では、将来像として「水と人とまちが輝く 柳川」を掲げ、以下の4つのまちの姿を示しています。

- 柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり
- 若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じる ひとづくり
- 水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり
- 柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

また、各分野の計画では次のような将来像が掲げられています。

- 「水と人とまちが美しい 水郷柳川」・・・「住みたい住み続けたい環境」、「豊かな自然と食」、「みんなが誇れる美しい景観」、「人と人のつながり」があるまち  
都市構造～コンパクトな都市づくりへの展開～(都市計画)
- 誰もが住み慣れた地域で安心して心ゆたかに暮らすことができるまち(地域福祉)
- 観光客との交流を深めるにぎわいと活力のあるまち(観光振興)



#### 【公共交通のあり方(目指す将来像)】

##### 安全・安心で心豊かな暮らしと個性を活かした交流を支える公共交通

柳川市が目指す将来像の実現に向けて、「暮らし」と「交流」を支える次のような役割を発揮できるよう、持続可能で使いやすい公共交通を実現します。

- 誰もが愛着を持って安全に安心して心ゆたかに暮らすことができるよう生活移動の利便性を確保し、**住みたい住み続けたい都市を目指した定住環境の向上**を図る
  - 通勤・通学やその他の活動のための福岡市・久留米市・大牟田市など市域外への広域移動を支える
  - 日常生活に不可欠な市域内移動を支える  
特に、自らの交通手段をもたない高齢者等の“交通弱者”的買い物、通院などの日常生活に不可欠な移動に加え、健康づくり、文化活動など多様な外出を支える
- 公共交通(鉄道)で本市を訪れる来訪者の利便性を高めるとともに、観光の面的広がりを実現し、**観光交流の拡大**を図る
  - 西鉄柳川駅から観光拠点・観光スポットへの公共交通でのアクセスの向上

## (2)公共交通の基本方針

柳川市における地域公共交通の目指す将来像の実現に向けた基本方針を以下のとおり定めます。

また、公共交通の財源や車両・人材などの資源をより効果的に活用するために、重点ターゲットを明確にして、地域公共交通の取り組みを進めていきます。

### 本市における地域公共交通のあり方(目指す将来像)

#### 安全・安心で心豊かな暮らしと 個性を活かした交流を支える公共交通

#### 公共交通の問題点・課題

##### まちづくりとの整合の観点からの課題

- ・コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保
- ・生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保
- ・定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保
- ・観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成

##### 市民等の移動ニーズへの対応の観点からの課題

- ・市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保
- ・高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保
- ・鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保
- ・柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保

##### 持続可能性の確保の観点からの課題

- ・路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上
- ・コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化
- ・利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し
- ・市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進

#### 基本方針Ⅰ：鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

- 通勤や通学、買い物等日常生活における市民の市外への移動や、市外からの通勤・通学に対応する、西鉄天神大牟田線を軸とした公共交通ネットワークを構築します。

#### 基本方針Ⅱ：買物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

- 主に高齢者の買い物や通院、健康づくり、文化活動等日常生活における移動を支える使いやすい公共交通ネットワークを構築します。

#### 基本方針Ⅲ：観光客の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

- タクシーや川下り送迎バスなどの民間サービスを含めた形で観光客の移動を確保するものとし、情報提供や案内誘導サインなどソフト面から円滑な移動を支えます。

#### 基本方針Ⅳ：持続可能な公共交通

- 行政や交通事業者だけではなく、市民や地域等も含めて、地域全体で連携・協働しながら、地域の将来像実現に必要不可欠な社会基盤（インフラ）である公共交通の持続可能性を向上させます。

## 重点ターゲット

柳川市民および柳川市への来訪者（観光客、通勤・通学者など）を対象とし、特に「公共交通を必要とする人」として、以下のとおり重点ターゲットを設定します。

- ①高齢者：運転免許を持っていない、あるいは自家用車を持っていない高齢者などで、自力（付添による利用を含む）で公共交通を利用できる人（介助等が必要な人は福祉部局の施策で対応する）
- ②学生
- ③運転免許も自家用車も持っているが、実態的に自家用車での移動が難しい人（久留米市、大牟田市、福岡市への通勤者、来訪する観光客など）

## （3）公共交通ネットワークの将来イメージ

### ①基本方針Ⅰのイメージ

#### 【通勤・通学ネットワークの基本方針】

- 市外へ通勤・通学する市民の移動や市外から通勤・通学してくる来訪者の移動に対して、西鉄天神大牟田線により、福岡・天神や久留米市、大牟田市などの鉄道沿線地域とのスムーズな公共交通サービスを確保
- 市外への通勤・通学者の柳川駅へのアクセスや市外からの通勤・通学者の柳川駅から大川市やみやま市などの他都市へのアクセスを路線バスにより確保
- 西鉄天神大牟田線と路線バスの交通結節点である柳川駅を市内の最重要交通拠点と位置づけ、西鉄電車と路線バスの円滑な乗り継ぎを確保

#### 【公共交通機関・路線の位置づけ】

位置づけ		交通機関	対象路線	交通結節点
広域交通	天神や久留米市、大牟田市等との南北方向の交通を担う	鉄道	西鉄天神大牟田線	柳川駅
	大川市やみやま市等との東西方向の交通を担う	路線バス	佐賀柳川線 沖新線 瀬高柳川線	
域内交通	市内各地から柳川駅へのアクセスを担う	路線バス	佐賀柳川線 沖新線 市内循環線 瀬高柳川線	柳川駅
	路線バスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー	—	

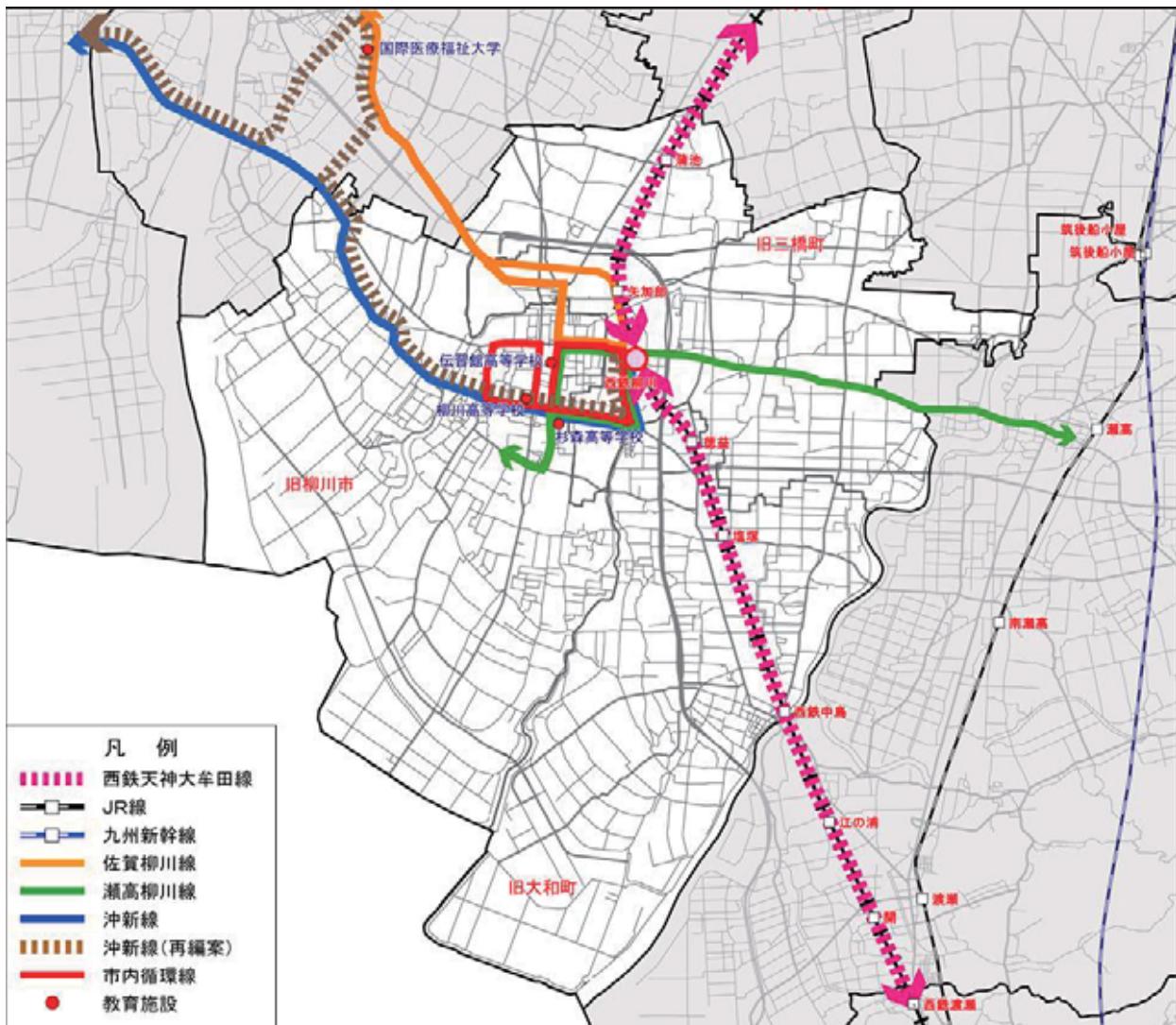


図 通勤・通学ネットワークイメージ

## ②基本方針Ⅱのイメージ

### 【買物・通院・その他外出目的ネットワークの基本方針】

- 各地域のコミュニティバスは、地域内の各集落と市中心部等に立地する主な外出先である商業施設や病院を結び、主に高齢者の日常的な外出を支える。
- 無料福祉循環バスとの統合により、より利便性の高いネットワークを形成する。
- 利用されていないバス停の見直しにより効率的なネットワークを形成する。

### 【公共交通機関・路線の位置づけ】

位置づけ		交通機関
域内交通	各地域において集落から主な外出先までの移動を担う	コミュニティバス
	コミュニティバスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー

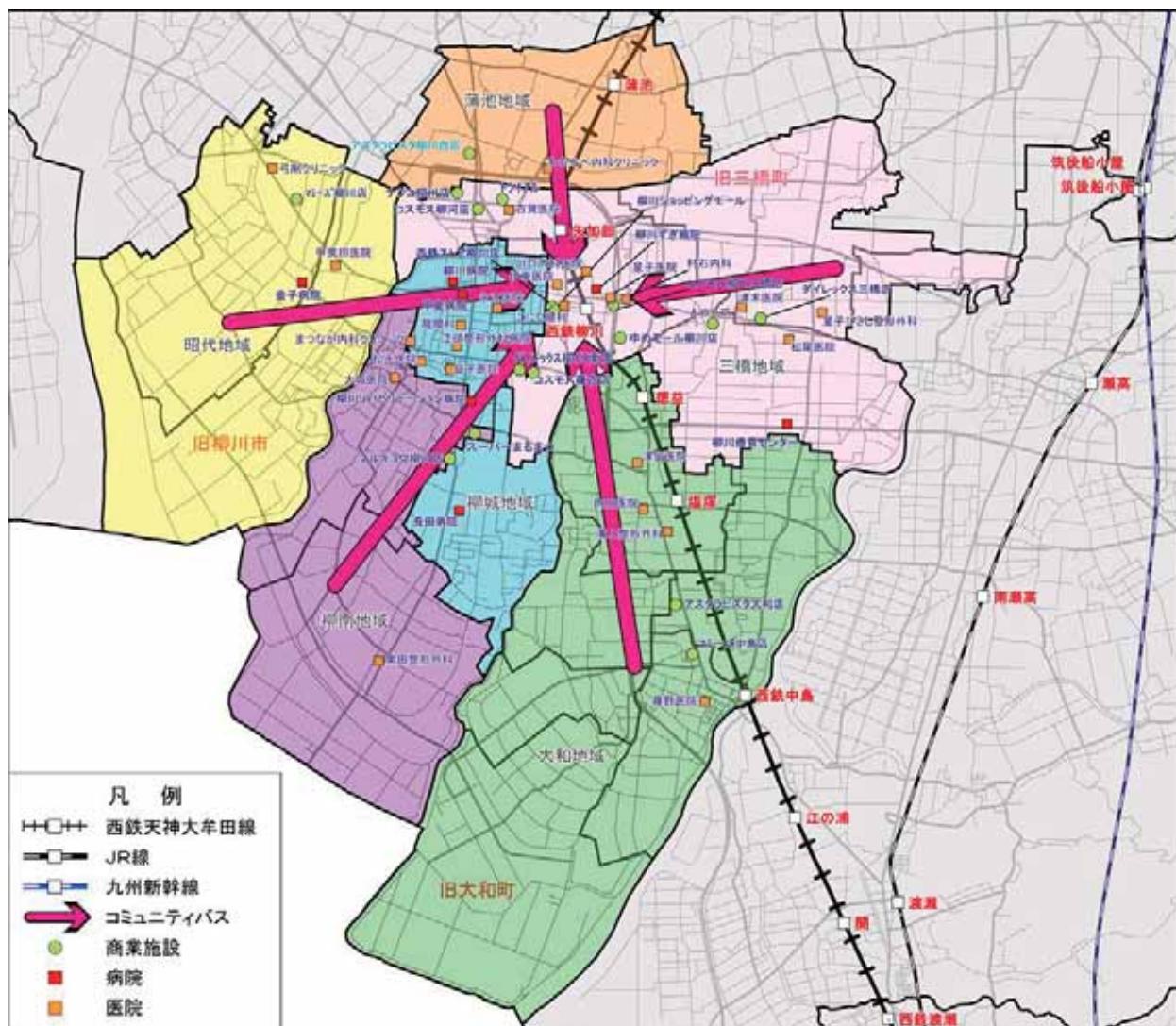


図 買物・通院・その他外出目的ネットワーク

### ③基本方針Ⅲのイメージ

#### 【観光ネットワークの基本方針】

- 福岡市など市外の鉄道沿線地域からの観光客に対して、西鉄天神大牟田線により、利便性の高い公共交通サービスを確保
- 路線バス、タクシーなどにより、柳川駅と観光地（沖端地区）との移動や沖端地区内での周遊を確保
- 季節行事やイベントなどのニーズに柔軟に応じる臨時の観光交通サービスを確保
- 西鉄天神大牟田線と路線バス、タクシーなどの交通結節点である柳川駅を市内の最重要交通拠点と位置づけ、西鉄電車と路線バス、タクシーの円滑な乗り継ぎを確保
- 駅やバス停、観光地等での公共交通に関する情報提供機能を強化

#### 【公共交通機関・路線の位置づけ】

位置づけ		交通機関	対象路線	交通結節点
広域交通	天神等との南北方向の交通を担う	鉄道	西鉄天神大牟田線	柳川駅
域内交通	柳川駅と観光地との移動や観光地内での周遊を担う	路線バス	沖新線 市内循環線	
	路線バスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー	—	
	季節行事やイベントなどの一時的に高まるニーズに対応する	観光交通	—	

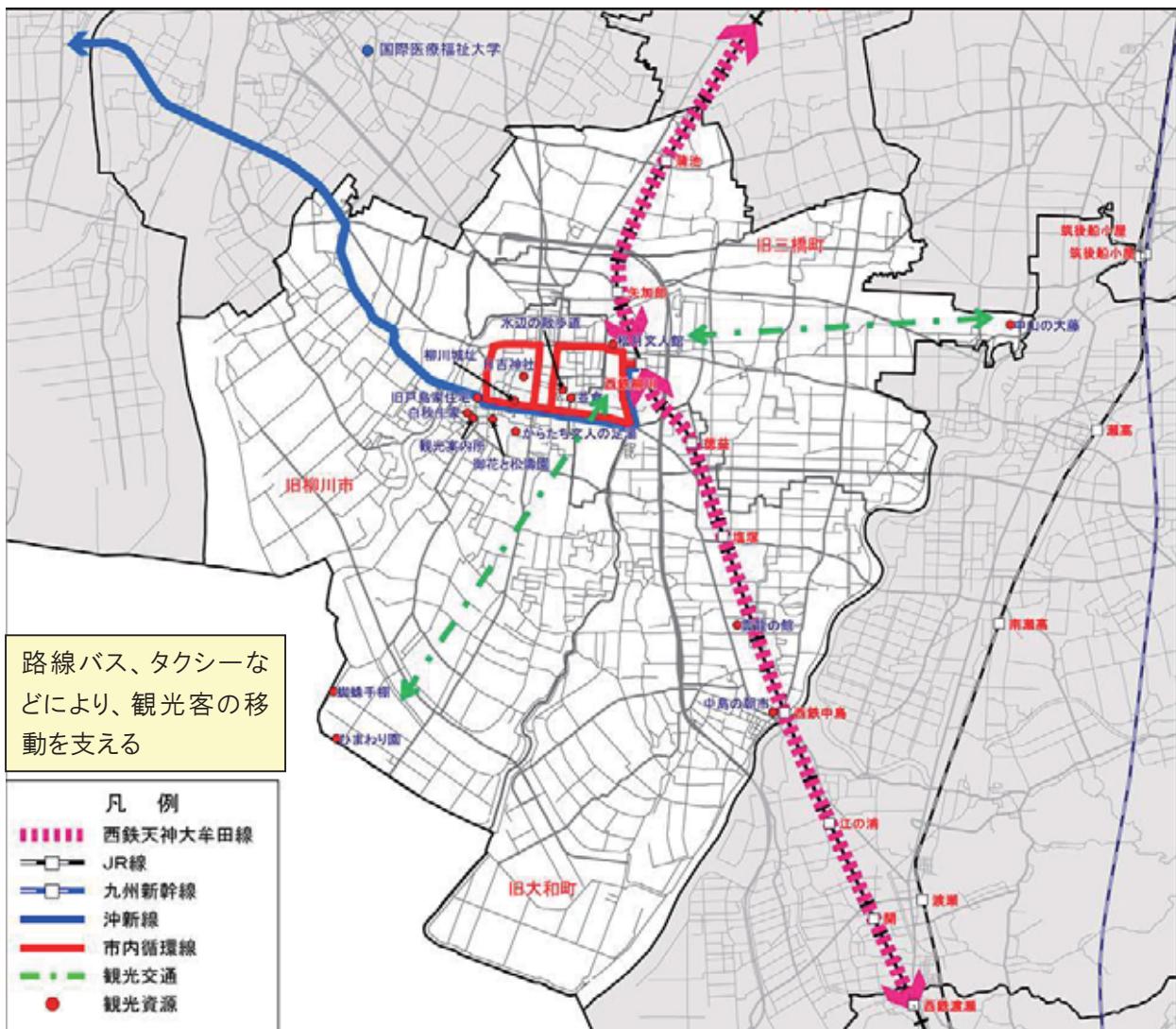


図 観光ネットワークイメージ

## 6-3 計画の目標及び数値指標

これまでに示した地域公共交通の問題点・課題、地域公共交通のあり方（目指す将来像）と基本方針、公共交通ネットワークの将来イメージなどを踏まえて、柳川市地域公共交通網形成計画の目標及び目標の達成状況を評価する数値指標を以下のように設定します。

### I. 鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

#### 目標1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

数値指標①：西鉄天神大牟田線の1日平均利用者数

数値指標②：路線バスの年間利用者数

### II. 買い物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

#### 目標2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

数値指標：コミュニティバスの年間利用者数

#### 目標3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

数値指標①：高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価

数値指標②：高齢者で週1日以上外出している人の割合

数値指標③：コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数

### III. 観光客の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

#### 目標4. 観光を支える公共交通の確保・充実

数値指標：西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合

### IV. 持続可能な公共交通

#### 目標5. 公共交通の持続可能性の確保

数値指標①：財政負担を行っている路線バスの年間利用者数

数値指標②：コミュニティバスの年間利用者数

#### 目標6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

数値指標①：市内の公共交通に対する市民の満足度

数値指標②：調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合

数値指標③：「乗り方教室」に参加した小学生数

## I. 鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

### 目標 1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能強化や西鉄柳川駅で鉄道と結節し一体となって機能する路線バスの維持・確保等を通じて、公共交通での市内外の移動の利便性の向上を図ります。

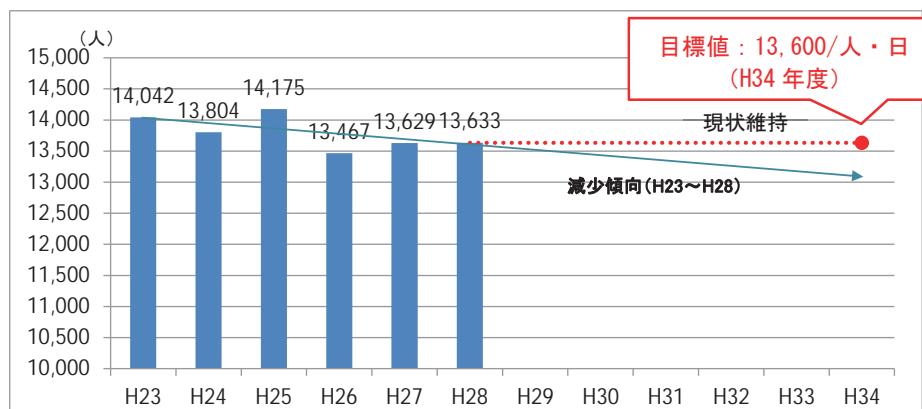
◆目標 1 の達成状況を測る指標①として、市内外の移動を中心となって担う西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数を設定します。

平成 23 年以降、増減はあるものの減少傾向にあることから、目標値は、公共交通に関する情報提供や利用促進、鉄道と路線バスの円滑な乗り継ぎの確保及び観光利用の拡大等の取り組みにより、減少傾向に歯止めをかけることを目指し、現状維持として設定します。

#### 数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値（H34 年度）
西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数※	人/日	13,633 (平成 28 年度)	13,600

※西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数は、市内 6 駅の 1 日平均利用者数の合計としています。



▲西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数の目標値設定根拠

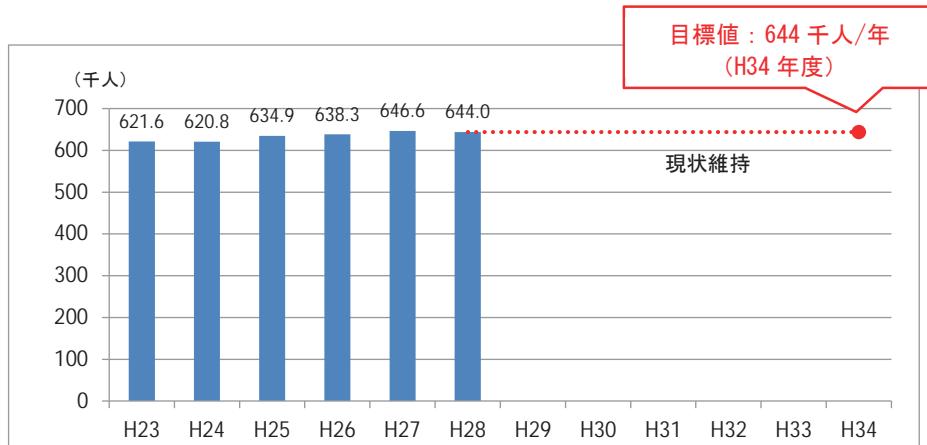
◆目標 1 の達成状況を測る指標②として、鉄道との組み合わせ、あるいは地域間幹線バスとして市内外の移動を担う路線バスの年間利用者数を設定します。

目標値は、情報提供等による利用促進や観光利用の拡大等の取り組みにより、今後人口減少が見込まれる中で現状を維持することを目指して設定します。

#### 数値指標 ②

数値指標	単位	現況値	目標値（H34 年度）
路線バスの年間利用者数※	千人/年	644.0 (平成 28 年度)	644.0

※路線バスの佐賀柳川線、瀬高柳川線及び沖新線・市内循環線の利用者数の合計としています。



▲路線バスの年間利用者数の目標値設定根拠

## II. 買物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

### 目標2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

コミュニティバスのネットワークの再編等により、高齢者等の日常生活の移動ニーズに対応した利用しやすい公共交通サービスの実現を図ります。

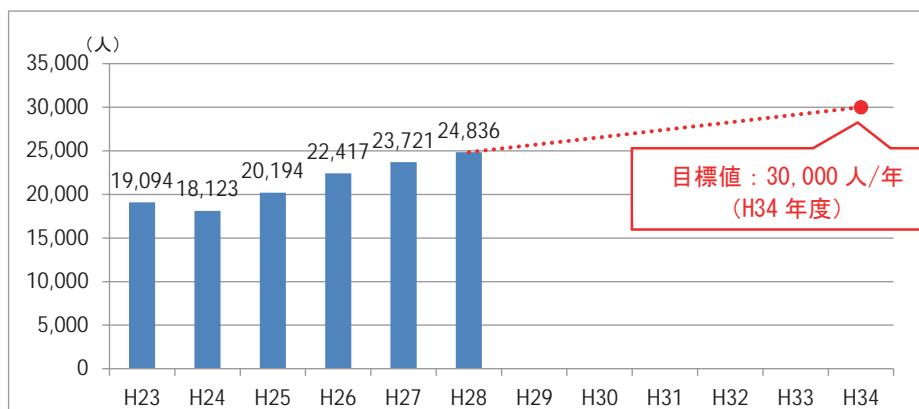
◆目標2の達成状況を測る指標として、高齢者等の日常生活の移動手段を中心的に担うコミュニティバスの年間利用者数を設定します。

コミュニティバスの利用者数は増加傾向にありますが、増加率は減少してきています。目標値はコミュニティバスの再編による利便性の向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、増加率は減少するものの今後とも増加傾向を維持することを目指して設定します。

数値指標			
数値指標	単位	現況値	目標値（H34年度）
コミュニティバスの年間利用者数※	人/年	26,222 (平成28年度)	30,000

※平成30年度以降、コミュニティバスと無料福祉循環バスとは統合する計画であるため、目標値は無料福祉循環バスとの統合後の利用者数としています。

※増加率減少の傾向を踏まえ、平成34年度までの年平均増加率を3.0%と見込み目標値を設定しています。



注) 平成23~28年度はコミュニティバスの利用者数。

▲コミュニティバスの年間利用者数の目標値設定根拠

### 目標3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

バスを待つ負担感や不便感の軽減や高齢者が利用しやすいバス車両の導入を図るとともに、公共交通での外出の運賃負担の軽減を図ることを通じて、高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備を図ります。

また、高齢者等の外出は心身の健康維持・増進などの効果があります。そのため、高齢者等の利用頻度の高い施設である水の郷への公共交通でのアクセスの強化を図ります

◆目標3の達成状況を測る指標①として、高齢者の日常生活における移動手段の確保についての市民の評価を設定します。

目標値は、コミュニティバスの再編による利便性の向上のほか高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備等の取り組みを進めることにより、高齢者の日常生活における移動手段は確保されていると評価する人の割合を高めることを目指して設定します。

数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34年度)
高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価※	%	12.0 (平成28年度)	17.0

※市民アンケート調査において、「高齢者の日常生活における移動手段」について、「確保されている」と「ある程度確保されている」と評価した人の割合の合計です。

高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価	
確保されていると思う	1.5%
ある程度確保されたと思う	10.5%
よくわからない	53.5%
まだ確保されていない部分があると思う	21.4%
無回答	13.1%

N=886

「よくわからない」の回答者のうち1割を「確保されている」又は「ある程度確保されている」に転換

▲高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価の目標値設定根拠

◆目標3の達成状況を測る指標②として、高齢者で週1日以上外出している人の割合を設定します。高齢者の外出は心身の健康維持・増進などの効果があり、高齢者等が利用しやすい公共交通を確保することにより、外出が促進されると考えられます。

目標値は、高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備等の取り組みを進めることにより、高齢者で少なくとも週に1日以上外出する人の割合を現状より高めることを目指して設定します。

数値指標 ②

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34年度)
高齢者で週1日以上外出している人の割合※	%	83.5 (平成28年度)	85.9

※市民アンケート調査において、65歳以上の高齢者のうち、最も頻度の高い外出目的である買い物での外出を週1日以上している人の割合です。

65歳以上の買い物外出者の外出頻度	
ほぼ毎日（週5日以上）	18.3%
週3～4日	32.6%
週1～2日	32.6%
月に数日	12.0%
その他	1.2%
無回答	3.2%

N=290

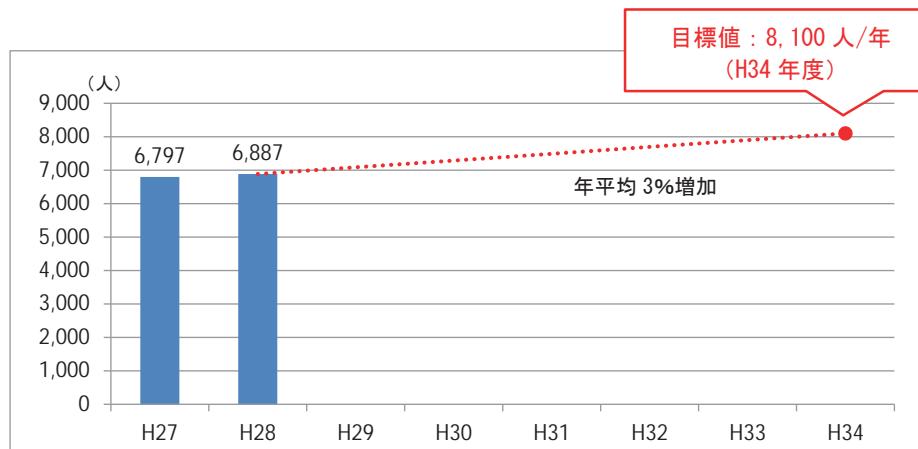
▲高齢者で週1日以上外出している人の割合の目標値設定根拠

◆目標3の達成状況を測る指標③として、コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数を設定します。柳川総合保健福祉センター水の郷には柳川温泉「南風」があり、高齢者等の健康づくりと憩いの場となっています。

水の郷は高齢者等の利用頻度の高い施設で、コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数は買い物や通院以外でのコミュニティバスの利用状況を表すものと考えられます。

目標値は、コミュニティバスでの行きやすさの向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、コミュニティバス全体と同じ増加傾向を維持することを目指して設定します。

数値指標 ③		単位	現況値	目標値（H34年度）
数値指標				
コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数		人/年	6,887 (平成28年度)	8,100



▲コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数の目標値設定根拠

### III. 観光客の円滑な移動を確保

#### 目標4. 観光を支える公共交通の確保・充実

公共交通と観光の一体的情報提供、観光に対応した路線バスの充実等により、観光を支える公共交通の確保・充実を図ります。

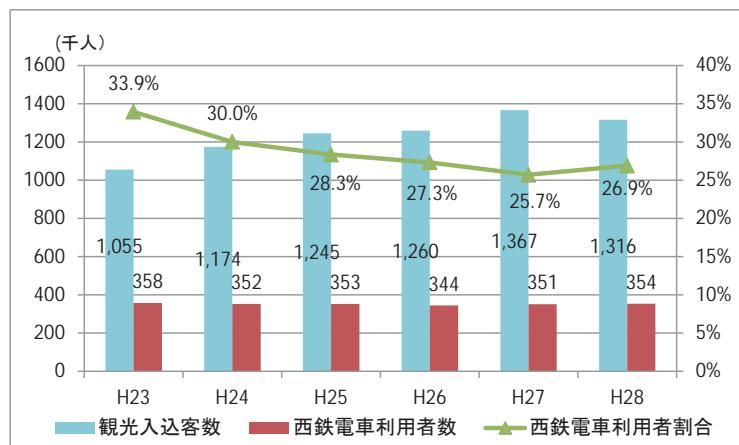
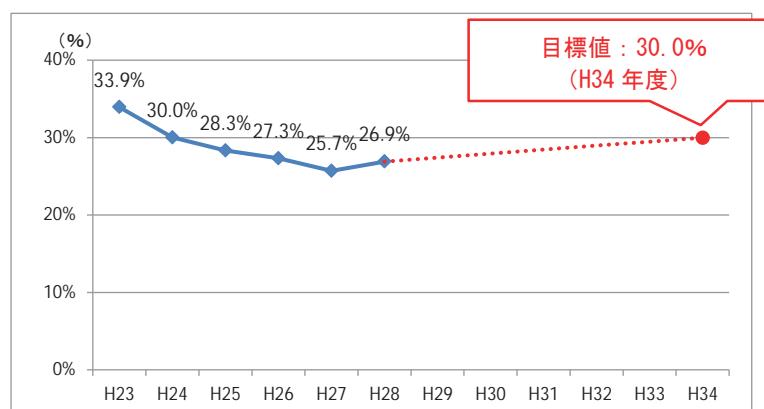
◆目標4の達成状況を測る指標として、公共交通での市内観光入込客の大半を占める西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合を設定します。

西鉄電車利用の観光入込客の柳川駅から市内観光地への移動は主に公共交通によることになりますから既存公共交通の観光移動への活用、利用促進の効果は西鉄電車利用の観光入込客の割合に反映されるものと考えられます。

平成23年以降、西鉄電車利用の観光入込客数はほぼ横ばいで推移していますが、その割合は低下傾向にあります。このような状況を踏まえて、目標値は西鉄電車利用の観光入込客の割合を平成24年の値に相当する割合まで増加することを目指して設定します。

数値指標		単位	現況値	目標値（H34年度）
数値指標				
西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合※	%	26.9 (平成28年度)	30.0	

※柳川市観光動態調査において、観光入込客数に対する西鉄電車利用者数の割合です。



▲西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合の目標値設定根拠

## IV. 持続可能な公共交通

### 目標 5. 公共交通の持続可能性の確保

公共交通の持続可能性の確保に向けて、利用促進に加えて、運行効率性の低い路線の見直しやコミュニティバスの財政面の改善等を通じた公共交通の持続可能性の向上を図ります。

◆目標 5 の達成状況を測る指標①として、財政負担を行っている路線バス（沖新線及び瀬高柳川線）の年間利用者数を設定します。

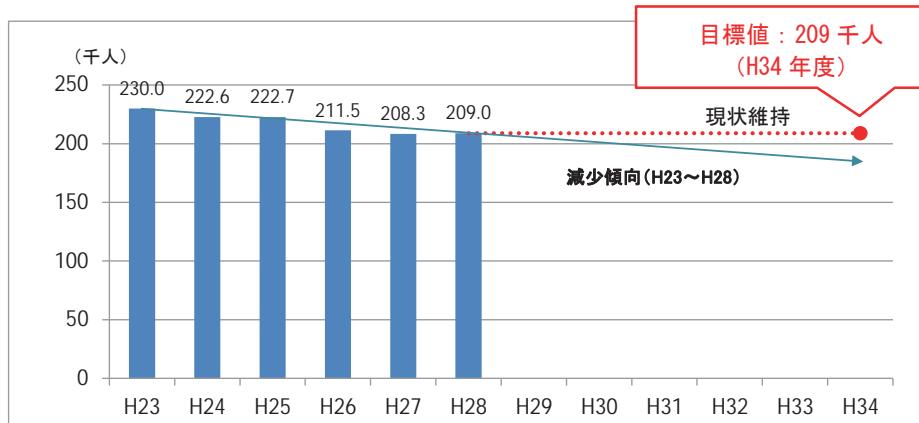
路線バスの利用者数の増減は財政負担額に影響することから、公共交通の持続可能性の確保にとって重要な指標となります。

目標値は、平成 23 年度以降減少傾向にあることから、情報提供等による利用促進や観光利用の拡大等の取り組みの実施により、現状を維持することを目指して設定します。

#### 数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
財政負担を行っている路線バスの年間利用者数*	千人	209.0 (平成 28 年度)	209.0

\*市が財政負担をしている路線バスの沖新線及び瀬高柳川線の年間利用者数の合計です。



▲財政負担を行っている路線バスの年間利用者数の目標値設定根拠

◆目標 5 の達成状況を測る指標②として、コミュニティバスの年間利用者数を設定します。

(目標 2 の指標の再掲)

コミュニティバスの運行には財政負担を行っており、その利用者数の増減は財政負担額に影響することから、公共交通の持続可能性の確保にとって重要な指標となります。

目標値はコミュニティバスの再編による利便性の向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、増加率は減少するものの今後とも増加傾向を維持することを目指して設定します。

#### 数値指標 ②

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
コミュニティバスの年間利用者数*	人/年	26,222 (平成 28 年度)	30,000

\*平成 30 年度以降、コミュニティバスと無料福祉循環バスとは統合する計画であるため、目標値は無料福祉循環バスとの統合後の利用者数としています。

## 目標6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

公共交通に関する情報や運営状況に関する情報の提供、モビリティ・マネジメントの実施などを通じて、市民の“利用して地域公共交通を支える”という意識の醸成を図り、行政・交通事業者・市民が一体となって地域公共交通の確保に取り組む体制づくりを進めます。

◆目標6の達成状況を測る指標①として、市内の公共交通に対する市民の満足度を設定します。市内の公共交通やその運営状況を正しく理解してもらうことは、公共交通の利便性などの改善の取組みとあいまって公共交通に対する満足度を高めるものと考えられます。

目標値は、公共交通に関する情報や運営状況に関する情報の提供、モビリティ・マネジメントの実施などを通じて、市内の公共交通に対する市民の満足度を現状より高めることを目指して設定します。

数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値（H34年度）
市内の公共交通に対する市民の満足度*	%	12.7 (平成28年度)	21.0

\*市民アンケート調査において、「市内の公共交通」について、「とても満足している」と「ある程度満足している」と評価した人の割合の合計です。

市内の公共交通に対する市民の満足度	
とても満足している	0.8%
ある程度満足している	11.9%
どちらでもない	40.7%
あまり満足していない	16.2%
満足していない	11.6%
無回答	18.8%

「どちらでもない」の回答者のうち2割を「とても満足」又は「ある程度満足」に転換

N=886

▲市内の公共交通に対する市民の満足度の目標値設定根拠

◆目標6の達成状況を測る指標②として、調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合を設定します。公共交通を利用しない理由のうち「そもそも公共交通の利用を考えたことがない」が最も多くを占めていることから、調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合は利用意識の醸成を反映するものと考えられます。

目標値は、情報の提供やモビリティ・マネジメントの実施などを通じて、公共交通を利用した人の割合が相対的に低い高齢者の利用促進を図ることにより、利用したことのある人の割合を高めることとして設定します。

数値指標 ②			
数値指標	単位	現況値	目標値（H34年度）
調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合*	%	31.0 (平成28年度)	35.0

\*市民アンケート調査において、調査前1か月間に公共交通を「利用した」と回答した人の割合です。

\*設定した目標値は、65歳以上の高齢者で公共交通を利用した人の割合を10%高めたときの全体の割合に相当します。

◆目標6の達成状況を測る指標③として、モビリティ・マネジメントとして行う公共交通の「乗り方教室」に参加した小学生数を設定します。

小学校におけるモビリティ・マネジメントは児童自身に公共交通を知り、親しみを持つもらうことにより将来の利用者を育てるとともに、家庭に帰って自らの体験を話すことにより大人にもその効果を及ぼすことが期待できます。

目標値は、毎年度、路線バス沿線の7小学校において、1校平均40人を対象に「乗り方教室」を行うこととして設定します。

数値指標 ③			
数値指標	単位	現況値	目標値（H34年度）
「乗り方教室」に参加した小学生数*	人	122 (平成29年度)	280

\*市内の小学校において実施するバス・電車等の公共交通の「乗り方教室」に参加した小学生数の年度ごとの合計です。

\*現況値は、平成29年度に3校で行った「乗り方教室」への参加小学生数です。

## 7. 目標達成に向けた施策展開

## 7-1 取り組みの方向性

各計画の目標達成に向けた取り組みの方向性を以下のとおり定めます。

### 目標1)公共交通での市内外の移動の利便性の向上

- ①鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能の強化
- ②路線バスの維持・確保
- ③鉄道駅へのアクセスの環境の改善

### 目標2)ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

- ④利用しやすいコミュニティバスのネットワークへの再編

### 目標3)高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

- ⑤公共交通を利用しやすい環境の整備
- ⑥公共交通を利用しやすい運賃割引等の維持・導入

### 目標4)観光を支える公共交通の確保・充実

- ⑦公共交通情報と観光情報の一体的提供
- ⑧既存公共交通の観光移動への活用、利用促進

### 目標5)公共交通の持続可能性の確保

- ⑨運行効率性向上のための路線の見直し
- ⑩コミュニティバスの財政面の改善

### 目標6)市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

- ⑪公共交通のわかりやすい情報提供の充実
- ⑫地域公共交通に対する理解を通じた利用の促進
- ⑬地域公共交通の運営への地域住民等の参画

## 7-2 目標達成に向けた施策展開

目標の達成に向けて、以下のような施策を展開していきます。

【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上						
【施策①】 鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能の強化						
①目的						
<ul style="list-style-type: none"><li>福岡市、久留米市、大牟田市等との公共交通の主軸である西鉄天神大牟田線の機能強化を図り、市内外の通勤・通学等や市外からの観光入込の利便性の向上を図ります。</li></ul>						
②取り組み方針及び取り組み内容						
<ul style="list-style-type: none"><li>福岡方面への特急の増便の要望<ul style="list-style-type: none"><li>福岡方面への通勤・通学等の利便性を高めるため、朝の通勤・通学時間帯の福岡方面への特急の増便を交通事業者に働きかけます。</li></ul></li><li>単線区間の複線化の促進<ul style="list-style-type: none"><li>西鉄天神大牟田線の久留米駅～柳川駅間に単線区間があり、複線化により、より優れた速達性や増便など鉄道利用の利便性を高めるため、「西鉄天神大牟田線久留米-大牟田間複線化促進期成会」の活動等を通じて、福岡県等関係機関や鉄道事業者に対して複線化の要望を継続して行います。</li></ul></li></ul>						
③実施主体とスケジュール						
取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
福岡方面への特急の増便の要望	柳川市	継続実施				
単線区間の複線化の促進	柳川市	継続実施				

**【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上**

**【施策②】 路線バスの維持・確保**

**①目的**

- 西鉄天神大牟田線と組み合せた利用、あるいは地域間幹線バスとして市内外の移動を担うとともに、広域拠点である柳川駅周辺へアクセスする市内交通幹線として重要な役割を果たす路線バスの維持・確保を図ります。

**②取り組み方針及び取り組み内容**

- 鉄道と乗継しやすいダイヤの設定
  - 鉄道のダイヤ改正に当たっては、鉄道・バスの事業間での連携を密にし、柳川駅で西鉄天神大牟田線（特急）と乗り継ぎしやすい路線バスのダイヤ変更を円滑に行います。
- ニーズの多い施設への乗り入れ
  - 路線バスについて、利用者の利便性の向上と大川市の国際医療福祉大学や市民文化会館（仮称）など、新規需要の獲得による持続可能性の確保のため、ニーズの多い施設にアクセスする運行ルートへの見直しを検討し、実証運行とその効果を検証したうえでルート変更の可否を決定します。
- 路線バス車内における情報提供による利用促進
  - バス車内における鉄道との乗継ダイヤのチラシ配布や利用促進ポスターの掲示などわかりやすい情報提供を通じて利用促進を図ります。（施策⑪関連）

**③実施主体とスケジュール**

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
鉄道と乗継しやすいダイヤの設定	交通事業者					
		<b>ダイヤ改正に際して随時実施</b>				
ニーズの多い施設への乗り入れ	柳川市 交通事業者	検討	実証 運行	評価	(実施の場合) 見直しルートで運行	
路線バス車内における情報提供による利用促進	柳川市 交通事業者	実施	<b>随時実施状況を確認</b>			

## 【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

### 【施策③】 鉄道駅へのアクセス環境の改善

#### ①目的

- 柳川駅など西鉄天神大牟田線の駅へのアクセス環境の改善を通じて、鉄道利用による市域外への移動の利便性の向上を図ります。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 西鉄柳川駅におけるタクシー乗り場への移動の快適性の向上
  - 駅舎からタクシー乗り場への上屋の整備を検討し、雨天時のタクシー乗り場への移動の快適性の向上を図ります。
- 駅周辺の駐車場・駐輪場の整備
  - 西鉄天神大牟田線の柳川駅等の周辺における駐車場・駐輪場の整備を促進し、鉄道駅へのアクセスの利便性の向上を図ります。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
西鉄柳川駅におけるタクシー乗り場への移動の快適性の向上	柳川市 交通事業者	検討・調整		整備		
駅周辺の駐車場・駐輪場の整備	柳川市 交通事業者	検討	必要に応じて検討・整備			

## 【目標 2】 ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

### 【施策④】 利用しやすいコミュニティバスのネットワークへの再編

#### ①目的

- 高齢者の買い物や通院その他の日常生活の移動を支えるコミュニティバスのネットワークの見直しにより、より利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- コミュニティバスネットワークの再編
  - 無料福祉循環バスとの統合や運行ルートの見直し等の運行効率化により、運行曜日の拡大や増便など、コミュニティバスによる日常生活の移動の利便性の向上を図ります。
  - コミュニティバスの運行ルートは、各地域での利用状況を踏まえるとともに、ニーズの多い施設にアクセスできるよう配慮して設定します。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
コミュニティバスネットワークの再編	柳川市	検討・調整	再編運行		評価・検証を継続的に実施	

**【目標 3】 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備**

**【施策⑤】 公共交通を利用しやすい環境の整備**

**①目的**

- バスを待つ環境の改善やバスの運行情報の提供等により、バスを待つ負担感や不便感の軽減を図るとともに、高齢者も利用しやすいバス車両の導入を進め、バスの利用環境を改善します。

**②取り組み方針及び取り組み内容**

- 路線バス・コミュニティバスのバス停のベンチ等の整備
  - 路線バスやコミュニティバスの利用者の多いバス停について、ベンチの設置等によりバスを待つ環境の改善を図ります。  
バス停周辺の状況から、バス停にベンチの設置が困難な場合は、近隣の店舗等の協力を得て軒先でバスを待つことができる環境を確保することを含めて検討します。
- ICT を活用した情報提供によるバスを使いやすい環境の整備
  - 簡易バスロケーションシステムの導入や公共交通データのオープン化によるウェブによるバスの運行案内の提供など、ICT を活用したバスの運行情報提供によりバス利用の不便感を軽減します。
- 低床バス車両の導入促進
  - 路線バスに高齢者が利用しやすい低床バス車両の導入を促進します。導入する車両はノンステップバス又はワンステップバスとしますが、できるだけノンステップバスとするよう努めます。

**③実施主体とスケジュール**

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
路線バス・コミュニティバスのバス停のベンチ等の整備	柳川市 交通事業者 地域（住民）	検討・調整				
ICT を活用した情報提供によるバスを使いやすい環境の整備	柳川市 交通事業者	検討	準備	実施		
低床バス車両の導入	交通事業者	順次導入				

### 【目標3】 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

#### 【施策⑥】 公共交通を利用しやすい運賃割引等の維持・導入

##### ①目的

- 運賃割引等により、高齢者や家族での公共交通による外出の運賃負担の軽減を図り、経済面から公共交通の利用環境の改善を図ります。

##### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 高齢者を対象とする公共交通運賃の割引制度の継続
  - 65歳以上の高齢者を対象とした西鉄電車・バスが利用できる割引定期券である西鉄「グランドパス65」を継続するとともに、その周知・PRを図っていきます。
- 運転免許を自主返納した高齢者に対する支援の充実
  - 運転免許を自主返納した高齢者に対する交通事業者による運賃割引制度（西鉄グランドパス65の運転免許証返納割、堀川バスの65歳以上運転免許証返納者へのバス運賃割引）や柳川市によるタクシーチケット助成の支援を継続するとともに、タクシー会社も高齢者運転免許証自主返納割引を実施します。
  - 交通事業者や市による運転免許証自主返納高齢者の公共交通利用支援策の周知・PRを図り、公共交通の利用促進を図ります。
- 公共交通利用の運賃負担を軽減する運賃割引制度の導入
  - 家族やグループでの外出の運賃負担を軽減する家族割引やグループ割引（4枚切符等）などの運賃割引の導入や企画割引切符の充実などを検討し、運賃負担の軽減を図ります。

##### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
高齢者を対象とする公共交通運賃の割引制度の継続	柳川市 交通事業者					
運転免許を自主返納した高齢者に対する支援の充実	柳川市 交通事業者					
公共交通利用の運賃負担を軽減する運賃割引制度導入	交通事業者					

## 【目標4】 観光を支える公共交通の確保・充実

### 【施策⑦】 公共交通情報と観光情報の一体的提供

#### ①目的

- 観光情報の提供とあわせて公共交通の情報を提供することにより、公共交通を利用した観光を促進します。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 観光情報を掲載した公共交通マップの作成・提供
  - 柳川市の観光施設が集積する沖端地区等への西鉄柳川駅からのアクセスや地区内周遊の公共交通情報（バス路線、時刻表等）を観光情報と一緒に掲載した公共交通マップ等を作成し、市及び観光協会のホームページで提供するとともに、西鉄柳川駅構内の観光案内所等で配布します。
  - 観光パンフレット等の観光情報の提供にあたっては、路線バスで行ける観光施設については公共交通によるアクセス情報をあわせて掲載するように努めます。また、季節の祭りやイベントについても、柳川駅等から祭りの会場への公共交通での行き方を具体的に案内し、公共交通での来場を促します。
- 西鉄柳川駅構内からの公共交通へのスムーズな誘導及び観光スポットにおける公共交通の案内・誘導サインの充実
  - 駅構内からの公共交通のスムーズな誘導及び沖端地区等の観光施設において、近くのバス停への案内・誘導サイン表示等を充実し、バス利用のわかりやすさの向上を図ります。
- 外国人観光客の移動を支援する案内・情報提供の充実
  - 駅や観光施設における公共交通の乗り場案内や路線バス車内における行き先やバス停案内の多言語化やピクトグラム表示を促進し、外国人観光客の公共交通での移動を支援します。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
観光情報を掲載した公共交通マップの作成・提供	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者					
		検討・作成		情報提供		
西鉄柳川駅構内からの公共交通へのスムーズな誘導及び観光スポットにおける公共交通の案内・誘導サインの充実	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者					
		検討	順次実施			
外国人観光客の移動を支援する案内・情報提供の充実	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者					
		検討	順次実施			

#### 【目標4】 観光を支える公共交通の確保・充実

##### 【施策⑧】 公共交通の観光移動への活用、利用促進

###### ①目的

- 西鉄柳川駅から沖端地区等への公共交通でのアクセスを確保し、西鉄天神大牟田線を利用する観光入込客の観光移動の利便性向上を図ります。

###### ②取り組み方針及び取り組み内容

###### ● 沖新線の観光利用の促進

- 路線バスの沖新線は通勤・通学移動のほか、観光移動の手段としての役割を担っています。柳川駅から沖端地区等へのアクセスの確保の観点から路線の充実を図り、観光利用を促進します。

###### ● 広域観光へのタクシーの利用促進

- 柳川市には、沖端地区のほか、バス路線から離れた観光資源もあり、タクシーによる広域観光周遊の情報提供などにより、広域観光へのタクシーの利用促進を図ります。

###### ● 佐賀空港リムジンタクシーの強化

- 西鉄柳川駅や御花、各庁舎と佐賀空港を結ぶ佐賀空港リムジンタクシーの強化を図り、観光振興の促進、市民の広域移動の支援を図ります。
- 公共交通及び観光の両面から佐賀空港リムジンタクシーに関する情報を提供し、その周知を図ります。

###### ● レンタルサイクルの導入

- 市内の観光周遊を支える移動手段としてレンタルサイクルの導入を検討し、鉄道、路線バスと一緒にした観光周遊ネットワークづくりを支援します。

###### ●水上交通の導入

- 市民会館の建て替えに際し、柳川駅と市民文化会館（仮称）等の公的施設を結ぶ移動手段として、川下りの船等を活用した水上交通の導入を検討します。

###### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
沖新線の観光利用の促進	柳川市 交通事業者	検討	実施			
広域観光へのタクシーの利用促進	交通事業者	検討	実施			
佐賀空港リムジンタクシーの強化	交通事業者	検討	実施			
レンタルサイクルの導入	交通事業者等	検討		実施		
水上交通の検討	柳川市 事業者等	検討				

## 【目標5】 公共交通の持続可能性の確保

### 【施策⑨】 運行効率性向上のための路線の見直し

#### ①目的

- 無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合や西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直しにより、利用者の利便性の向上や運行効率化による持続可能性の確保・向上を図ります。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合（施策④と一体）
  - コミュニティバスネットワークの再編に合わせて、無料福祉循環バスはコミュニティバスと統合し、全体としての利便性の向上と運行の効率化を図ります。
- 西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直し
  - 利用が低迷する市内循環線について、運行効率化に向けて運行サービスの見直しを検討します。
- 交通事業者による利用促進の取り組み
  - 財政負担を行っている路線バスの沖新線及び瀬高柳川線については、利用者や沿線住民のニーズ把握とそれを踏まえたきめ細かなサービス改善を行うとともに、独自の利用促進イベントを実施するなど、交通事業者として利用促進の働きかけを行います。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合	柳川市	試行	統合			
西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直し	柳川市 交通事業者	検討	運行サービスの見直し			
交通事業者による利用促進の取り組み	交通事業者		利用促進等の取り組み実施			

## 【目標5】 公共交通の持続可能性の確保

### 【施策⑩】 コミュニティバスの財政面の改善

#### ①目的

- 地域や市民と協働のもとコミュニティバスの財政面を改善し、コミュニティバスの持続可能性の確保・向上を図ります。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- コミュニティバスの運賃改訂
  - 今後も持続的にコミュニティバスを運行し、日常生活における移動を支えていくために、現行の運賃（1回利用につき100円）の見直しを検討します。
- バス車両を活用した広告収入の見直し
  - 路線バスやコミュニティバスにおける、車内広告や車内チラシ等による収入増加を図ります。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
コミュニティバスの運賃改訂	柳川市	検討	実施			
バス車両を活用した広告収入の見直し	柳川市 交通事業者		実施			

## 【目標6】 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

### 【施策⑪】 公共交通のわかりやすい情報提供の充実

#### ①目的

- 柳川市内の公共交通に関する情報をわかりやすく提供することやバス利用への理解を深め、公共交通の利用促進を図ります。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 公共交通ガイドブックの作成・情報提供
  - 柳川市内の各公共交通機関の基礎的情報、路線バス・コミュニティバスの路線図やダイヤ、鉄道と路線バスの乗り継ぎダイヤ、利用方法などをまとめて示した公共交通ガイドブックを作成し情報提供を行います。
- コミュニティバス再編啓発マップの作成・情報提供
  - コミュニティバスの再編に合わせ、変更点や再編後のダイヤなどをまとめた啓発マップを作成し、周知及び利用促進を行います。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
公共交通ガイドブックの作成・情報提供	柳川市 交通事業者	検討・作成			情報提供	
コミュニティバス再編啓発マップの作成・情報提供	柳川市	検討・作成		情報提供		

## 【目標6】 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

### 【施策⑫】 地域公共交通に対する理解を通じた利用の促進

#### ①目的

- モビリティ・マネジメント※施策や利用促進イベントの実施により、公共交通に対する理解を高め、公共交通の利用を促進します。

※モビリティ・マネジメント（Mobility Management、略称 MM）とは、市民や組織・地域のモビリティ（移動状況）が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や歩行などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていくための、コミュニケーション施策を中心とした取り組み。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- MMアンケートや出前講座等の実施
  - アンケート調査等を実施し、個人属性や沿線地域の実情に応じた方法により公共交通の必要性についての理解を促し、公共交通の利用を働きかけていきます。
  - 「公共交通の利用は考えたことがない」人が多いことから、「出前講座」や「乗り方教室」などを通じて、公共交通の必要性や公共交通は「使ってみれば意外と便利」なことを直接働きかける取り組みを行っていきます。
- 利用促進イベントの実施
  - 鉄道の日、バスの日などのイベントを活用し、子どもの頃から公共交通に対する親しみや意識を高めていくよう働きかけていきます。
- ワークショップの実施
  - 市内の小学生や高齢者を対象にワークショップを実施し、参加者が主体的に考え、意見交換することにより、公共交通に対する関心や理解を高め、公共交通の利用促進につなげていきます。
  - 市内小学生を対象にバスラッピングデザインを創作するワークショップを実施し、バスに愛着を持ってもらい、公共交通に対する意識を高めていきます。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
MMアンケートや出前講座等の実施	柳川市 交通事業者等	検討	実施			
利用促進イベントの実施	柳川市 交通事業者等		継続実施			
ワークショップの実施	柳川市 交通事業者等		実施			

## 【目標⑥ 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

### 【施策⑬】 地域公共交通の運営への地域住民等の参画

#### ①目的

- 地域公共交通の利用促進や改善の検討に地域住民が取り組んでいけるように、地域公共交通の運営に地域住民等が参画するための仕組みや体制づくりを進めます。

#### ②取り組み方針及び取り組み内容

- 地域公共交通の運営状況等の情報提供
  - 広報紙などにより、地域公共交通の利用状況、収支や財政負担額等の運営状況に関する情報提供により、市民の地域公共交通の運営についての関心と理解を高めます。
- コミュニティバス運行見直し基準・運用方法の設定
  - コミュニティバスの利用状況等に応じた適切な運行を確保するため、運行の見直し基準や基準を下回った場合の対応方法を検討し、市民との共通認識を形成します。
- 地域における自主運営組織の検討
  - 各地域の実情に応じた移動手段の確保を行うため、地域による自主運営組織づくりを検討します。

#### ③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
地域公共交通の運営状況等の情報提供	柳川市 交通事業者	実施				
コミュニティバス運行見直し基準・運用方法の設定	柳川市 交通事業者 地域（住民）	検討	見直し基準の運用			
地域における自主運営組織の検討	柳川市 地域（住民）	検討				

## 8. 評価・検証と改善の考え方

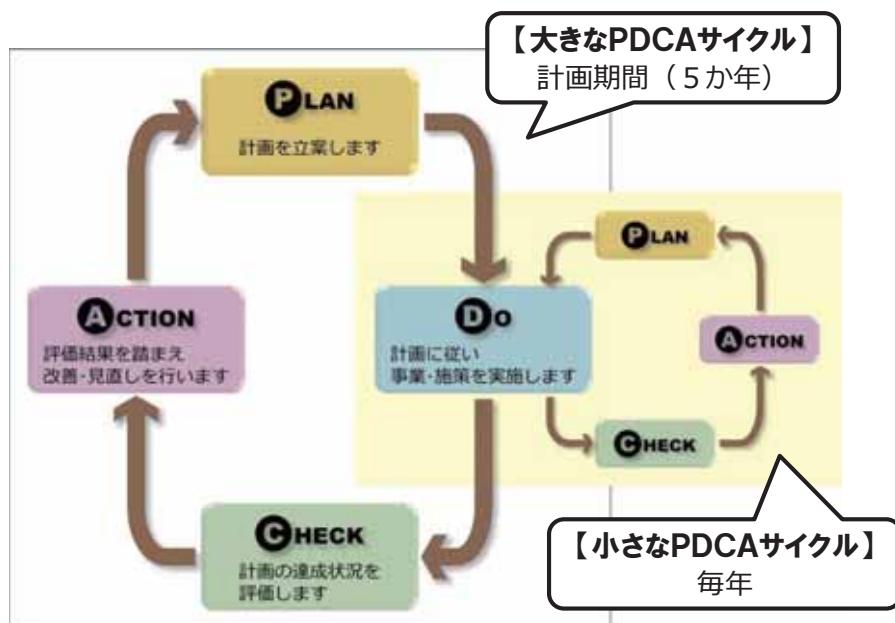
## 8-1 PDCAサイクルの構築

5か年の計画期間全体を対象とした「大きなPDCAサイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCAサイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

なお、計画の達成状況の評価（Check）にあたっては、公共交通の利用状況などは社会情勢等に大きく影響されることから、利用者数の増減や数値目標の達成状況の確認に加えて、外的要因も含めた分析を行い、改善策に反映させていきます。

▼ P D C A サイクルによる継続的な改善

	対象期間	概 要
大きな PDCA サイクル	計画期間 (5か年)	○ 対象期間全体を通した事業の実施状況や数値目標の達成状況、事業の実施による効果、残された課題などを整理・分析し、次期計画に反映
小さな PDCA サイクル	毎 年	○ 事業の実施状況などを整理するとともに、利用状況などを継続的にモニタリングし、事業内容の修正やスケジュールの見直しなどを実施



▲ P D C A サイクルの構築イメージ

## 8-2 評価の実施方法

5か年の計画期間全体を対象とした「大きな PDCA サイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さな PDCA サイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

数値指標による評価の実施方法は、次のとおりです。

### ▼評価の実施方法

目標	数値指標	収集するデータ	収集方法	実施主体	実施時期
目標 1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上	西鉄天神大牟田線の1日平均利用者数	西鉄天神大牟田線の市内各駅の1日平均利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
	路線バスの年間利用者数	路線バス各路線の利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標 2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現	コミュニティバスの年間利用者数	コミュニティバス各ルートの利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標 3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備	高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価	公共交通に対する市民の評価	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	高齢者で週1日以上外出している人の割合	公共交通の利用状況	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数	コミュニティバス各ルートの「水の郷」バス停利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標 4. 観光を支える公共交通の確保・充実	西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合	交通手段別観光入込客数(柳川市観光動態調査)	市による集計	柳川市	年1回
目標 5. 公共交通の持続可能性の確保	財政負担を行っている路線バスの年間利用者数	路線バス各路線の利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
	コミュニティバスの年間利用者数	コミュニティバス各ルートの利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標 6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成	市内の公共交通に対する市民の満足度	公共交通に対する市民の評価	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合	公共交通の利用状況	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	「乗り方教室」に参加した小学生数	各小学校での「乗り方教室」に参加した小学生数	市による集計	柳川市	年1回